

しまね学習支援プログラム

家庭教育支援を行う人のための

# 親学

## プログラム2

【実施版】

親同士が  
つながる

“親の力”  
“地域の力”が  
高まる

親と  
地域が  
つながる

親の  
社会的役割に  
気づく

みんなで  
楽しく  
語り合う

島根県教育委員会



## はじめに

少子化や核家族化、価値観の多様化や経済状況の変化等による急激な社会の変化により、現代は「家庭教育が困難な社会」と言われています。

このような背景のもと、島根県教育委員会では、親同士の交流をとおして、“親としての役割”や“子どもとのかかわり方”の気づきを促す『親学プログラム』の開発・普及を図り、同時にプログラムを進行できる『親学ファシリテーター』の養成を行ってきました。

また、平成25～27年度の3ヵ年で、喫緊の社会問題である「いじめ」や「児童虐待」の未然防止に対応した親向けプログラム（以下、『親学プログラム2』）の開発に取り組んできました。

このたび、島根大学の肥後先生にご指導を仰ぎながら、ワーキンググループで検討を重ね、開発した学習プログラムを『親学プログラム2「実施版」』として、発行することに至りました。

現行の『親学プログラム』は、“わが子との関係性における家庭内での親の学び”に重点を置いたのに対し、『親学プログラム2』は、“地域社会との関係性における家庭外での親の学び”に、重点をおいています。この2つのプログラムをセットにして活用することで、気づきによる親自身の学びに加え、親同士の関係づくりや地域全体で家庭教育を支援するネットワークづくりにも役立つものと考えています。

2つのプログラムを活用した家庭教育支援が県内の保育所、幼稚園、小中学校、公民館等の社会教育施設、また、子育て支援センター、子育て関係のNPO法人、子育てサークル、企業等、様々な場で行われ、地域社会全体で家庭教育支援の機運がさらに醸成されることを期待しています。

おわりに、本プログラムの開発・普及にあたり、ご指導ご支援を賜りました肥後先生をはじめ、関係機関のみなさま方に心からお礼を申し上げます。

平成27年10月

本冊子で使用している「親」の表記は、“子の養育を行う者”を指して用いています。

## 発刊に寄せて

### —親学，それは“やり残しの自分”を育てるプログラム—

今から約 35 年前，心理学者エリクソンは「現代人にとって最大の心の危機は，自分たちの子どもを生み育て，自分たちの文化や価値，そして生命を，次の世代に託していく，そのような心の営みに大きな価値を見出すことができず，むしろそうした営みを負担に思ったり苦痛に感じたり，そのような役割を回避しようとする心理的な動向が生まれていることだ」と述べました。（小此木啓吾「乳幼児精神医学のすすめ」（別冊発達 9，1989 年）による）

私たちおとなが，子育てという形で子どもと共に生きられるのは，長い人生の中では，ほんの限られた時間にすぎません。その「重なるの時間」が何よりの喜びであった時代は，エリクソンの言うように過ぎ去ってしまったのでしょうか。子育てという「重なるの時間」の充実こそが，子どもの発達の可能性を，つまり未来を，次の時代を，命の繋がりを，根底から支えているものです。同時にその充実は，おとなになった私たち自身の「今の成長」を保証するものでもあります。私たちはみんな，子ども時代の「やり残しの自分」を抱えておとなになります。子育てのプロセスは，そのやり残した自分の姿を子どもの中に見出し，それと出会うことで，もう一度，自分のやり直し，育て直しができる日々でもあるのです。

この「親学プログラム 2」は子育てという重なるの時間の充実のために作られました。いじめや児童虐待という目立つテーマを取り上げているために，少し取り付き難い感じがするかもしれません。けれども中身をご覧いただければおわかりのように，その根底に流れているものは「さまざまな人の在り方（異なる意見や考え方，態度や行動など）を理解しようとする事」，そして「人（よその子）も自分（わが子）も等しく大切にしようとする事」です。子育ての時期に，一人の親として，このような意味での「自分のやり直し」を多くの人が経験しておくことは，高齢化の進む中，お互いがわかり合い支え合いながら暮らしやすい地域社会を築いていくことにもつながるのではないのでしょうか。本プログラムが多くの方々に活用され，よりよい地域社会の礎を作る社会教育プログラムとして発展していくことを心から願っています。

平成 27 年 10 月

開発アドバイザー 島根大学教育学部 教授 肥後 功一



# 目次

■学習プログラム 一覧	1
■『親学プログラム2』をご利用いただくにあたって	3
Ⅰ 『親学プログラム2』について	3
Ⅱ 『親学プログラム2』の進め方	7
Ⅲ 『親学プログラム2』を効果的に実施するために	9
Ⅳ 『親学プログラム2』の実施にあたっての配慮事項	13
Ⅴ 配慮が必要なプログラム	17
■ 学習プログラム	
1 様々なつながりをつくるプログラム	
1-① みんなでつながろう（親子一緒に）	20
1-② 自分再発見！	24
1-③ あったか言葉が宝物	27
1-④-① 先生といっしょに	30
1-④-② 先生といっしょに	33
1-⑤ みんなで子育て	36
2 親の社会的役割について考えるプログラム	
2-① こんな時、どうする？	39
2-② “オトナ”の役割を考える	41
2-③ ○○地区の子どもたちに示したい大人のふるまい	44
2-④ ○○地区の子どもは、こんな子どもに育てほしい	48
2-⑤ 幸せってなんだろう	51
3 いじめ予防について考えるプログラム	
3-① われわれ大人にできること	53
3-② いじめがおきない環境づくりのために	56
3-③ SOSを見逃さない	60
3-④ ネットいじめから子どもを守る	63
3-⑤ もし、いじめがおこったら	66
4 児童虐待予防について考えるプログラム	
4-① すてきな子育て	70
4-② 子どもに届けよう、あなたの思い	73
4-③ こんな時、わたしなら	77
4-④ 子どもの笑顔と未来のために	84
4-⑤ 「あたたかい眼差しを」ー虐待から子どもを守るー	90
■ アイスブレイク資料	94
■ 参考資料	113
■ 各委員会名簿	



# 学習プログラム一覧

## 1 様々なつながりをつくるプログラム

No.	プログラム名	対象となる親					標準時間(分)	ワークショップの手法	学習のねらい	ページ
		乳児	幼児	小学生(低)	小学生(高)	中学生				
①	みんなでつながろう(親子一緒に)				○	○	60	コミュニケーションワーク	コミュニケーションワークを体験することで、参加者同士の交流を深め、お互いの名前を覚えることで、みんながつながっていくきっかけとする。	20
②	自分再発見!	○	○	○	○	○	60	リフレーミング	活動を通して、自分の性格をふり返り、短所を強みとしてとらえ直すとともに、他人の良さを知り、つながりを深めるきっかけとする。	24
③	あったか言葉が宝物	○	○	○	○	○	50	カードワーク	自分の子どもについて、他者からの言葉かけでどのような気持ちになるかを考え、あたたかな子育て環境を育む言葉かけに気づく。	27
④	先生といっしょに		○	○	○	○	80	ラベルワーク	[年度もしくは学期の始めに]より良いクラスづくりのために「保育所・幼稚園・学校」(担任)と「家庭」(保護者)が協力してできることを考える。	30
⑤	みんなで子育て	○	○	○	○	○	60	ラベルワーク	学校・家庭・地域がつながって、地域のみんで子育てする理想の地域社会について話し合い、今後の子育てで大切にしたいことを考える。	36

## 2 親の社会的役割について考えるプログラム

①	こんな時、どうする?		○	○	○	○	50	即答フリップ方式 全員参加型 ディスカッション	子どもたちの具体的な生活場面の問いに対して、自分ならどうするかを考え、大人(親)としての社会的な役割に気づく。	39
②	“オトナ”の役割を考える		○	○	○	○	60	ランキング	子どもたちの具体的な生活場面を想定して、“わが子の場合”“知っている子の場合”“知らない子の場合”のかかわり方・しかり方を考え、比較することで、大人(親)としての社会的な役割に気づき、自分ができていることを考える。	41
③	〇〇地区の子どもたちに示したい大人のふるまい		○	○	○	○	60	カードワーク	地域の子どもたちに対しての大人のふるまいを考えることで、大人(親)としての社会的な役割に気づく。	44
④	〇〇地区の子どもは、こんな子どもに育てほしい		○	○	○	○	70	ランキング	地域(学校・保育所)のめざす子ども像について語り合うことで、さまざまな価値観にふれ、地域の一人の親としてできることを考える。	48
⑤	幸せってなんだろう	○	○	○	○	○	60	即答フリップ方式 全員参加型 ディスカッション	うれしかったことや日々の暮らしの中で感じる幸せについて意見交換することで、自分にとっての幸せとは何かを考える。	51

### 3 いじめ予防について考えるプログラム

No.	プログラム名	対象となる親					標準時間(分)	ワークシヨップの手法	学習のねらい	ページ
		乳児	幼児	小学生(低)	小学生(高)	中学生				
①	われわれ大人にできること	○	○	○	○	○	90	シミュレーションラベルワーク	いじめの問題を解決する上で、大人の役割が重要であることを知る。そして、いじめを予防するために自分自身ができることを考える。	53
②	いじめがおきない環境づくりのために	○	○	○			90	ラベルワークカードワーク	いじめがおきる要因や条件を考え整理したことをもとに、いじめがおきない環境づくりのため、親としてできることを考える。	56
③	SOSを見逃さない	○	○	○	○	○	80	ラベルワーク	子どもが発するSOSのサインにはどんなものがあるかを出し合い、整理して、そのSOSのサインを敏感に感じ取るため、親としてできることを考える。	60
④	ネットいじめから子どもを守る	○	○	○	○	○	60	ラベルワーク	ネットいじめの特徴やリスクを出し合い、ネットいじめの怖さについて理解するとともに、子どもたちを守るためにできることを考える。	63
⑤	もし、いじめがおこったら…	○	○	○	○	○	60	エピソード	わが子のまわりでいじめがおきていることがわかった時、いじめから子どもたちを守るためにできることを考える。	66

### 4 児童虐待予防について考えるプログラム

①	すてきな子育て	○	○	○	○	○	60	ラベルワーク	日々の子育ての中で、イライラすることやストレスを感じることもあるが、子育てのすてきな思い出を紹介し合う中で、楽しく子育てしていることとする意欲を高める。	70
②	子どもに届けよう、あなたの想い	○	○	○	○	○	75	ロールプレイ	いろいろな要因が複合的に絡み合うことで起きた親のイライラが高まる場面を役割演技し、その後、気持ちが落ち着いた場面で、想いを子どもにどのように伝えるか考え役割演技することで、子どもとのかかわりを考える。	73
③	こんな時、わたしなら…	○	○	○	○	○	70	エピソード	日常の中で親子のイライラが高まってしまったエピソードを聞き、その事例について考え、話し合い、自分を振り返ることで、子どもとのかかわりを考える。	77
④	子どもの笑顔と未来のために	○	○	○	○	○	80	ラベルワーク	児童虐待について専門家から話を聴くことによって、児童虐待とは何か、しつけと虐待と何が違うのか、なぜ起きてしまうのか等正しく学び、意見交換することで考えを深め、児童虐待予防に向け主体的に行動しようとする意欲を高める。	84
⑤	「あたたかい眼差しを」 -虐待から子どもを守る-	○	○	○	○	○	60	ビデオフォーラム	児童虐待についての概略と通告の義務についての理解を深めるとともに、児童虐待予防に主体的にかかわろうとする意欲を高める。	90

# 『親学プログラム2』をご利用いただくにあたって

## I 『親学プログラム2』について

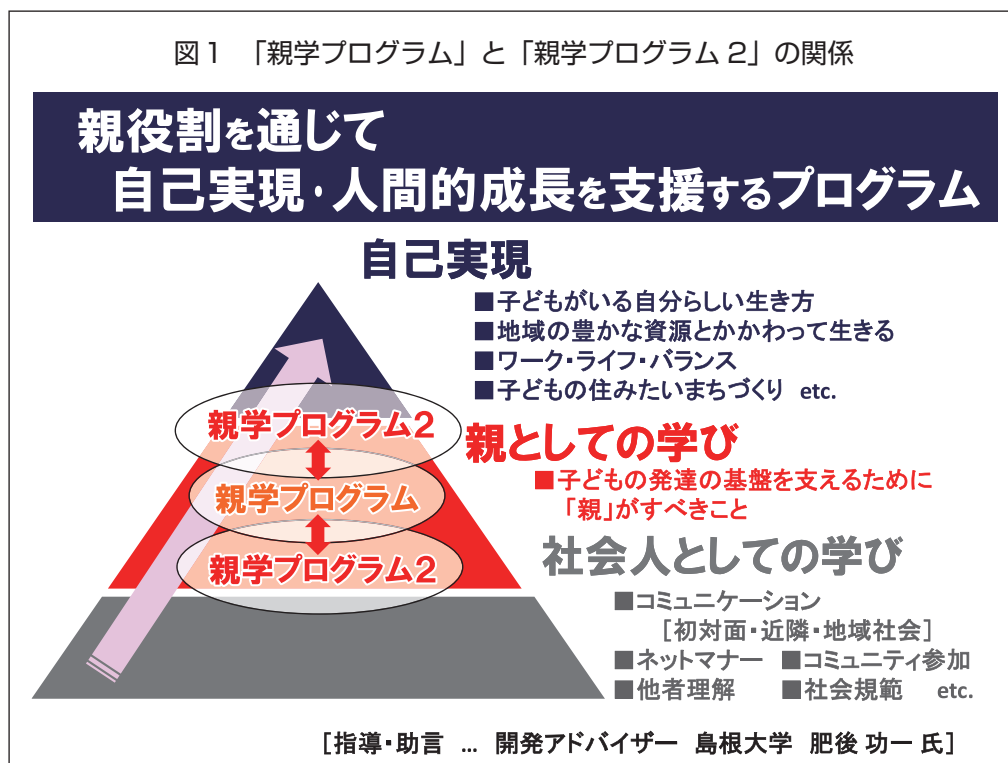
### 1 『親学プログラム』と『親学プログラム2』の関係

『親学プログラム』は、参加型学習の手法を用いた親同士の学び合いにより、「親としての役割」や「子どもとのかかわり方」についての気づきを促す学習プログラムです。

一方、『親学プログラム2』は、「いじめや児童虐待の予防」に対応した学習プログラムとなっています。そのため、従来の“楽しく”“互いに”“体験的に”学び合う参加型の学習スタイルを踏襲しながら、新しい手法も取り入れています。

そして、『親学プログラム』でねらう“親とわが子の関係性”における気づきだけでなく、「親の社会的役割」（他の親や地域・学校等とつながりをもって、子どもの育ちを支えること）にも気づくことができるように、『親学プログラム2』では、わが子だけでなく“他の子・他の親・学校・地域等との関係性”も考えることができるようにしています。また、子育てへの自信を高めたり、親であることの幸せについて考えたりするプログラムも充実させました。

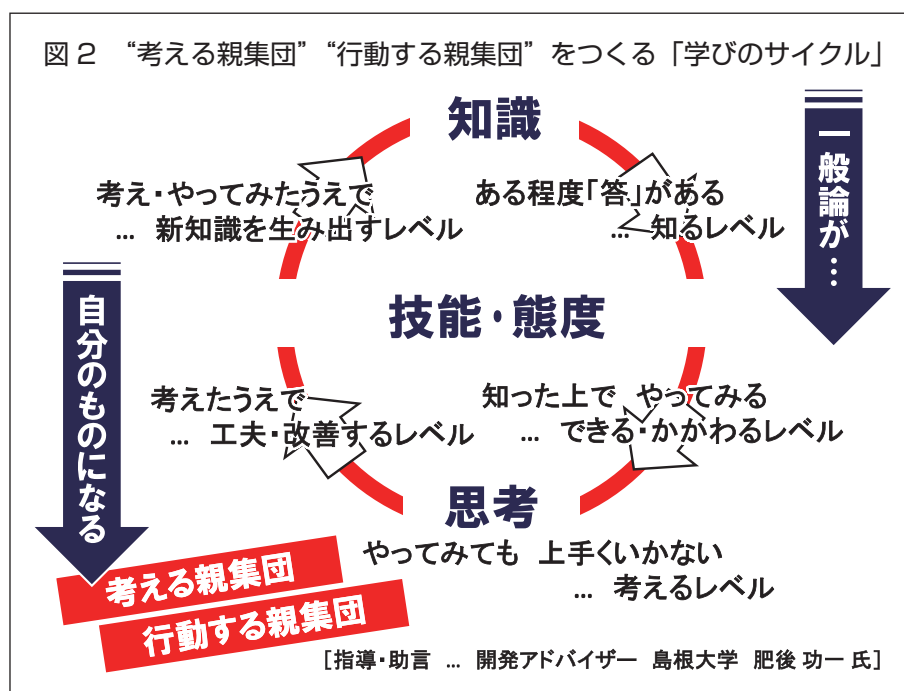
このように、『親学プログラム』と『親学プログラム2』は、それぞれの視点から親の役割・機能を支援するとともに、相互の気づきをより深めることで、親自身の人間的な成長を支援する学習プログラムとなっています。親自身の自己実現をめざす2つの学習プログラムの関係を図示すると、図1のようになります。



子育ては、知識や技能だけで対応できるものではありません。子育てにかかわる悩みや不安を解消する手立てとして、この2つの学習プログラムでは、親同士が悩みを語り合い、工夫・改善して取り組もうとする意欲を高める場を提供します。



『親学プログラム』と『親学プログラム2』が、“学んで”“やってみて”“さらに考えて”“やってみる”という、新たな学びを獲得する“学びのサイクル”を創出することで、いじめや児童虐待予防といった喫緊の課題にも対応できる“考える親集団”“行動する親集団”をつくる一助となることを期待しています。(図2参照)



## 2 『親学プログラム2』の対象

児童虐待を引き起こす要因として、子育て家庭の社会的な孤立や親の育児不安の増大が指摘されています。「厚生労働科学研究報告書」(2004)によれば、生後4ヵ月の子どもをもつ親の34.8%が、「近所にふだん世間話をしたり、赤ちゃんの話をしたりする人」が「いない」状況にあります。

一方、いじめについては、「いじめ追跡調査2010－2012」(2013国立教育政策研究所)によれば、小学校4年生から中学校3年生までの6年間で、「被害経験をまったくもたなかった児童生徒」「加害経験をまったくもたなかった児童生徒」とも「1割程度」であり、多くの児童生徒が入れ替わり被害や加害のどちらも経験している実態があります。

これらのことから、『親学プログラム2』は、「いじめや児童虐待はどこでも起こりうることであり、決して一部の問題ではない」という認識のもと、“すべての子育て層”を対象にした“一般的な予防的支援策”として開発しました。(図3参照)

『親学プログラム2』の活用により、いじめや児童虐待の予防につながる“親の力”“地域の力”を育成したいと考えています。

※「すべての子育て層」には「イエローゾーン」や「レッドゾーン」の親も含まれますが、『親学プログラム2』は、すでに起きてしまった深刻な問題に対応するものではありません。一部の学習プログラムについては、問題を抱えている親の参加が想定される場合、適切なフォロー体制を整えておくなどの入念な準備が必要です。

図3 『親学プログラム2』の対象



### 3 『親学プログラム2』の構成

『親学プログラム2』は、以下の3つの柱立てにより学習プログラムを構成しています。(図4参照)

#### ① 「様々なつながりをつくる」

いじめや児童虐待の発生を予防するために、子育て家庭の孤立防止のための様々なつながりづくりが求められています。そこで『親学プログラム2』においては、“親同士のつながり” “親と学校等とのつながり” をつくる場を提供することとしました。

“親同士のつながり” をつくることは、現行の『親学プログラム』においても副次的な効果として期待されていましたが、ここでは、さらに発展させて、“親同士がお互いを認め合い・支え合える関係づくり” に資する学習プログラムを開発しています。

また、いじめ問題の発生・深刻化を防ぐために“親と学校等が信頼し合い協力できる関係” をつくるきっかけとなる学習プログラムや“地域の子どものつながり” について考える学習プログラムも、この柱の中に含んでいます。

#### ② 「親の社会的役割について考える」

この柱は、1つ目の柱で効果が期待されている“様々なつながり” についての気づきを基盤として、“地域の子どもたちの育ちを支えるために、親（大人）として何ができるのか” を考える学習プログラムです。

先にも述べたように、いじめや児童虐待はどこにでも起こりうる社会的な問題であり、“親とわが子の関係性のみでは予防できない” “当事者だけでは解決できない” 問題でもあります。

これらの予防・解決のために、親が“わが子との関係性における親の役割” を越えて、“親の社会的役割(親が他の親や地域・学校等とつながりをもって子どもたちの育ちを支えること)” を果たすことの重要性に気づき、地域ぐるみで子育てに取り組もうとする意識や意欲を高めたことを考えました。

ここでいう“子どもたち”には、もちろん“わが子”も含まれています。この柱の学習プログラムは、主に“わが子以外の子ども”について考える内容になっていますが、“わが子以外の子ども”について考えることは、ふり返って“わが子”のことを考え直す機会になると考えています。

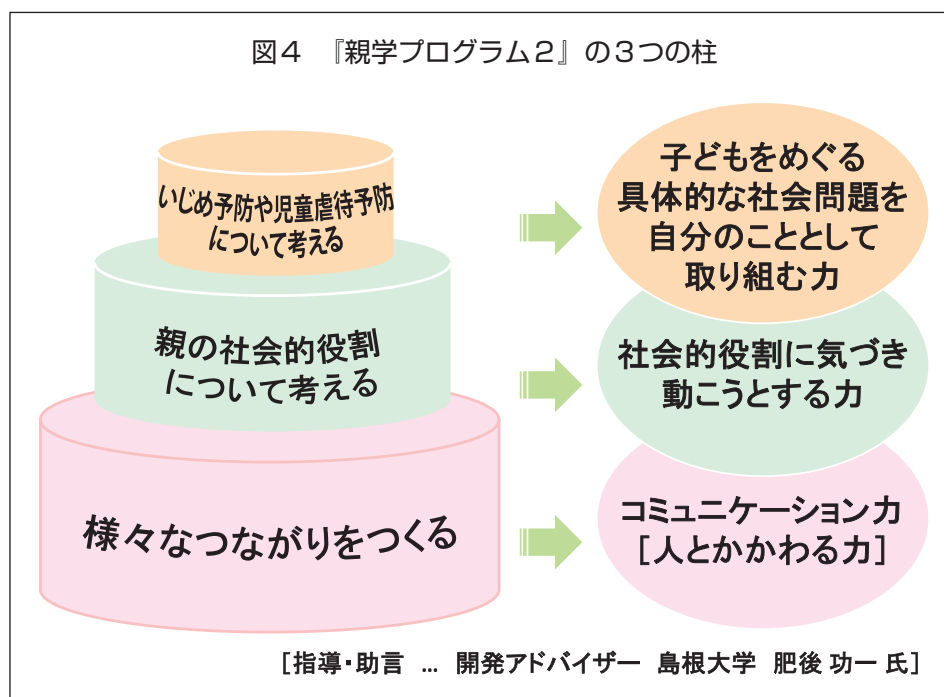
### ③ 「いじめ予防や児童虐待予防について考える」

この柱は、いじめ予防や児童虐待予防を直接的なテーマとし、「いじめ予防について考えるプログラム」と「児童虐待予防について考えるプログラム」の2つから構成しています。

いじめや児童虐待の予防にあたっては、それらについて誰もが正しく理解しておく必要があります。「いじめは子どもや学校の問題」「児童虐待は特別な家庭の問題」と捉えられがちですが、そのような狭い認識は問題の解決を妨げるばかりか、さらに深刻化させる場合もあります。

ここでは、正しく共通理解した上で、“いじめや児童虐待を防ぐため・深刻化するのを防ぐために何ができるのか”“いじめや児童虐待が起きたときに何ができるのか”を考える学習プログラムを用意しました。

『親学プログラム2』の目的は、いじめや児童虐待の予防につながる親の力・地域の力を育成することですが、身近な場所で問題が起きたときのことをあらかじめ考えておくことは、いじめや児童虐待予防に向けた各自の主体性を高めたり、いじめや児童虐待の深刻化を防ぐ地域のつながりをつくったりする上で重要なことだと考えています。



#### 【参考文献】

- 文部科学省（2012）「つながりが創る豊かな家庭教育～親子が元気になる家庭教育支援を目指して～」
- 服部祥子（2004）「児童虐待発生要因の解明と児童虐待への地域における予防的支援方法の開発に関する研究」（平成14-16年度厚生労働科学研究報告書）
- 国立教育政策研究所（2013）「いじめ追跡調査2010-2012」
- 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（2005）「子どもの成長過程における発達資産についての調査研究」

## Ⅱ 『親学プログラム2』の進め方

### 1 学習プログラムの構成

すべての学習プログラムは「はじめに→アイスブレイク→中心のワーク→ふり返りと分かち合い→おわりに」の流れで構成しており、ファシリテーターと参加者が一体となって学習を進めることができるように組み立てられています。

#### (1) はじめに

ワークショップの導入として、学習内容について確認します。[ホワイトボード等に明示する]

#### (2) アイスブレイク

ゲームなどで雰囲気を和らげ、初対面の参加者の緊張を解きほぐすことを「氷を砕く」という意味で「アイスブレイク」と呼んでいます。

##### ■ アイスブレイクは、目的に応じて使い分ける

- 雰囲気を和らげるために
- グループ分けのために
- 自己紹介のために
- 中心のワークの導入のために 等

##### ■ アイスブレイクの留意点

- プログラムの中で取り上げているのはあくまで例であり、参加者の実態やねらいに応じて、P94～102のアイスブレイク資料を参考にアレンジしてください。
- 自然な流れを大切にしましょう。「これからアイスブレイクをします」というような言い方はせず、「みなさん私と一緒に心と体をほぐしましょう」「少し緊張しておられるので、一緒にリラックスしましょう」等の言い方で進めましょう。

#### (3) 中心のワーク

『親学プログラム2』は、講義など一方的な知識の伝達スタイルだけでなく、グループで意見交換や共同作業を行いながら進める等、多様な学習形態を活用しています。

##### ■ プログラムで取り上げている学習の手法

- ラベルワーク
- カードワーク
- ロールプレイ
- ランキング
- シミュレーション
- コミュニケーションワーク
- エピソード
- 講義
- リフレーミング
- ビデオフォーラム
- 即答フリップ方式全員参加型ディスカッション

#### (4) ふり返りと分かち合い

中心のワークでの気づきを個人でふり返り、さらにグループや全体で分かち合います。分かち合いでは、他の参加者の想いや多様な価値観にふれ、これまでの「親・大人としての役割」や「子どもたちとのかかわり方」を見つめ直します。

#### (5) おわりに

学習したポイントを整理する時間です。参加者の気づきを全体に広げるために、ファシリテーターがポイントを提示し、全員で確認します。ファシリテーターは、「進行表」を参考に話をしたり、自分の体験談を話したりして、学習をまとめます。場合によっては、詩や絵本を読むことも効果的です。

- すべての学習プログラムは上記の流れを標準とし構成しています。「学習のねらい」「対象となる子どもの年齢」「参加する親（保護者）の人数や実態」「実施可能な時間」「会場」等に応じて、場にあった流れを検討の上、工夫してご活用ください。
- それぞれの学習プログラムの一部を活用したり、2つのプログラムを合わせて活用したりすることも可能です。
- 「講義・講演」を行った後に、「親学プログラム」を実施することも、とても有効な方法です。

## 2 ルールとマナーの確認

次の①～③の「ルールとマナー」を参加者に分かりやすく伝えて、必ず確認しましょう。3つのキーワードをホワイトボード等に掲示して、意識化を図ることも効果的です。

- ① 積極的に参加しましょう！
- ② 一人ひとりの考えや想いを尊重しましょう！
- ③ 参加者の個人情報は持って帰らない、もらさない！

### (1) 中心のワークに入る前に

- ① 積極的に参加しましょう！
- ② 一人ひとりの考えや想いを尊重しましょう！

キーワード「積極的」

キーワード「尊重」

【例】 では、グループで話し合う前に2つお願いがあります。  
 1つ目は「積極的に話し合いに参加しましょう」。みなさん、どんどん意見が出せるようにお互いに協力してください。キーワードは「積極的」です。  
 2つ目は、「一人ひとりの考えや想いを尊重しましょう」。みなさんから出た意見を否定したり、反論したりせずに、うなづいたり、相づちを打ったりしてしっかり聴いてください。キーワードは「尊重」です。発言の時間についても、尊重し合ってください。

### (2) 講座のおわりに

- ③ 参加者の個人情報は持って帰らない、もらさない！

キーワード「守秘」

【例】 積極的に意見を交換され、新たな気づきがあったのではないのでしょうか。  
 最後に1つお願いがあります。今日の活動でお互いの考えや想いをしっかり聴かれたと思いますが、中にはプライベートにかかわる話もあったのではないのでしょうか？ここでの私的な話はここだけに置いて帰りましょう。キーワードは「守秘」です。  
 ただ、学ばれて「よかったな」と思われたことは、どんどん家庭や職場、地域で、広めていただければと思います。

※ 3つの「ルールとマナー」を中心のワークに入る前にすべて確認して、さらに講座のおわりに③だけ念をおす方法も効果的です。



### Ⅲ 『親学プログラム2』を効果的に実施するために

現行の『親学プログラム』は、親同士が交流しながら、ともに活動することをとおして、“親とわが子の関係性”における「親としての役割」や「子どもとのかかわり方」の気づきを促すことを目的に開発・普及してきました。換言すれば、「家庭内における親の成長・自己実現の支援」と言えます。したがって、家庭内での様々な場面の親子関係について見つめ、気づきを促す単発実施を繰り返すことで、目的を達成できると考えていました。

しかし、『親学プログラム2』は、前述してきたように、いじめや児童虐待予防につながる親の力・地域の力を育成することを目的としています。この目的を達成するためには、「家庭内における親の成長・自己実現の支援」に加えて、「地域社会における親の成長・自己実現の支援」が必要だと考えて、『親学プログラム2』を開発しました。

つまり、『親学プログラム』と『親学プログラム2』をセットとして、日頃の子育てをふり返って、上手くいかないことなどの悩みを語り合い、工夫・改善して取り組もうとする意欲を高める場を提供し、新たな学びを獲得するサイクルを創出し、“考える親集団”“行動する親集団”を育てていくという過程をとおして、目的に迫っていけると考えています。この過程こそ、「親役割を通じての自己実現」を支援していくことだと考えています。そのため、系統的に段階をおって、親の成長・自己実現を支援していけるよう、シリーズ講座での実施をおすすめします。

そこで、ここでは、それぞれの現場で、ねらいやシリーズ実施の検討をしていただくため、より効果が期待できるシリーズ実施の例を提案します。

#### 1 親役割を通じての自己実現を支援する5回シリーズ講座

「親役割を通じての自己実現」を支援していくためには、少なくとも5回程度のシリーズ実施が有効だと考えています。ここでは、「考える親集団・行動する親集団づくり」「いじめ予防（いじめ予防に重点をおいた）」「児童虐待予防（児童虐待予防に重点をおいた）」の3つのねらいに応じた5回シリーズ実施のプログラム展開例を提案します。

##### (1) 考える親集団・行動する親集団づくりのための5回シリーズ例

###### 【提案例1】

- ① 『親学プログラム2』1-⑤「みんなで子育て」  
→ 親同士がつながることの大切さに気づく
- ② 『親学プログラム』1-③「子どもに示したい大人のふるまい」  
→ わが子との関係性を見つめる
- ③ 『親学プログラム2』2-④「〇〇地区の子どもは、こんな子どもに育てほしい」  
→ 親の社会的役割について考える
- ④ 『親学プログラム2』3-⑤「もし、いじめがおこったら…」  
→ いじめがおきた時の対応を考える
- ⑤ 『親学プログラム』7-③「わが子のPR ～短所も長所～」  
→ わが子を再度見つめ直す

## 【提案例 2】

- ① 『親学プログラム』 2-② 「子どもに伝えるのって難しい！」  
→ 楽しくわが子との関係性を見つめる
- ② 『親学プログラム』 7-② 「こんな子どもに育てほしい」  
→ わが子の成長への願いを整理する
- ③ 『親学プログラム 2』 1-③ 「あったか言葉が宝物」  
→ 親同士がつながることの大切さに気づく
- ④ 『親学プログラム 2』 2-① 「こんな時、どうする？」  
→ 親の社会的役割について考える
- ⑤ 『親学プログラム 2』 4-① 「すてきな子育て」  
→ 楽しく子育てする意欲を高める

## (2) いじめ予防（いじめ予防に重点をおいた）のための5回シリーズ例

### 【提案例 3】

- ① 『親学プログラム』 4-① 「親のしつけは子どもへの大切な贈り物」  
→ 楽しくわが子との関係性を見つめる
- ② 『親学プログラム 2』 2-② 「“オトナ”の役割を考える」  
→ 親の社会的役割について考える
- ③ 『親学プログラム 2』 3-① 「われわれ大人にできること」  
→ いじめ問題の解決のためできることを考える
- ④ 『親学プログラム 2』 3-④ 「ネットいじめから子どもを守る」  
→ ネットいじめから子どもを守るためにできることを考える
- ⑤ 『親学プログラム 2』 3-⑤ 「もし、いじめがおこったら…」  
→ いじめがおきた時の対応について考える

## (3) 児童虐待予防（児童虐待予防に重点をおいた）のための5回シリーズ例

### 【提案例 4】

- ① 『親学プログラム』 4-③ 「しかる基準は？」  
→ 楽しくわが子との関係性を見つめる
- ② 『親学プログラム 2』 1-② 「自分再発見！」  
→ 自分の性格をふり返るとともに他者へ関心をもつ
- ③ 『親学プログラム 2』 4-③ 「こんな時、わたしなら…」  
→ 児童虐待はどこにでもおこる問題としてとらえ、子どもとのかかわり方について考える
- ④ 『親学プログラム 2』 4-④ 「子どもの笑顔と未来のために」  
→ 児童虐待予防のためにできることを考える
- ⑤ 『親学プログラム 2』 2-⑤ 「幸せってなんだろう」  
→ 親自身の幸せについて見つめる

## 2 親役割を通じての自己実現を支援する3回シリーズ講座

それぞれの現場において5回程度のシリーズ実施は難しいことも多いと考えられます。そこで、親の成長・自己実現を支援する視点から、効果が見込まれると考える3回シリーズ実施のプログラム展開例を提案します。

### (1) わが子との関係性をじっくり見つめる3回シリーズ例

#### 【提案例5】

- ① 『親学プログラム』7-②「こんな子どもに育てほしい」  
→ わが子の成長への願いを整理する
- ② 『親学プログラム』6-②「子どもにさせたい体験は？」  
→ わが子への具体的ななかかわりを考える
- ③ 『親学プログラム2』4-①「すてきな子育て」  
→ 楽しく子育てする意欲を高める

#### 【提案例6】

- ① 『親学プログラム』2-②「子どもに伝えるのって難しい！」  
→ 楽しくわが子との関係性を見つめる
- ② 『親学プログラム』3-①「目指せ！早寝・早起き・朝ご飯」  
→ わが子の生活リズムを考える
- ③ 『親学プログラム』7-③「わが子のPR ～短所も長所～」  
→ わが子を再度見つめ直す

### (2) 学校・家庭・地域が連携した子育てにつなげる3回シリーズ例

#### 【提案例7】

- ① 『親学プログラム2』1-④「先生といっしょに」  
→ 学校〔教員〕とのつながりを考える
- ② 『親学プログラム2』1-⑤「みんなで子育て」  
→ 親同士がつながることの大切さに気づく
- ③ 『親学プログラム2』2-③「〇〇地区の子どもたちに示したい大人のふるまい」  
→ 親の社会的役割について考える

### (3) 親の社会的役割についてじっくり考える3回シリーズ例

#### 【提案例8】

- ① 『親学プログラム2』1-⑤「みんなで子育て」  
→ 親同士がつながることの大切さに気づく
- ② 『親学プログラム2』2-②「“オトナ”の役割を考える」  
→ 親の社会的役割について考える
- ③ 『親学プログラム2』2-④「〇〇地区の子どもは、こんな子どもに育てほしい」  
→ 親の社会的役割についてさらに考える

#### (4) いじめ予防につなげる3回シリーズ例

##### 【提案例9】

- ① 『親学プログラム2』 2-② 「“オトナ”の役割を考える」  
→ 親の社会的役割について考える
- ② 『親学プログラム2』 3-① 「われわれ大人にできること」  
→ いじめ問題の解決のためできることを考える
- ③ 『親学プログラム2』 3-⑤ 「もし、いじめがおこったら…」  
→ いじめがおきた時の対応について考える

#### (5) 児童虐待予防につなげる3回シリーズ例

##### 【提案例10】

- ① 『親学プログラム2』 4-⑤ 「『あたたかい眼差しを』 -虐待から子どもを守る-」  
→ 児童虐待について正しく理解し、児童虐待予防のためにできることを考える
- ② 『親学プログラム2』 4-② 「子どもに届けよう、あなたの想い」  
→ 自分をふりかえり、子どもとのかかわり方を考える
- ③ 『親学プログラム2』 4-① 「すてきな子育て」  
→ 楽しく子育てする意欲を高める

### 3 「Ⅴ 配慮が必要なプログラム」につなぐシリーズ講座

「Ⅴ 配慮が必要なプログラム」にまとめて掲載しているプログラムを実施するには、その前段として、参加者同士のよりよい人間関係づくりをしておく必要があります。そこで、よりよい人間関係づくりにつながると考えているプログラムを紹介します。

##### 【提案例11】

- 『親学プログラム』 1-③ 「子どもに示したい大人のふるまい」
- 『親学プログラム』 2-② 「子どもに伝えるのって難しい！」
- 『親学プログラム』 4-① 「親のしつけは子どもへの大切な贈り物」
- 『親学プログラム2』 1-① 「みんなでつながろう（親子一緒に）」
- 『親学プログラム2』 1-② 「自分再発見！」
- 『親学プログラム2』 1-③ 「あったか言葉が宝物」
- 『親学プログラム2』 1-⑤ 「みんなで子育て」
- 『親学プログラム2』 2-① 「こんな時、どうする？」
- 『親学プログラム2』 2-③ 「〇〇地区の子どもたちに示したい大人のふるまい」



#### 「Ⅴ 配慮が必要なプログラム」

「Ⅲ 『親学プログラム2』を効果的に実施するために」であげた【提案例】は、あくまでも一例です。シリーズ実施の展開例は、このほかにもたくさん考えられます。ねらいや参加者の実態等に応じて、ご検討の上、実施してください。

## IV 『親学プログラム2』の実施にあたっての配慮事項

このプログラムは、いじめや児童虐待予防につながる親の力・地域の力を育成することをねらっています。そのため、企画・実施にあたっては、以下のことに配慮しながら進める必要があります。特に「V 配慮が必要なプログラム」を実施する場合は、慎重に進めるとともに、必要に応じて、島根県立東部・西部社会教育研修センターに相談してください。

### 1 企画実施者（主催者）

プログラム実施のねらいを明確にした上で、「V 配慮が必要なプログラム」を実施する場合は、以下に示す特別な配慮が必要となります。

ただし、「V 配慮が必要なプログラム」以外の実施については、企画実施者のねらいや参加対象者の実態等に応じて実施されても構いません。

#### 「V 配慮が必要なプログラム」を実施する場合の特別な配慮について

##### 企画段階において

■ ファシリテーターを派遣する各市町村の窓口である市町村教育委員会等（管轄する行政部局）と事前に綿密な確認を取り合い、次のような点について検討した上で、実施プログラムを決定してください。

- ねらいの確認
- 単発での実施なのか、シリーズ実施なのか
- 参加対象者の子ども集団の人間関係（いじめの有無や、配慮している事項等）
- 参加対象者の状況（配慮が必要な参加者の有無等）
- 上記を確認した上で、実施プログラム・サポート体制等の検討

##### 実施前の打合せ段階において

■ 実施プログラムが決定したら、当日までに、市町村教育委員会等（管轄する行政部局）・ファシリテーター・企画実施者（主催者）の3者で、次のような点について必ず打合せをしてプログラムを実施してください。

- ねらいの確認
- 参加対象者の子ども集団の人間関係（いじめの有無や、配慮している事項等）
- 参加対象者の状況（配慮が必要な参加者の有無等）
- 実施プログラム・ファシリテート体制・サポート体制等の確認
- 特に配慮が必要な場合は、配慮事項・支援体制・役割分担・事後の支援等の確認

##### 実施当日において

■ 企画実施者（主催者）も立ち合ってサポート体制を整え、参加者への個別の対応や事後の支援（面談や専門機関の紹介等）ができるようにしてください。



## 2 市町村教育委員会等（管轄する行政部局）

プログラム実施のねらいを企画実施者（主催者）から確認した上で、「Ⅴ 配慮が必要なプログラム」を実施する場合、以下に示す特別な配慮が必要となります。

ただし、「Ⅴ 配慮が必要なプログラム」以外の実施については、企画実施者のねらいや参加対象者の実態等に応じて実施されても構いません。

### 「Ⅴ 配慮が必要なプログラム」を実施する場合の特別な配慮について

#### 企画段階において

■ 企画実施者（主催者）から、『親学プログラム2』の実施についての依頼・問い合わせがあった場合、次の点について確認をとり、検討・調整してください。

- ねらいの確認
- 「Ⅴ 配慮が必要なプログラム」を実施する場合、特別な配慮が必要であること
- 単発での実施なのか、シリーズ実施なのか。可能であれば、シリーズ実施の検討を勧める
- 参加対象者の子ども集団の人間関係（いじめの有無や、配慮している事項等）
- 参加対象者の状況（配慮が必要な参加者の有無等）
- 実施プログラム・ファシリテート体制・サポート体制等の確認
- 上記を確認した上で、実施プログラムの選定・サポート体制等の検討

■ 企画実施者（主催者）から依頼を受け、プログラム実施となれば、企画実施者（主催者）との確認事項や、それに伴う配慮事項等を考慮し、派遣するファシリテーターを決定してください。その際、複数のファシリテーターで、かつ、『親学プログラム2』対応親学ファシリテーター養成講座修了者」を選定してください。

#### 実施前の打合せ段階において

■ 実施プログラムが決定したら、当日までに、市町村教育委員会等（管轄する行政部局）・ファシリテーター・企画実施者（主催者）の3者で、次のような点について必ず打合せをしてプログラムを実施してください。その時、親学ファシリテーターに過度な負担がかからないような体制づくりに努めてください。

- ねらいの確認
- 参加対象者の子ども集団の人間関係（いじめの有無や、配慮している事項等）
- 参加対象者の状況（配慮が必要な参加者の有無等）
- 実施プログラム・ファシリテート体制・サポート体制等の確認
- 特に配慮が必要な場合は、配慮事項・支援体制・役割分担・事後の支援等の確認

#### 実施当日において

■ ファシリテーターをフォローできるように、可能な限り市町村教育委員会等も立ち合ってください。また、参加者の気になる言動等があれば企画実施者（主催者）に報告してください。

#### 日常的に

- 各市町村の親学ファシリテーターが、どの程度プログラムを進行しているか把握してください。また、可能な限り実施現場に立ち合ったり、参加者アンケートの回答内容を確認したりして、個々のファシリテート状況や力量についても把握に努めてください。
- 定期的に、親学ファシリテーターのフォローアップ研修を企画・実施してください。その際は、必要に応じて、島根県立東部・西部社会教育研修センターに相談してください。
- 「『親学プログラム2』をご利用いただくにあたって」について正しく理解し、企画実施者からの依頼や問い合わせに対応できるようにしてください。

### 3 ファシリテーター

プログラム実施のねらいを企画実施者（主催者）・市町村教育委員会等（管轄する行政部局）から確認した上で、「V 配慮が必要なプログラム」を実施する場合は、以下に示す特別な配慮が必要となります。

ただし、「V 配慮が必要なプログラム」以外の実施については、企画実施者のねらいや参加対象者の実態等に応じて実施されても構いません。

#### 「V 配慮が必要なプログラム」を実施する場合の特別な配慮について

##### 実施前の打合せ段階において

- 企画実施者や市町村教育委員会等との事前の打合わせは、現行の「親学プログラム」をファシリテートする場合よりも、より入念に行う必要があります。特に、配慮が必要な参加者の有無・その実態等、次の点について必ず打合せをし、把握した上で、ファシリテートにあたってください。

- ねらいの確認
- 参加対象者の子ども集団の人間関係（いじめの有無や、配慮している事項等）
- 参加対象者の状況（配慮が必要な参加者の有無等）
- 実施プログラム・ファシリテート体制・サポート体制等の確認
- 特に配慮が必要な場合は、配慮事項・支援体制・役割分担・事後の支援等の確認

- 「V 配慮が必要なプログラム」をファシリテートする場合は、事前にシミュレーション実施して、プログラムを正しく理解して、当日を迎えることをおすすめします。シミュレーション実施ができない場合は、島根県立東部・西部社会教育研修センターに相談してください。

##### 実施当日において

- 現行の「親学プログラム」をファシリテートする以上に、参加者やグループに寄り添い、参加者一人ひとりの想いや意識、また、グループワークの流れや方向性を把握する必要があります。次の点については、特に心がけてファシリテートをしてください。

- 参加者を信頼する  
事前に配慮事項を聞かされていても、偏った見方をせず、一緒に子育てを考えていくという姿勢でファシリテートしてください。
- 意見を受け止める  
参加者から、企画実施者が考えるねらいやプログラムのねらいと反する意見や、受け入れることができない意見が出た場合、すぐに否定するのではなく、いったん受け止めてください。その後、場合によっては、ファシリテーターの考えを伝えることも考えられますが、なるべくグループや全体に、その意見を投げかけ、相互の学びを促してください。このことについては、企画実施者に報告してください。
- 参加者を守る  
ワークの中で、つらい思いをしている参加者を把握した場合、寄り添い、声かけをしてください。場合によっては、企画実施者と連携して対応してください。
- グループの学習状況を観察する  
グループの学習状況が企画実施者の考えるねらいやプログラムのねらいに迫っているか、間違っ

認識や、偏見などが生まれていないか、観察してください。

- 分からないことは答えない

いじめや児童虐待に関する専門的な知識や予防・問題解決に関する具体的な方策等を参加者から問われたとき、正確な知識や情報であれば伝えてもよいですが、自分の考えを安易に話したり、臆測で答えたりしないでください。必要であれば企画実施者へ伝え、対応してもらってください。

- 価値観の押しつけはしない

現行の親学プログラムでは、「アドバイスタイム」で終わることにしていますが、このプログラムでは、「おわりに」で簡単なコメントをして終了するようにしています。状況に応じて、現行の親学プログラムのように、絵本や詩を読んだり、失敗談を話したりして終わっても構いません。しかし、プログラム全体を通して、ファシリテーターの価値観を押しつけることがないようにしてください。

- 少しでも気になったことは報告する

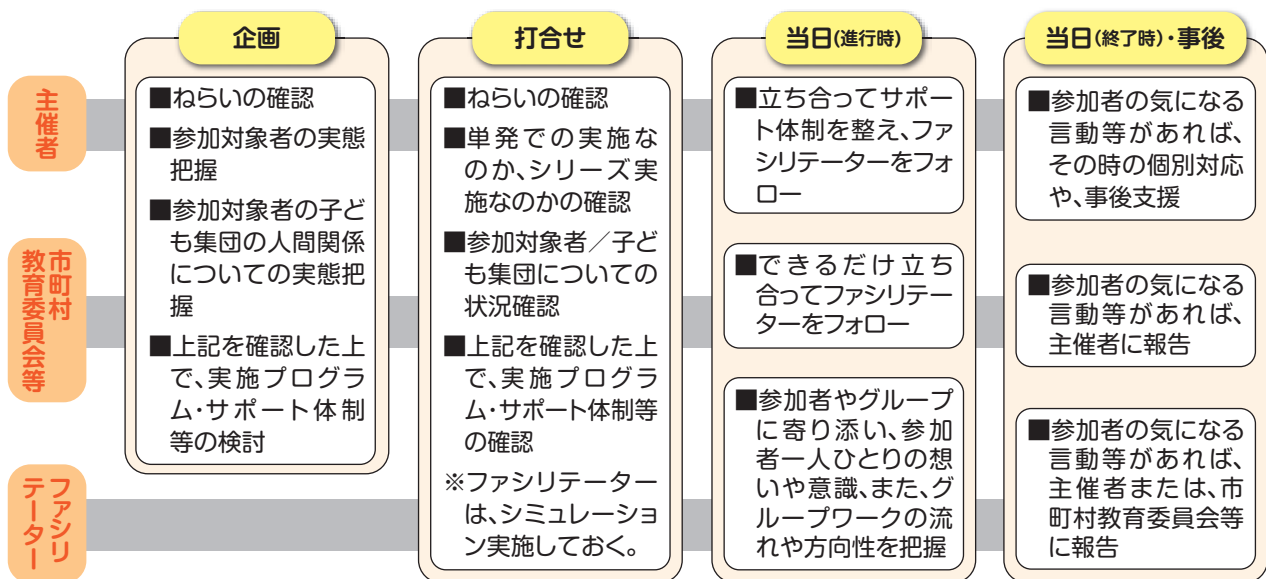
講座中の参加者の言動や表情等、少しでも気になることがあれば、講座後、企画実施者か市町村教育委員会等に報告してください。

- 守秘義務を徹底する

事前打ち合わせや、講座当日知り得た情報は、外部に漏らさないでください。また、講座の終わりにルールとマナーの確認をしますが、特に「参加者の個人情報は持って帰らない、もらさない」を参加者に徹底してください。

#### 4 「V 配慮が必要なプログラム」を進める場合の流れ

「V 配慮が必要なプログラム」を進める場合の企画実施者（主催者）・市町村教育委員会等（管轄する行政部局）・ファシリテーターの配慮事項の概略一覧です。



## V 配慮が必要なプログラム

プログラム	想定される状況	条件・対応
1-④ ①② 先生ついでついで	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ より良いクラスづくりのために、親と学校等（担任）が協力してできることを考えるプログラムだが、親が学校に対して不信感を持っている場合は、担任に対して否定的な意見等が出る可能性がある。</li> <li>■ 担任が答えたくない、もしくは答えるべきではない質問が参加者から出る可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 企画段階で慎重に検討を行い、効果が期待できると判断した上で実施の決定を行う。</li> <li>■ 否定的な意見も「貴重な意見」として受け止めることを学校等（担任）とファシリテーターで共通理解する。</li> <li>■ 実施に当たっては、和やかな雰囲気の中で活動できるようにアイスブレイクを丁寧に行うとともに、グループ分けにも配慮する。</li> <li>■ ルール（特に尊重）を全員でしっかり確認する。</li> </ul>

プログラム	想定される状況	条件・対応
2-⑤ 幸せってなんだろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自分にとっての幸せとはどんなものかについて考える内容なので、現在の家庭の状況や生活実態、これまでの体験などをふりかえる場面がある。参加者がそのようなことを考えたり、語ったりすることに抵抗を感じる可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本プログラム実施までに複数回親学プログラムを実施し、参加者の間に何でも言い合える関係性ができていると活動に入りやすい。</li> <li>■ 参加者の様子をよく観察しておく必要があるため、ファシリテーターは2名以上が望ましい。</li> <li>■ ルール（特に尊重・守秘）を全員でしっかり確認する。</li> </ul>

※「3」の学習プログラムについては、参加対象者の子ども集団にいじめの事実がある、またはその疑いがある場合は、実施の判断を慎重に行う必要があります。

プログラム	想定される状況	条件・対応
3-① われわれ大人にできること	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ いじめの構造を理解するために、参加者が“いじめる側”“いじめられる側”になって模擬体験を行う。そのことに抵抗を感じる参加者がある可能性がある。</li> <li>■ 全体の前で模擬体験のデモンストラーションを行う際に、すすんで“いじめる側”“いじめられる側”になる参加者が出てこない可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ファシリテーターが「いじめの構造」を理解していないとファシリテートできない。いじめに関する正しい理解や本プログラムで行う模擬体験を経験し、いじめの構造について体感しておく必要がある。</li> <li>■ アイスブレイクで十分に打ち解けた雰囲気になるよう、状況に応じてアクティビティを追加して行う。</li> <li>■ 実施にあたっては、模擬体験に抵抗を感じている参加者に体験を強要しない。</li> <li>■ すすんで“いじめる側”“いじめられる側”になる参加者がいない場合に備えて、ファシリテーターと主催者でその役をできるように準備しておく。</li> </ul>

プログラム	想定される状況	条件・対応
3-② いじめが おき な る た い め に 環 境 づ く り の お き な る	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ワーク①では、いじめの要因を「いじめられる側」で考え、いじめの正当化につながる可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 参加対象者の子ども集団に、いじめの事実がある場合は、実施しない。</li> <li>■ いじめの要因は、「いじめる側」にあることをきちんと説明し、黒板などに明記しておく。</li> <li>■ 付箋の書き方を例示し、しっかりと確認する。</li> </ul>
3-③ いじめ を 見 逃 さ な い	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 参加対象者の子ども集団に、いじめの事実がある場合、または、疑いや心配がある場合は、過度に不安をあおったり、加害者の親を責めたりすることにつながりかねない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 参加対象者の子ども集団に、いじめの事実がある場合は、実施しない。</li> <li>■ 参加対象者の子ども集団に、いじめの疑いや心配がある場合も、実施しない方がよい。ただし、企画実施者[主催者：学校・幼稚園・保育所・公民館等]が明確な目的をもって実施する場合は、ファシリテーターと綿密な打合せを行い、サポート体制を整えた上で実施する。</li> </ul>
3-④ 子 ど も を 守 る た い め に ネ ッ ト い じ め か ら	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ネットいじめに対して、子どもを守るためにできることを考えるプログラムだが、ネットについて専門的な知識が不足し、参加者の不安が大きくなる可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ネットいじめに関わる講演会等とセットで企画するとより効果が高まる。</li> <li>■ 必要に応じて、ネットやネットいじめについての巻末資料を参考に相談窓口や専門機関などを紹介し、参加者が相談できるようにする。</li> <li>■ ファシリテーターもネットについての情報を普段から収集しておくとうい。</li> </ul>
3-⑤ お こ し 、 い じ め が お こ っ た ら う …	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ いじめの原因は学校（担任）であるのとらえ、学校（担任）批判に偏った意見がでることが考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 参加対象者の子ども集団に、いじめの事実がある場合は、実施しない。</li> <li>■ プログラムのねらいを理解し、親としてできることについて話し合うよう伝える。</li> <li>■ 親と学校が理解と信頼を深め、連携して取り組む方向で考えるようファシリテートする。</li> </ul>

※「4」の学習プログラムについては、参加対象者に児童虐待の事実がある、またはその疑いがある場合は、実施の判断を慎重に行う必要があります。

プログラム	想定される状況	条件・対応
4-① す て き な 子 育 て	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ イライラしていたり、ストレスを強く感じたりしている等の理由で、「すてきな思い出」を付箋に書けない参加者が出る可能性がある。</li> <li>■ 人と比べ、「すてきな思い出」が少なく自分を悲観的にとらえてしまう参加者がいる可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 参加者の様子をよく観察しておく必要があるため、ファシリテーターは2名以上が望ましい。</li> <li>■ 書けない参加者に寄り添い、話を聴いたり、例示を伝えたりする。強要はしない。</li> <li>■ 悲観的にとらえる等、表情の暗い参加者には、想いを聴いたり、肯定的な声かけをしたりする。</li> <li>■ その場にいることがつらい参加者がいた場合、企画実施者（主催者）と適切に対応する。</li> </ul>



プログラム	想定される状況	条件・対応
4-② 子どもにもあなたの思いを届けてほしい、	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 児童虐待の被害・加害の経験がある場合、その時のことを思い出し、つらい気持ちになる参加者がいる可能性がある。</li> <li>■ 役割演技の設定と、今の自分の状況を重ね合わせ、不安な気持ちになる可能性がある。</li> <li>■ 親の都合を優先し、暴力をふるうこともしつけと捉え、暴力を肯定する参加者が出る可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 参加者の様子をよく観察する必要があるので、ファシリテーターは2名以上が望ましい。</li> <li>■ 役割演技に抵抗を感じる参加者には強要しない。</li> <li>■ 表情の暗い参加者がいた場合、様子を観察し、必要に応じて話を聴く。</li> <li>■ この場にいることがつらい参加者がいた場合、企画実施者（主催者）と適切に対応する。</li> <li>■ 暴力を肯定する発言があった場合、必要に応じて介入する。ただし、意見を否定するのではなく、気づきを促すような働きかけをする。</li> </ul>
4-③ こんな時、わたしなら・・・	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 児童虐待の被害・加害の経験がある場合、その時のことを思い出し、つらい気持ちになる可能性がある。</li> <li>■ 自分の子育てをふり返る活動に参加できない参加者が出る可能性がある。</li> <li>■ 親の都合を優先させ、暴力をふるうこともしつけと捉え、暴力を肯定する参加者が出る可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 参加者の様子をよく観察する必要があるので、ファシリテーターは2名以上が望ましい。</li> <li>■ 自分の子育てをふり返る活動に参加できない場合、寄り添い話を聴く・例を示す等支援するが、強要しない。</li> <li>■ 表情の暗い参加者がいた場合、様子を観察し、必要に応じて話を聴く。</li> <li>■ この場にいることがつらい参加者がいた場合、企画実施者（主催者）と適切に対応する。</li> <li>■ 暴力を肯定する発言があった場合、必要に応じて介入する。ただし、意見を否定するのではなく、気づきを促すような働きかけをする。</li> </ul>
4-④ 子どもの笑顔と未来のために	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 児童虐待の被害・加害の経験がある場合、その時のことを思い出し、つらい気持ちになる可能性がある。</li> <li>■ 「虐待がなぜ起きているのか」「虐待が起きないようにするには」の活動に参加できない参加者が出る可能性がある。</li> <li>■ 専門家からの話を聴き、リスク要因が一つでも該当すれば虐待をする家庭であると決めつける等、間違った捉え方をしている可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 参加者の様子をよく観察する必要があるので、ファシリテーターは2名以上が望ましい。</li> <li>■ 「虐待がなぜ起きているのか」「虐待が起きないようにするには」の活動に参加できない場合、寄り添い話を聴く・例を示す等支援するが、強要しない。</li> <li>■ 表情の暗い参加者がいた場合、様子を観察し、必要に応じて話を聴く。</li> <li>■ この場にいることがつらい参加者がいた場合、企画実施者（主催者）と適切に対応する。</li> <li>■ 専門家の話を間違った捉え方をしている参加者には、介入をする。ただし、意見を否定するのではなく、気づきを促すような働きかけをする。</li> <li>■ 参加者から専門的な知識を要する質問が出た場合、専門家に対応してもらう。</li> </ul>
4-⑤ あたたかい眼差しを	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 児童虐待の被害・加害の経験がある場合、その時のことを思い出し、つらい気持ちになる参加者が出る可能性がある。</li> <li>■ 通報の必要性が生じた事案を経験した参加者がそのことを思い出し、つらい気持ちになる可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 参加者の様子をよく観察する必要があるので、ファシリテーターは2名以上が望ましい。</li> <li>■ 表情の暗い参加者がいた場合、様子を観察し、必要に応じて話を聴く。</li> </ul>

# 1-① みんなでつながろう（親子一緒に）

■対象：小学校中学年以上 ■時間：60分程度 ■手法：コミュニケーションワーク

**学習のねらい** コミュニケーションワークを体験することで、参加者同士の交流を深め、お互いの名前を覚えることで、みんながつながっていくきっかけとする。

**準備するもの** 時計（ストップウォッチ） ガムテープ マーカー 筆記用具  
バインダー ワークシート

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>今日は、ゲームを通して、お互いの顔と名前を覚えて、みんなで仲良くなっていきましょう。</p> <p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p>		
15分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>①名札づくり 名札に記名して胸に貼る</p> <p>②幸せジャンケン（親学プログラムP97）</p> <p>③ギョウザジャンケン（P96）</p> <p>④パスデーチェーン（親学プログラムP100）</p>	<p>①受付でガムテープとマーカーを渡して名前を書いてもらう。</p> <p>②ペアを替えてジャンケンする。</p> <p>③3人組を替えてジャンケンする。</p> <p>④終了後、車座で椅子に座る。</p>	<p>車座に椅子を並べておく</p> <p>ガムテープ</p> <p>マーカー</p>
35分	<p><b>【中心のワーク】</b></p> <p><b>1. この人は誰？</b></p> <p>①2人組になってジャンケンをして勝った方がワークシートに書かれていることを質問して、当てはまったら、相手の名前と回答を書く</p> <p>②時間になったら、記入できた名前の数を確認する</p> <p>③書いた名前が一番多かった人に自己紹介してもらう （その他の人は椅子に座る）</p> <p><b>2. フルーツバスケット（P98）</b></p> <p>①ファシリテーターが読み上げる条件に当てはまる人は別の椅子に移動する</p> <p>②椅子に座れなかった人が中央で名前を言う （①・②のくり返し）</p> <p>③親子が隣同士に座るように移動する</p> <p><b>3. まとめ</b></p>	<p>・質問を発表し、記入してもらう。</p> <p>・複数の項目に同じ人の名前を書くのは不可。</p> <p>・参加者が多い場合は1位、2位の2人に自己紹介してもらう。</p> <p>・自己紹介した人の椅子を抜いて、次のワークにつなげる。</p> <p>・ファシリテーターがワーク1の項目を織り交ぜて、条件を読み上げる。</p> <p>・簡単なコメントを添えて自己紹介してもらう。</p> <p>・最後に親子が隣り合わせになるよう指示して移動してもらう。（親が来ない場合は、親子単位での活動場面を個人単位で行う。）</p> <p>・ワークシートに感想を書く。</p>	<p>ワークシート</p> <p>バインダー</p> <p>筆記用具</p> <p>ストップウォッチ</p>
8分	<p><b>【ふり返りと分かち合い】</b></p> <p>①順番に親子ごとに起立し、自己紹介する</p> <p>②保護者はワークシートにメモをとりながら聞く</p>	<p>・名前と感想を一言ぐらいで、簡単にしてもらう。</p>	<p>ワークシート</p> <p>バインダー</p> <p>筆記用具</p>
2分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>いかがでしたか？同じ学校、同じクラスにいても、子どもの同級生の名前、さらにその保護者の方の顔と名前となると知らないことも多いのではないのでしょうか。今日は、クラスのメンバーの名前を覚えることからやってみました。これをきっかけに、これからはお互い顔を見たら声をかけ合い、つながりの輪を広げていけるといいですね。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</p>		

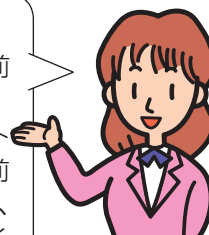
## 1-① みんなでつながろう（親子一緒に）

■このワークでは【はじめに】で学習のテーマを伝えた後、ルールとマナーを確認してください。

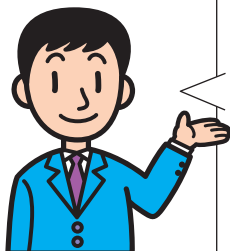
- ・このワークでのルールとマナーは、
  - (1) お互いの名前を呼び合って活動する
  - (2) 相手の話をよく聞き、否定しない
  - (3) 個人的な情報は外に流さない
 です。

### ① この人は誰？（ワークシートの枠に該当する人を探しだし、回答と名前を記入する）（17分）

- ①（バインダー・ワークシート・ペンを配布する）これから自己紹介ゲームをします。手順を説明します。まず、2人組になってください。ペアになったら、お互いに名前を言ってからジャンケンをしてください。ジャンケンに勝った方だけが質問をすることができます。勝った方が、ワークシートに書かれている質問内容の中から一つ選んで質問をして、当てはまったら相手の名前と回答を書き込みましょう。当てはまらなかったら質問を替えてみましょう。ただし、同じ人の名前は1つしか書くことはできません。相手を替えながら、できるだけたくさん枠を埋めてください。時間は10分間です。はじめてください。
- ② 終わりです。椅子に座ってください。それでは、書いた名前の数を確認します。0から5つまでの人は手を挙げてください。6つの方・・・、7つの方・・・、10以上の方・・・
- ③ それでは一番多かった方、前にお進みください。自己紹介をお願いします。・・・みなさん拍手をお願いします。次のワークの準備のため〇〇さんの椅子を抜かせてもらいます。



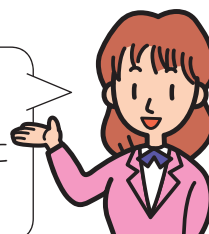
### ② フルーツバスケット（15分）



- ① これからフルーツバスケットというゲームをします。手順を説明します。私がある条件を読み上げます。その条件にあてはまる方は立って、空いている席に移動してください。私がフルーツバスケットと言った時は、全員が移動してください。それではやってみましょう。  
※読み上げる条件は、ワーク1で使ったワークシートに書かれている質問内容からランダムに選ぶ。
- ② 座れなかった人は真ん中で自己紹介をします。それではお願いします。（以下①・②のくり返し。自己紹介はファシリテーターがインタビュー形式で進めてもよい。）
- ③ 最後に親子が隣同士に座るように移動してください。  
※親が来ない場合は、親子単位での活動場面を個人単位で行う。

### ③ まとめ（3分）

- ・時間になりましたので、ゲームを終わります。（ワークの様子をコメントする）
- ・ワークシートにゲームをした感想を書いてください。
- ・この後、親子ごとに自己紹介をしてもらいます。保護者のみなさんはワークシートにメモをとりながら、聞いてください。



## 1-①「みんなでつながろう（親子一緒に）」ワークシート

# みんなでつながろう（親子一緒に）

## ワーク1 この人は誰？

名前： \_\_\_\_\_

- ① 2人組になってあいさつ（名前を言う）をしてからジャンケンをする。  
 ② 勝った方が、下に書かれていることを質問して、当てはまったら相手の名前と回答を書き込みましょう。どんどん相手を替えて質問し、できるだけたくさん枠を埋めましょう。

朝は一人でおきられますか？ 名前：
何時に起きましたか？ 答：

ペットを飼っていますか？ 名前：
どんなペットですか？ 答：

今朝、家族にあいさつしましたか？ 名前：
だれにしましたか？ 答：

最近、だれかにほめられましたか？ 名前：
何をほめられましたか？ 答：

昨日、子どもの宿題をチェックした？ 名前：
どんな宿題でしたか？ 答：

今朝、何を食べたか覚えている？ 名前：
何を食べましたか？ 答：

最近、外で遊んだことがありますか？ 名前：
どんな遊びをしましたか？ 答：

自分のよいところと言えますか？ 名前：
どんなところですか？ 答：

最近、だれかにしかられましたか？ 名前：
だれにしかられましたか？ 答：

昨日、宿題をやりましたか？ 名前：
どんな宿題でしたか？ 答：

普段、お手伝いをしていますか？ 名前：
何のお手伝いをしましたか？ 答：

好きな食べ物が言えますか？ 名前：
それは何ですか？ 答：

昨日、本を読みましたか？ 名前：
何分くらい読みましたか？ 答：


好きなスポーツはありますか？ 名前：
どんなスポーツですか？ 答：

好きな季節はありますか？ 名前：
どの季節ですか？ 答：

1-①「みんなでつながろう（親子一緒に）」ワークシート

# みんなでつながろう（親子一緒に）

**ワーク2** 今日のワークで気づいたことや感想を書きましょう。



**ワーク3** 今日のワークで新たに知り合った人の名前をメモしておきましょう。

保護者名	子どもの名前	メモ

# 1-② 自分再発見！

■対象：乳幼児～中学生の親

■時間：60分程度

■手法：リフレーミング

**学習のねらい** 活動を通して、自分の性格をふり返り、短所を強みとしてとらえ直すとともに、他人の良さを知り、つながりを深めるきっかけとする。

**準備するもの** 筆記用具 ワークシート 性格カード（P 103～112） 表示カード  
ホワイトボード マーカー 時計（ストップウォッチ）

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>今日の会は、みなさんでいくつかゲームをします。楽しんで参加していただきながら、お互いのことを知るきっかけにさせていただきたいと思います。</p>		
22分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>①みんなの木（P99）</p> <p>②4つのコーナー（親学プログラム P102）</p> <p>③じゃんけん大会（P96）</p>	<p>①人数が多いときは、基本になる名前を複数書く。名前がつながっていく様子を、意識するよう声かけをする</p> <p>②好きな色・子どもを色に例える・好きな季節など答えやすい質問にする。ファシリテーターは、共感を持ってインタビューをする。</p> <p>③2人組になり自己紹介をしてからじゃんけんをする。これを繰り返し、3勝した人からファシリテーターの横に並ぶ。4人組をつくる。</p>	<p>ホワイトボード、マーカー 表示カード（質問に応じて準備する）</p>
30分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p><b>【中心のワーク】</b></p> <p>①カードの中から、自分の性格に合うカードを3枚選ぶ</p> <p>②1人ずつ、選んだカードを使って自己紹介をする</p> <p>③グループの他の人に、選んだカードを肯定的な言葉に言い換えてもらう</p> <p>④言い換えた言葉を使い、隣の人に自己紹介をしてもらう</p> <p>⑤選ばなかったカードを裏返して見る</p> <p>⑥まとめ</p>	<p>・例を示す。</p> <p>・肯定的な言葉に言い換える例を示す。</p> <p>・グループの他の人が言い換えた言葉をおり交ぜてもいいと伝える。</p>	<p>性格カード</p> <p>ワークシート 筆記用具</p>
7分	<p><b>【ふり返りと分かち合い】</b></p> <p>①今日の活動を通して、感じたことや気づいたことをワーク2に記入する</p> <p>②グループで発表し合う</p>	<p>・全体に広げることができれば取り上げてもよい。</p>	
1分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>いかがでしたか。今日は、自分の性格をとらえ直す活動をしていただきました。自分では、短所だと思っていたことが、他の人からみたら「長所」と映ることもあるのではないのでしょうか。また、今回参加された皆さんのことを知るきっかけにもなったと思います。これからは気軽に声をかけ合い、つながりが深まるといいですね。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</p>		



## 1-② 自分再発見！

### ① カードの中から、自分の性格に合うカードを3枚選ぶ（3分）



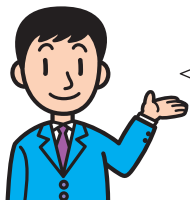
今から性格カードを配ります。黒い面を上にして広げてください。その時、裏は見ないでください。  
次に、カードの中から自分の性格に合うと思うものを、3枚選び、自分の前に置きます。選んだカードの言葉はワーク1に書いておいてください。  
それでは始めてください。時間は2分です。

### ② 1人ずつ、選んだカードを使って自己紹介をする（2分）

それでは、選んだ3枚のカードを使ってグループで自己紹介をしてください。  
私の場合でしたら、「せっかちで心配性でおしゃべりな〇〇です」というように紹介します。



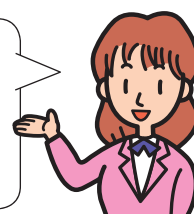
### ③ グループの他の人に、選んだカードを肯定的な言葉に言い換えてもらう（17分）



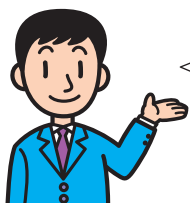
カードを見てどう思われましたか？どちらかというとなマイナスのイメージでとらえがちな言葉が書かれていますね。  
今から、1人ずつ、その選んだカードを発表してください。他の人は、その言葉を肯定的な言葉に言い換えてあげてください。  
例えば、「せっかち」と発表されたら、「素早い」とか「行動が機敏」などの言葉で表現してあげましょう。発表者は、それをワーク1にメモしておきます。  
1人の人が発表し、言い換えが終わったら、カードの裏を見てください。言い換えの一例が出ています。  
それでは、始めてください。時間は16分です。

### ④ 言い換えた言葉を使い、隣の人に他己紹介をしてもらう（2分）

グループのみなさんに、せっかち前向きな言葉に言い換えてもらったので、今度は、左隣の人に他己紹介をしてもらいましょう。カードの裏の言葉を使ってもいいですし、みなさんが出した肯定的な言葉を使っても構いません。  
カードを左隣の人に渡してください。紹介してもらう人は、しっかり聞きましょう。



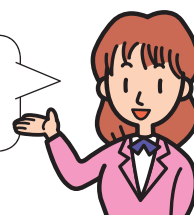
### ⑤ 選ばなかったカードを裏返して見る（5分）



机の上に残された他のカードを、裏返して見てみましょう。マイナスをプラスにかえるヒントがあるのではないのでしょうか。  
では、始めてください。時間は4分です。

### ⑥ まとめ（1分）

それでは、今日の学習をふり返って、感じたことや気づいたことをワーク2に書いてください。メモ程度で構いません。後で話し合いをするときの参考にします。



1-②「自分再発見！」ワークシート

# 自分再発見！

ワーク1 カードの中から自分に合うものを3枚選んでください。

選んだカード

言い換えた言葉

	→	
	→	
	→	

ワーク2 今日の学習で感じたこと、気づいたことを書きましょう。



# 1-③ あったか言葉が宝物

■対象：乳幼児～中学生の親 ■時間：50分 ■手法：カードワーク

学習のねらい 自分の子どもについて、他者からの言葉かけでどのような気持ちになるかを考え、あたたかな子育て環境を育む言葉かけに気づく。  
 準備するもの 筆記用具 名刺大に切ったカード ワークシート 時計（ストップウォッチ）

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<b>【はじめに】</b> 今日は、普段話している言葉の中から、言われてうれしかった言葉「あったか言葉」について、あらためて一緒に考えてみましょう。その前に、ちょっと心と体をほぐしていきましょう。		
10分	<b>【アイスブレイク】</b> ①後出しジャンケン（親学プログラム P97） ②パスデーチェーン（親学プログラム P100） ③自己紹介	・①では、参加者のリラックスした雰囲気をつくる。 ・②で4人組のグループをつくる。 ・③は、「最近うれしかったこと」などをテーマに自己紹介するとよい。	
30分	《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》 <b>【中心のワーク】</b> テーマ「わが子について、言われてうれしい言葉」 ①カードに記入する ②カードを中央に置く ③カードを引き、カードがなくなるまで繰り返す ④最後に残したカードについて、理由などを話し合う ⑤まとめ	・①では、できるだけ多くのカードに記入してもらおう。 ・記入されたカードの数が少ない場合は、ファシリテーターがあらかじめ記入しておいたカードを加えることもできる。 ・③では、どのカードも大切なものである事を確認する。必要に応じて「尊重」の約束を確認する。 ・④では、カードを残した理由や悩んだカードなどについて話し合ってもらおう。 ・時間があれば、すべてのカードを表向きにして、「どんな内容が多いか」などについて話し合ってもらおう。 ・さらに、他のグループのカードと交換して実施することもできる。	筆記用具 カード
8分	<b>【ふり振り返りと分かち合い】</b> ①今日の活動をとおして、これから親同士でどのような言葉をかけ合うといいかを考え、ワークシートに書く ②グループで発表し合う	・ワークショップでの気づきから今後の他の親への言葉かけについて考えるようにする。 ・全体に広げることができれば、取り上げてもよい。	ワークシート
2分	<b>【おわりに】</b> いかがでしたか？言葉ひとつでとてもうれしい気持ちになり、さらに子育てを楽しもうとする想いは高まりますね。言葉は、親同士が仲良くなり、さらに元気が出ることにつながります。みんなが、こんなあったか言葉で声をかけあい、地域のみんなであたたかい子育て環境をつくっていけるといいですね。 《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》	※「相手を尊重した言葉で話したい」など、参加者の気づきを全体に紹介してもよい。	

## 1-③ あったか言葉が宝物

### ① カードに記入する（10分）

席を合わせ、4人グループにする。名刺大に切ったカードを準備して、参加者に渡す。



自己紹介をしたグループで活動します。カードに「わが子について、他人（地域の方や店員、保護者など）から言われてうれしい言葉」を考えて、記入してください。簡単に、思いついたまま、できるだけ多くカードに書きましょう。

例えば、近所の方と出会った場面や保護者同士の雑談場面などをイメージしてみてください。ただし、1枚のカードには1つのことを書いてください。

※例えば・・・（下記参照）

時間は、8分です。

※例えば…

あいさつが上手ね

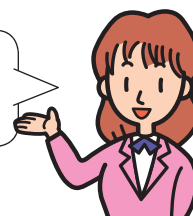
○ 1枚に1つのこと

やさしくて、しっかりしているね

× 1枚に複数のこと

### ② カードを中央に置く（1分）

全員のカードを1つにまとめ、トランプのように切りましょう。そして、何が書いてあるか見えないようにして、グループの中央に置いてください。



### ③ カードを引き、カードがなくなるまで繰り返す（10分）

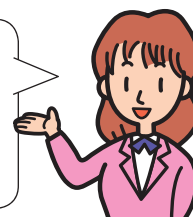


1人1枚ずつカードを引いてください。もう1枚カードを引いてください。2枚のうち、よりうれしいと思うカードを手元に残してください。どれもうれしい言葉だと思えますが、どちらか1枚だけに決めてください。選ばなかったカードは自分の前にふせて置いてください。

これを、カードの山がなくなるまで、順番を守って繰り返しましょう。

### ④ 最後に残したカードについて、理由などを話し合う（8分）

最終的に手元に残したカードは何ですか。グループで「せーの」で見せ合ひましょう。そして、なぜそのカードを残したのか、その理由や想いを発表しましょう。また、迷われたカードについても紹介してください。発表が終わったら、ワークで気づかれたことや考えたことなどを話し合ひましょう。



### ⑤ まとめ（1分）



今回の活動を通して、これから親同士で、どのような言葉をかけ合うといいかを考え、ワークシートに書きましょう。

1-③「あったか言葉が宝物」ワークシート

# あったか言葉が宝物

ふりかえり

これから親同士でどのような言葉をかけ合うとよいと思いましたか。  
また、自分が気をつけようと思ったことは何ですか。



# 1-④-① 先生といっしょに

■対象：幼児～中学生の親 ■時間：80分程度 ■手法：ラベルワーク

**学習のねらい** [年度もしくは学期の始めに] より良いクラスづくりのために「保育所・幼稚園・学校」(担任)と「家庭」(保護者)が協力してできることを考える。

**準備するもの** ワークシート マーカー 付箋(大10枚/班・中20枚/人) 模造紙(1枚/班) たいやきカード 時計(ストップウォッチ)

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>今日は、担任の先生から「こんなクラスをつくりたい」というお話をさせていただきます。その中で担任の先生と協力して、みなさんも一緒にできることを考えていきたいと思います。</p> <p>まずは、初めて会う方もいらっしやると思いますので、ゲームをしながら自己紹介をしたいと思います。</p>		
10分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>①ジャンケンチャンピオン(P96) ※ジャンケンの前に自己紹介 ※あいこの数が○回(任意の数)になった人から席につきグループを作る</p> <p>②たいやき自己紹介(P99)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①は担任にも入ってもらう。</li> <li>・①は「勝負強い人(勝った数)」「優しい人(負けた数)」「人の気持ちが分かる人(あいこの数)」等を競い、ゲーム性を高める。</li> <li>・②は「尊重」のマナーの意識づけにする。</li> </ul>	たいやきカード
60分	<p style="text-align: center;"><b>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</b></p> <p><b>【中心のワーク】</b></p> <p>①担任の自己紹介を聞く ②担任のクラス経営に関する抱負、目標などについて聞く ③より良いクラスづくりのために保護者ができることを付箋に書く ④付箋に書いたことをグループで紹介し合い、模造紙にまとめる ⑤グループの代表が模造紙にまとめたことを紹介する ⑥担任のコメントを聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①は「たいやき自己紹介」を活用。</li> <li>・④は実現の可能性にとらわれず、自由な発想で書くよう促す。</li> <li>・⑤は以下の例を参考に、状況に応じてまとめ方の指示をする。</li> </ul> <p>・模造紙の横軸に「難易度」(難しいこと→すぐに行えること)、縦軸に「重要度」(やった方がいいこと→すべきこと)の尺度をあらわす矢印を書く。 ・付箋に書かれたアイデアを「難易度」と「重要度」で評価する。 ・自分たちがやるべきことの優先順位や実施が困難なことについての解決方法などを話し合う。</p>	ワークシート 付箋 マーカー 模造紙
8分	<p><b>【ふり返りと分かち合い】</b></p> <p>①感想をワークシートに記入する ②グループの中で発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間があれば全体に広げる。</li> </ul>	
2分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>いかがでしたか？ 学校や先生とつながることは、子どものよりよい成長に欠かせません。今日は、保護者のみなさんのお子さんを想う気持ちや、その想いに応じて学校や先生もがんばってくださることがわかりましたね。これから私たち保護者も協力して、一緒に楽しく子どもたちを育てていきたいですね。今日の話し合いをお互いに忘れず、みんなで取り組んでいきましょう。</p> <p style="text-align: center;"><b>《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</b></p>		



## 1-④-① 先生といっしょに

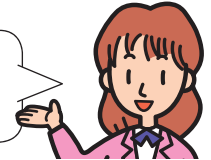
### ① 担任の自己紹介を聞く（3分）



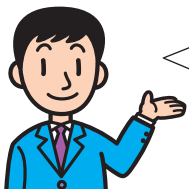
それでは〇〇先生にも性格カードをつかって自己紹介してもらいます。あわせて先生の趣味や特技なども紹介いただきます。  
ワークシートを配りますので、メモ代わりにお使いください。

### ② 担任のクラス経営に関する抱負、目標などについて聞く（5分）

それでは先生から「どんなクラスにしたいのか」「どんな子どもたちに育てて欲しいのか」などの想いを話していただきます。



### ③ より良いクラスづくりのために保護者ができることを付箋に書く（7分）



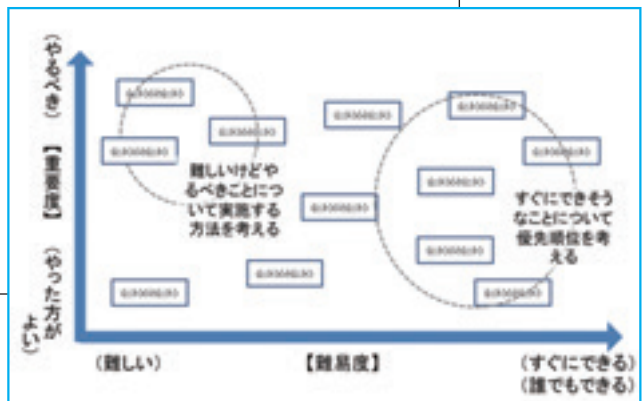
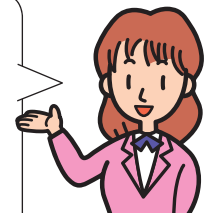
先生の想いをお聞きしました。これらのことについて、家庭も一緒になって取り組むとさらに効果が上がることがあるように思います。“ひとりでできること”から“みんなでやるべきこと”、“すぐにできそうなこと”から“できたらいいな”と思うことなど何でもかまいませんので、「より良いクラスづくりのために保護者ができること」について付箋に書いてください。1枚の付箋には1つのことを書いてください。時間は6分間です。

※考える視点：「わが子に対してできること」「よその子に対してできること」「担任とできること」「ひとりでできること」「他の保護者とできること」「地域の人も巻き込んでできること」「家庭でできること」「学級や学校に来た時にできること」「地域でできること」など

### ④ 付箋に書いたことをグループで紹介し合い、模造紙にまとめる（30分）

次にグループでの活動に入ります。まず、模造紙の下に横軸で「難易度」の矢印を書いてください。書き終わったら、最初の人から1枚の付箋を模造紙の上に出し、書いた意味を説明します。この時、難易度を考えて、適当な場所に貼ってください。もし、メンバーの中に似た内容の付箋があれば、説明をしながらその付箋の近くに置きます。似た内容の付箋がなくなったら次の人が別の1枚を出し、同じように説明をして貼ります。これを全員の付箋がなくなるまで繰り返してください。

（付箋を貼り終えたら）続いて縦軸に「重要度」の矢印を書いてください。グループで相談しながら、付箋に書かれたアイデアの重要度に応じて、付箋を上方向に移動してください。あわせて「難易度」も再確認しましょう。付箋の移動が終わったら、保護者ができることの優先順位や具体的な実施方法について話し合ってください。



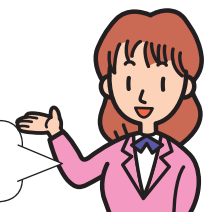
### ⑤ グループの代表が模造紙にまとめたことを紹介する（10分）



グループで話し合ったことを順に発表してください。

### ⑥ 担任のコメントを聞く（5分）

みなさんが考えたことに対して、先生から考えや想いを語ってもらいます。



1-④-① 「先生といっしょに」 ワークシート

# 先生といっしょに

(担任の先生の話聞いて「思ったこと」「感じたこと」「考えたこと」などをメモしましょう。)



**ワーク** 「より良いクラスづくりのために保護者ができること」についてグループで話し合います。

(担任の先生とみなさんと、これから一緒に取り組むことをメモしておきましょう。)

**ふりかえり** 今日の話合いをふり返って、感じたこと、気づいたことを書きましょう。



# 1-④-② 先生といっしょに

■対象：幼児～中学生の親

■時間：80分程度

■手法：ラベルワーク

**学習のねらい** より良いクラスづくりのために「保育所・幼稚園・学校」(担任)と「家庭」(保護者)が協力してできることを考える。

**準備するもの** 模造紙(4つ折りにして線を引いておく) 付箋(4色) マーカー  
ワークシート たいやきカード 時計(ストップウォッチ)

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>今日は、保護者のみなさんと担任の先生がさらに良く知り合う活動をしたいと思います。また、担任の先生からの「こんなクラスをつくりたい」というお話を聞いて、みなさんで一緒にできることを考える活動もしたいと思っています。まずは、ゲームをしながら保護者同士もさらに仲良くなりましょう。</p>		
10分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>①ジャンケンチャンピオン(P96) ※ジャンケンの前に自己紹介 ②たいやき自己紹介(P99)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任にも入ってもらおう。</li> <li>・①は「勝負強い人(勝った数)」「優しい人(負けた数)」「人の気持ちが分かる人(あいこの数)」等を競い、ゲーム性を高める。</li> <li>・②は「尊重」のマナーの意識づけにする。</li> </ul>	たいやきカード
60分	<p style="text-align: center;"><b>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</b></p> <p><b>【中心のワーク】</b></p> <p>①担任のクラス経営に関する抱負、目標などについて聞く (担任のみ退室)</p> <p>②ファシリテーターの質問の答えを付箋に書き、紹介し合う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>②の質問内容(基本例)</p> <p>「担任の話を聞いた感想」 「もっと詳しく聞きたいこと」 「担任に知っておいてほしい親の願い」 「より良いクラスづくりのために、保護者ができること」</p> </div> <p>(保護者退席、担任入室) (ファシリテーターが話し合いの様子や内容を担任に説明する) (全員入室)</p> <p>③担任から模造紙に貼られている質問等に対するコメントを聞く ④自分自身が取り組みたいことを確認する</p>	<p>※学校や他の保護者を批判したり、担任の人格を否定したりするような意見がでないように、ルールとマナーをしっかりと確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・②の質問内容は、担任とファシリテーターとの相談により内容の変更も考えられる。</li> <li>・否定的な意見も「貴重な意見」として受け止める。ただし、否定的な意見ばかりにならないように、肯定的な意見を積極的に取り上げて全体にひろげる。</li> <li>・担任には文字情報以外にも、場の雰囲気についても伝える。</li> <li>※ファシリテーターは複数体制で、担任や保護者が退室するとき、ファシリテーターの一人が付き添う。</li> </ul>	ワークシート 付箋 マーカー 模造紙
8分	<p><b>【ふり返りと分かち合い】</b></p> <p>①感想をワークシートに記入する ②グループの中で発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期待や明るい希望をもって考えるよう促す。</li> <li>・時間があれば全体にひろげる。</li> </ul>	
2分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>いかがでしたか?学校や先生とつながることは、子どものよりよい成長に欠かせません。今日は、保護者のみなさんのお子さんを想う気持ちや、その想いに応えて学校や先生もがんばってくださることがわかりましたね。これから私たち保護者も協力して、一緒に楽しく子どもたちを育てていきたいですね。今日の話合いをお互いに忘れず、みんなで取り組んでいきましょう。</p> <p style="text-align: center;"><b>《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</b></p>		

## 1-④-② 先生といっしょに

### ① 担任のクラス経営に関する抱負、目標などについて聞く（5分）



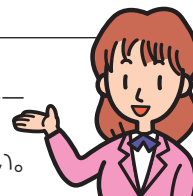
それでは最初に担任の〇〇先生から「どんなクラスにしたいのか」「どんな子どもたちに育てたいのか」などの想いを話していただけます。  
みなさんは先生の話聞いて「思ったこと」や「感じたこと」「考えたこと」などがあれば、ワークシートの1番上の四角の中にメモをしてください。

### ② ファシリテーターの質問の答えを付箋に書き、紹介し合う（36分）

ここで一旦、担任の先生に退席していただきます。（ファシリテーターが一人付き添う）（担任退室後）これから4つの質問をします。その質問の答えを付箋に書き、模造紙に貼ってグループのメンバーに紹介します。

最初の質問は「先生の話聞いた感想」です。お手元の付箋1枚につき1つずつ書いてください。時間は2分程度です。それでは個人作業をお願いします。

（2分後）それではグループのメンバーへの紹介に入ります。最初の方が1枚の付箋を模造紙に貼り、書いたことを紹介します。その時、メンバーの中に似た内容の付箋があれば、紹介してから近くに貼ります。似た内容の付箋がなくなったら、次の人が別の1枚を出し、同じように紹介をします。これを繰り返して、模造紙の上にくつかまとまりを作ってください。時間は3分程度でお願いします。



①		②	
③		④	



- ・ 2つ目の質問は「先生にもっと聞いてみたいこと」です。
- ※個人作業2分→グループ内紹介3分→模造紙を掲示→ファシリテーターが簡単に内容紹介。
- ※付箋は1つ目の質問で使った模造紙に貼る。以下の質問はそれぞれ別々の模造紙を使う。
- ・ 3つ目の質問は「担任の先生に知っておいてほしい親の願い」です。

#### 【予想される意見例】

「学校の様子が知りたい」「いじめのないクラスにしてほしい」「子どもに“学校が楽しい”と思ってほしい」  
「厳しく指導してほしい」「丁寧に勉強をみてほしい」「1人1人を大切にしてほしい」

- ・ 最後の質問は「より良いクラスづくりのために保護者ができること」です。先生のお話や3つ目の質問に対する付箋の内容から考えてみましょう。

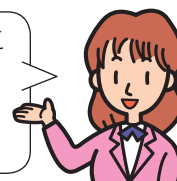
#### 【予想される意見例】

「子どもの話をよく聞く」「参観日や懇親会、学校行事に出席する」「こちらからも積極的に情報提供する」「わが子の良いところをみつけて褒める」「家事をさせる」「宿題をみてやる」「よその子にも声掛けをする」

- ※3つ目と4つ目の質問は、個人作業3分→グループ内紹介7分→模造紙を掲示→ファシリテーターが簡単に内容紹介。

### ■ ファシリテーターが話し合いの内容を担当に説明する（11分）

それではこれまでの話し合いの状況を担任の先生にお伝えしようと思います。みなさんはこれから10分間、教室の外で休憩してお待ちください。（ファシリテーターが一人付き添う）（保護者退室→担任入室→話し合いの状況説明・模造紙内容の補足・コメントの相談）  
※担任には文字情報以外にも、場の雰囲気についても伝える。



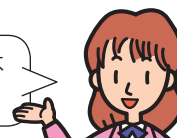
### ③ 担任の模造紙に貼られている質問等に対するコメントを聞く（6分）



それでは保護者のみなさんは教室にお入りください。（保護者入室後）これからみなさんからの質問やみんなで考えたことに対して、先生から考えや想いを語ってもらいます。  
※担任が答えにくいことや答えるべきではないことについては無理にコメントしてもらわない。この場合、状況に応じてファシリテーターがその旨を説明する。

### ④ 自分自身を取り組みたいことを確認する（2分）

いかがでしたか。保護者の想い、そしてそれに答える先生の想いがわかりました。それでは自分を取り組みたいことを忘れないようにワークシートにメモをしておきましょう。



1-④-②「先生といっしょに」ワークシート

# 先生といっしょに

(担任の先生の話聞いて「思ったこと」「感じたこと」「考えたこと」などをメモしましょう。)



**ワーク**

ファシリテーターが4つの質問をします。

それぞれの質問について「知っていること」や「考えたこと」などについて付箋に書き、グループで紹介しましょう。

(担任の先生とみなさんと、これから一緒に取り組むことをメモしておきましょう。)

**ふりかえり**

今日の話し合いをふり返って、感じたこと、気づいたことを書きましょう。





# 1-⑤ みんなで子育て

■対象：乳幼児～中学生の親 ■時間：60分程度 ■手法：ラベルワーク

**学習のねらい** 学校・家庭・地域がつながって、地域のみんなで子育てする理想の地域社会について話し合い、今後の子育てで大切にしたいことを考える。

**準備するもの** 付箋（グループ数×50枚程度） 筆記用具 模造紙（グループに1枚）  
 マーカー ワークシート ホワイトボード 時計（ストップウォッチ）

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<b>【はじめに】</b> 今日は、みなさんと一緒に、学校・家庭・地域がつながって、地域のみんなで子育てする理想の世界について話し合っ、その上で、今後の子育てで大切にしたいことを考えていこうと思います。 その前に、ちょっと遊びから入っていきましょう。		
10分	<b>【アイスブレイク】</b> ①イス移動実態把握 (P100) ②グループ分け ③自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>①の質問例は、進行マニュアルを参考にする。</li> <li>①の最終質問の席順でグループ分けする。</li> <li>自己紹介は、子どもの頃よく見ていたテレビ番組をテーマにするとよい。</li> </ul>	
40分	<p style="text-align: center;"><b>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</b></p> <b>【中心のワーク】</b> ①『サザエさん』の登場人物を思いつくだけ個人でワークシートに書く ②グループ毎に『サザエさん』の登場人物を出し合い、他のグループとその数を競い合う ③学校・家庭・地域で、子どもたちにどのようなかわりをする人物がいると理想かを考え、個人で付箋に記入する ④グループで付箋を出し合い、子どもたちにかかわる理想の人物を分類・整理する ⑤グループ発表を聞く ⑥まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>①で、名前が分からない場合は、簡単な説明を書くように伝える。</li> <li>②の発表で、参加者から出た登場人物をホワイトボードに整理し、明示する。</li> <li>③では、学校・家庭・地域の登場人物にバランスよく目が向くよう声かけをする。</li> <li>④では、家庭を中心において、整理するよう伝える。</li> <li>⑤は、代表的なグループに発表してもらってもよい。</li> <li>⑥では、地域の中に大切な役割を担った人物が多いことを強調する。</li> </ul>	ワークシート ホワイトボード 付箋 模造紙 マーカー
8分	<b>【ふり返りと分かち合い】</b> ①ワークシートに今後の子育てで大切にしたいことを書く ②グループで分かち合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てをふり返り、今後について考える時間をとる。</li> <li>全体に広げることができれば、積極的に取り上げる。</li> </ul>	ワークシート
2分	<b>【おわりに】</b> いかがでしたか？ 地域ぐるみで子育てすることは、子どものよりよい成長に大きくかかわると言われています。子どもも親も、集団の中で成長していくものですよね。 今日の学びが、学校・家庭・地域、みんながつながって、それぞれの役割を果たしながら、地域ぐるみでリレーし合っ、子育てしていける地域づくりにつながればと願っています。		
	<b>《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</b>		



## 1-⑤ みんなで子育て

### ☆ アイスブレイク『イス移動実態把握』の質問例

- ①「今日、ソックスをはいている人？」
- ②「今日のこの研修会に自ら進んで参加した人？」
- ③「この中に、普段からよくかかわっている人が5人以上いる人？」
- ④「学校の先生のことをよく分かっている人？」
- ⑤「自分の子どものことは、ある程度分かっている人？」
- ⑥「学校や地域での自分の子どもの様子をしっかりと分かっている人？」
- ⑦「地域のおよそのお父さんのことをある程度分かっている人？」

#### ①『サザエさん』の登場人物を思いっただけ個人でワークシートに書く（3分）



ここからは、『学校・家庭・地域がつながって、地域のみんで子育てする理想の世界』を考えていきたいと思います。『地域のみんで子育てする理想の世界』の1つに、国民的道德番組『サザエさん』があると言われます。そこで、まず、個人で『サザエさん』に出てくる登場人物を思いっただけ、ワークシートに書き込みましょう。

具体的な名前が分からない場合は、簡単な説明を書いてください。

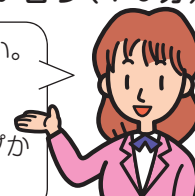
あとで、グループで登場人物数を競い合いますので、できるだけたくさん思い出してください。時間は3分程度です。

#### ② グループ毎に『サザエさん』の登場人物を出し合い、他のグループとその数を競い合う（10分）

それでは、グループで『サザエさん』の登場人物を出し合って、何人になるか整理してください。  
[各グループで整理ができたなら]

まずは、どのグループがどれだけ登場人物を出したか『数』を発表してください。

では、みつけた登場人物全てをホワイトボードに書き上げますので、数が多かったグループから発表してください。他のグループは、出ていない登場人物を発表してください。



#### ③ 学校・家庭・地域で、子どもたちにどのようなかかわりをする人物がいると理想かを考え、個人で付箋に記入する（8分）



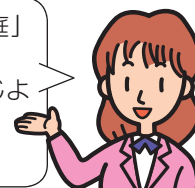
次に、学校・家庭・地域で、子どもたちにどのようなかかわりをする人物がいると理想かを考えて、個人で付箋に書きましょう。例えば、1枚の付箋に「親は、悪いことは厳しくしかる」とか「話をしっかり聴いてほめてくれる方」というようにお願いします。その際、学校・家庭・地域それぞれの人物を『サザエさん』の世界を参考に考えてください。時間は8分程度です。

#### ④ グループで付箋を出し合い、子どもたちにかかわる理想の人物を分類・整理する（13分）

それでは、グループで書かれた付箋を模造紙に整理していきます。模造紙の中心を「家庭」として、そのまわりに「地域や学校の人物」を整理していきましょう。

順番を決めて、最初の方が1枚の付箋を簡単に紹介しながら模造紙に貼ってください。同じような人物像について書いた方があれば、簡単に説明して、近くに貼ってください。

これを繰り返して、全ての付箋がなくなるまで、登場人物の役割を整理してください。



※ 時間に応じて、付箋の位置を確認・移動したり、見出しをつけたり、図や絵を描き込んでよい。

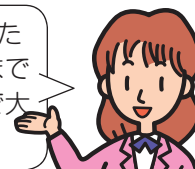
#### ⑤ グループ発表を聞く（5分）



それでは、〇〇グループの代表の方にグループ活動の様子を発表してもらいます。

#### ⑥ まとめ（1分）

今日は、『サザエさんの世界』を参考に、子どもたちが、学校・家庭・地域の方とたくさんかかわって生活する理想の世界を考えました。それでは、ワークシートに“これまでの子育て”と“地域のみんで子育てする理想の世界”をてらしあわせて、今後、子育てで大切にしたいと思うことを書きましょう。



1-⑤「みんなで子育て」ワークシート

# みんなで子育て

ワーク1 『学校・家庭・地域がつながって、地域みんなで子育てする理想の世界』の1つと言われる『サザエさん』の登場人物を思いっただけ書きましょう。



ワーク2 “これまでの子育て”と“地域みんなで子育てする理想の世界”をてらしあわせて、今後の子育てで大切にしたいと思うことを書きましょう。



## 2-① こんな時、どうする？

■対象：幼児～中学生をもつ親 ■時間：50分程度 ■手法：即答フリップ方式全員参加型ディスカッション

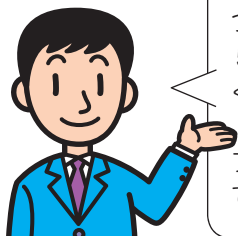
学習のねらい 子どもたちの具体的な生活場面の問いに対して、自分ならどうするかを考え、大人（親）としての社会的な役割に気づく。

準備するもの A5用紙〔6枚×参加者数〕 バインダー マーカー 質問掲示 など

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>今日は、わが子を取り巻く周りの子どもたちへのかかわり方について、具体的な生活場面から、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。 では、まずは、みなさんと一緒に遊びから入っていきましょう。</p>		
10分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>①バースデーチェーン（親学プログラムP100） 〔グループ分け〕</p> <p>②ジャンケンリレー（P100）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「誕生日順」「会場から近い順」「何歳からやり直したいか順」など、いくつか組み合わせて展開する。</li> <li>・4人ずつのグループをつくる。</li> </ul>	
30分	<p style="text-align: center;"><b>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</b></p> <p><b>【中心のワーク】</b></p> <p>①ワークの説明を聞く ②質問を聞いて、思いついたことをフリップに記入する ③フリップを見せ合い、グループで話し合う ※②～③を繰り返す ④まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>《質問例 … 小学生の子をもつ親》</b></p> <p>① 私は一見〇〇ですが、実は□□です ② 我が子の友だちが勝手に冷蔵庫をあけている ③ 近所の小学生たちが集団で猫をいじめている ④ ボールを使ってはいけな公園で、小さい子どもたちが遊んでいるところに、中学生たちがやって来て野球をはじめた</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問1は、アイスブレイクとして、自己紹介につながるものにする。</li> <li>・状況に応じて、話し合いの様子を紹介したり、代表が発表したり、全体で確認したり、臨機応変に対応する。</li> <li>・対象の子どもの発達段階に応じて、質問内容を変更する。</li> </ul>	<p>A5用紙（質問数） バインダー マーカー 質問掲示 ※スライドに映してもよい</p>
8分	<p><b>【ふり返りと分かち合い】</b></p> <p>①よその子とのかかわりについて、気づきや考えを書く ②グループで発表し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フリップ方式の最終質問をふり返りとする。</li> <li>・全体に広げたいことは、積極的に取り上げる。</li> </ul>	
2分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>いかがでしたか？子どもは、周りを取り巻く集団の中で、毎日生活し、成長していきます。それは、われわれ大人も同じことですね。 みなさんのお子さんを取り巻く周りの子どもたちに対して、よりよいかかわり方することも、親としての大事な責任ではないでしょうか。地域の大人みんなで、地域の子どもたちを育てていく環境をみなさんのお力をつくっていきけるといいですね。</p> <p style="text-align: center;"><b>《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</b></p>		

## 2-① こんな時、どうする？

### ① ワークの説明を聞く（3分）



（4～5人のグループをつかって、グループごとにイスに座る。バインダーにA5用紙を質問の枚数だけ綴じて、マーカーとともに配付する。）

それでは、中心のワークに移ります。これから、いくつか質問をします。その質問について、思いついたことや考えたことをできるだけ簡単に、大きな字で、お配りしたA5用紙【フリップ】に書き込んでください。グループのメンバーに見えないようにしてください。

皆さんが書き込まれたところで、私が「せーの!!」と声をかけるので、一斉にフリップを見せ合ってください。そして、時間の指示を出すので、なぜそう書いたのか紹介し合って、時間になるまでテーマについて、話し合ってください。

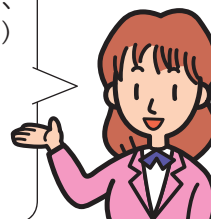
### ② 質問を聞いて、思いついたことをフリップに記入する

### ③ フリップを見せ合い、グループで話し合う ②～③を繰り返す（25分）

では、第1問、これは練習です。半分より上に「私は一見〇〇ですが」の〇〇部分を、半分より下に「実は□□です」の□□部分を書いてください。（書かれたことを確認して）それでは、見せ合いましょう。「せーの!!」

では、この1問目を使って、それぞれ自己紹介をしてください。  
（グループの話し合い）

時間になりました。グループで代表の方一人、全体に発表してください。



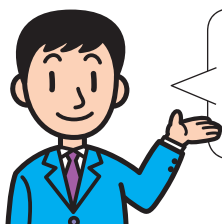
※質問内容や状況により、「グループの代表が発表する」「ファシリテーターが指名した人が発表する」「全員が発表する」「ファシリテーターが紹介する」など、臨機応変に対応する。

《質問例 … 小学生の子をもつ親》

- ① 私は一見〇〇ですが、実は□□です
- ② 我が子の友だちが勝手に冷蔵庫をあけている
- ③ 近所の小学生たちが集団で猫をいじめている
- ④ ボールを使ってはいけない公園で、小さい子どもたちが遊んでいるところに、中学生たちがやって来て野球をはじめた

※細かい状況については、参加者各自で考えるように伝える。

### ④ まとめ（2分）



（グループの話し合いの様子についてコメントする）

それでは、今日の学習をふり返って、よそのお子さんとのかかわりについて、気づいたことや考えたことを最後のフリップに書きましょう。

## 2-② “オトナ” の役割を考える

■対象：幼児～中学生をもつ親

■時間：60分程度

■手法：ランキング

**学習のねらい** 子どもたちの具体的な生活場面を想定して、“わが子の場合” “知っている子の場合” “知らない子の場合” のかかわり方・しかり方を考え、比較することで、大人（親）としての社会的な役割に気づき、自分ができることを考える。

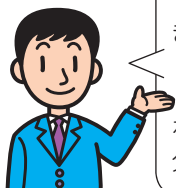
**準備するもの** A4用紙 A5用紙 ワークシート 筆記用具 メジャー 時計（ストップウォッチ）

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>今日は、子どもたちの具体的な生活場面を想定して、子どもとのかかわり方・しかり方について考えていきます。1人の親として、また、1人の大人としての子どものかかわり方をみんなで考えましょう。 まずは、遊びから入っていきます。</p>		
10分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>①せーのパン!! (P99)</p> <p>②自己紹介</p> <p>③紙タワー (P101)</p>	<p>①4人ずつのグループをつくる。</p> <p>②子どもの頃、地域の大人は怖かったかをテーマにするとよい。</p> <p>③A4・A5用紙をグループに20枚程度用意し、できるだけ高さのある物体を5分間でつくることで競い合う。</p>	A4・A5用紙 20枚程度ずつ メジャー
40分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p>		
	<p><b>【中心のワーク】</b></p> <p>①ワーク1の②の欄に、わが子ならどう対応するか考え、数字を記入する</p> <p>②グループのメンバーの対応を確認し、わが子へのかかわり方について話し合う</p> <p>③ワーク1の④の欄に、知っている子どもならどうするか、⑤の欄に、知らない子どもならどうするか考え、数字を記入する</p> <p>④それぞれグループのメンバーの対応を確認し、よその子どもへのかかわり方について話し合う</p> <p>⑤グループの話し合いの様子を発表する</p> <p>⑥まとめ</p>	<p>・個人作業は、これまでの経験や自分の価値観で、どうしているか、どうするか考え、素直な気持ちで判断するよう伝える。</p> <p>・②④では、メンバー全員の対応をワークシートに書き込んだあと、理由や根拠について話し合うよう指示する。</p> <p>・②よりも④に話し合いの重点がいくようにすすめる。</p> <p>・各グループの話し合いの把握に努める。</p> <p>・⑤では、話し合いで中心の話題になったことを発表するよう伝える。</p> <p>・⑥では、親としての社会的な役割についてコメントする。</p>	ワークシート 筆記用具
8分	<p><b>【ふり返りと分かち合い】</b></p> <p>①今後の子どもたちへのかかわり方について、自分ができることをワーク2に書く</p> <p>②気づきを広める</p>	<p>・今後のよその子とのかかわり方について考えるよう助言する。</p> <p>・全体に広めたい気づきを把握して、発表かコメントにつなげる。</p>	ワークシート
2分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>いかがでしたか？「いけないことはいけない」とわが子にはっきりと示すことは親の役割です。さらに大人として、わが子でなくても「いけないことはいけない」と伝えることが今求められているのではないのでしょうか。また、今日は、“かかわり方”や“しかり方”について考えましたが、ほめることも大切ですよね。地域のみんで子どもを育てていけるようになるとよいですね。</p> <p style="text-align: center;">《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</p>		



## 2-② “オトナ” の役割を考える

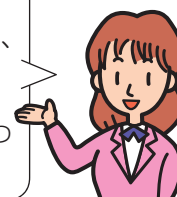
### ① ワーク1の㉗の欄に、「わが子」ならどう対応するか考え、数字を記入する（3分）



では、ワークシートのワーク1をご覧ください。  
 子どもの具体的な生活場面を想定して、どうかかわるかについて、まずは、個人で考えていただきます。  
 （ワーク1の「子どもの様子」と「1～5の対応」を読みあげる。）  
 では、㉗の「あなた」の欄に、●●が自分の子どもだったら、どうするかを考え、1～5の数字をつけてみましょう。これまでの経験から、自分の判断で素直な気持ちで書いてみてください。3分間程度でお願いします。

### ② グループのメンバーの対応を確認し、わが子へのかかわり方について話し合う（9分）

（ほぼ全員が個人の数字をつけたことを確認して）  
 それでは、グループのメンバーの対応を確認しましょう。まず、他のメンバーの対応を聞いて、ワーク1の㉘の「グループのメンバー」の欄に書き込みましょう。  
 （どこのグループも書き込めたことを確認して）  
 では、それぞれの対応について、自分の考えや思いを出し合って、わが子へのかかわり方についてグループで話し合しましょう。時間は、6分間程度です。



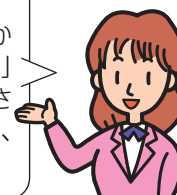
### ③ ワーク1の㉙の欄に、「知っている子ども」ならどうするか、㉚の欄に、「知らない子ども」ならどうするか考え、数字を記入する（3分）



それでは、次に、ワーク1の㉙の欄には、●●が知っている子ども、例えば、近所の子どもやお子さんの友だちだったら、どうするか、また、㉚の欄には、●●が知らない子どもだったら、どうするかを考えて、それぞれ数字を記入してください。  
 先ほどと同じで、まずは、3分間程度、個人で考えて、記入してください。

### ④ それぞれグループのメンバーの対応を確認し、よその子どもへのかかわり方について話し合う（15分）

それでは、グループのメンバーの対応を確認しましょう。まず、他のメンバーの対応を聞いて、ワーク1の㉛と㉜の欄に書き込みましょう。  
 （どこのグループも書き込めたことを確認して）  
 では、それぞれの対応について、自分の考えや思いを出し合って、よその子どもさんへのかかわり方についてグループで話し合しましょう。対象が「わが子」「知っている子」「知らない子」によって、かかわり方に違いがあったと思います。それぞれの違いについても話し合ってください。時間は、13分程度です。後で、グループの話し合いの様子を簡単に発表してもらいますので、代表者も決めておいてください。



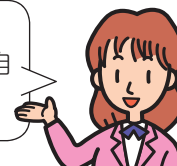
### ⑤ グループの話し合いの様子を発表する（8分）



時間になりましたので、グループ発表に移ります。代表の方は、グループの話し合いで中心になったことを簡単に発表してください。

### ⑥ まとめ（2分）

（グループワークの様子をコメントする）  
 それでは、今日の学習をふり返って、これからの子どもたちへのかかわり方について、自分ができることを考えて、ワーク2に書きましょう。



# “オトナ”の役割を考える

**ワーク1** 下記の項目について、あなたなら子ども（たち）に対して、どんな対応をするか考え、1-5の数字を書き込んでください。

子どもの様子	⑦ わが子		④ 知っている子ども		⑤ 知らない子ども	
	あなた	グループのメンバー	あなた	グループのメンバー	あなた	グループのメンバー
A ●●が線路に石をおいて遊んでいる。						
B ●●が店の中で友だちと追いかっこをはじめた。						
C ●●が遊んではいけない池で遊んでいる。						
D ●●が友だちと小さい子を蹴ってからかっている。						
E ●●が集団で友だちを仲間はずしにしている。						



- 1 …… 大声でしかる。
- 2 …… その場でしかり、どうしていけないかを真剣に伝える。
- 3 …… 注意を促す。
- 4 …… とりあえず様子を見守る。
- 5 …… その他 [ ]

**ワーク2** これからの子どもたちへのかかわり方について、自分ができることを考えて書きましょう。

## 2-③ ○○地区の子どもたちに示したい大人のふるまい

■対象：幼児～中学生をもつ親 ■時間：60分程度 ■手法：カードワーク

**学習のねらい** 地域の子どもたちに対しての大人のふるまいを考えることで、大人（親）としての社会的な役割に気づく。

**準備するもの** 名刺大に切ったカード（コピー用紙でも代用可） 価値観記入カード 筆記用具  
ワークシート 音探し あめ 時計（ストップウォッチ）

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>今日は、○○地区の子どもたちに示したい大人のふるまいについて一緒に考えていきましょう。 その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
15分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>①音探し（親学プログラム P99） 〔グループ分け〕</p> <p>②何でやねん（P98）</p> <p>③自己紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本4人ずつのグループをつくる。</li> <li>・グループの雰囲気づくりにつなげる。</li> <li>・「地域の良さ」をテーマに自己紹介するとよい。</li> </ul>	音探し あめ
35分	<p style="text-align: center;"><b>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</b></p> <p><b>【中心のワーク】</b></p> <p>①カードに考えや想いを記入する</p> <p>②カードを集めて中央におく</p> <p>③カードをひいて、選択する</p> <p>④最後に残したカードについて、想いを紹介し合い、話し合う</p> <p>⑤まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1枚のカードには1つのことを記入し、できるだけ多く記入するように伝える。</li> <li>・状況に応じて、子どもたちに示したいふるまいが記入してあるカードを含めてもよい。</li> <li>・どのカードも大切なふるまいであることを確認し批判しない。</li> <li>・カードを残した理由、迷ったカードなどについて想いを出し合い、時間いっぱい話し合うように伝える。</li> <li>・時間に応じて、すべてのカードを見て、話し合うようにすすめる。</li> </ul>	カード 筆記用具 (価値観記入カード)
8分	<p><b>【ふり返りと分かち合い】</b></p> <p>①今後の子どもたちへのかかわり方について、気づきや考えをワークシートに書く</p> <p>②グループで発表し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーク1、ワーク2は両方書いてもよいし、片方だけでもよい。必要に応じて使い分けるとよい。</li> <li>・全体に広げることができれば、取り上げる。</li> </ul>	ワークシート
2分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>いかがでしたか？ われわれ大人のふるまいが、地域の子どもたちの育ちに影響を与えていることは、少なからずあるはずですよ。 これからも、○○地区の子どもたちを地域の大人みんなで育てていこう、今日みんなで考えた「地域の子どもたちに示したい大人のふるまい」を意識して、地域の子どもたちにかかわっていきましょう。</p> <p style="text-align: center;"><b>《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</b></p>		

## 2-③ ○○地区の子どもたちに示したい大人のふるまい

※ 名刺大のカードをグループ [基本 4 人グループ] に渡す。[各グループに 50 枚程度]

### ① カードに考えや想いを記入する (10分)



カードに「○○地区の子どもたちに示したい大人のふるまい」を考えて、思いついたこと・考えたことを記入してください。簡潔に、思いついたまま、できるだけ多くカードを書いてください。ただし、1枚のカードには1つのことを書いてください。

※例えば… [下記参照]

時間は、8分程度です。お願いします。

※ 例えば…

明るい笑顔で接する

明るい笑顔で、気持ちのよいあいさつをする

○ 1枚に1つのこと

× 1枚に複数のこと

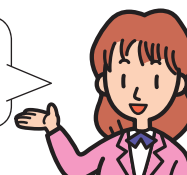
※ カードに書くことを思いつかないようであれば、下記のようなことを補助的に説明するとよい。

具体的な子どもたちとの生活場面を考えてみてください。例えば…

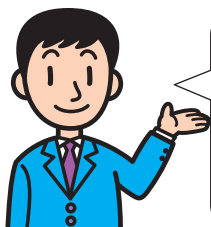
- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> すれ違ったり かかわったりする中で     | <input type="checkbox"/> 授業公開日 / 学校行事 / P T A 奉仕作業で |
| <input type="checkbox"/> スポ少・子ども会などで           | <input type="checkbox"/> 電車やバスなど 公共交通機関の中で          |
| <input type="checkbox"/> お店で [スーパー・飲食店 など]     | <input type="checkbox"/> 図書館・歴史館・美術館・公園などで          |
| <input type="checkbox"/> 地域の行事やイベントで           | <input type="checkbox"/> 地域のためになることをやっている           |
| <input type="checkbox"/> 明らかに危険なこと / 悪いことをしている | など  |

### ② カードを集めて中央に置く (1分)

全員のカードを1つにまとめ、トランプのように切りましょう。  
そして、書いてある方が見えないようにして、グループの中央に置いてください。



### ③ カードをひいて、選択する (10分 … 全てのカードがなくなるまで)



1人1枚ずつカードをひいてください。  
次のカードをひいた時、より「地区の子どもたちに示したい大人のふるまい」だと思う方を手元に残してください。どれも大切なカードですが、どちらか1枚に決めてください。  
選ばなかったカードは自分の前に裏返して置いてください。  
これをカードの山がなくなるまで繰り返してください。

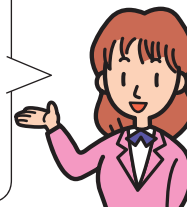
### ④ 最後に残したカードについて、想いを出し合い、話し合う (13分)

最終的に手元に残したカードはどんなカードですか？まずは、グループでお互いに見せ合しましょう。

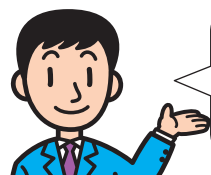
そして、なぜそのカードを残したのか、迷ったカードは何だったのか、理由や想いを出し合しましょう。

13分程度時間をとるので、時間まで、「地区の子どもたちに示したい大人のふるまい」について話し合いを深めてください。

※ 時間があれば、全てのカードを見て話し合ったり、別なグループのカードでカードワークを繰り返したりするとよい。



### ⑤ まとめ (1分)



それぞれグループのメンバーの理由や想いを聴き、どう感じましたか？  
それでは、今日の学習 [研修・講座] をふり返って、気づいたことや考えたことをワークシートに書きましょう。

2-③「〇〇地区の子どもたちに示したい大人のふるまい」ワークシート

## 〇〇地区の子どもたちに示したい大人のふるまい

ワーク1

参加されたみなさんの想いや気づきを聴いて、感じたこと・考えたことを書きましょう。



ワーク2

地区の子どもたちのよりよい育ちのため、今後親として、大人として、子どもたちにどうかかわっていけばよいか、気づいたことや考えたことを書きましょう。



<p>地域の行事を楽しむ</p>	<p>P T A 奉仕作業を がんばっているところ</p>
<p>親子活動にはりきって 参加する</p>	<p>いろんなことに感謝する</p>
<p>地域や近所の方の 悪口・文句を言わない</p>	<p>学校の先生を うやまう</p>
<p>電話の応対を ていねいに美しく!!</p>	<p>大人みんなが “笑顔”に</p>
<p>よその子も同じように かわいがる</p>	<p>(時には) 怖そうな顔 (大人をなめるな!!)</p>



## 2-④

# 〇〇地区の子どもは、こんな子どもに育ってほしい

■対象：幼児～中学生の親

■時間：70分程度

■手法：ランキング

**学習のねらい** 地域（学校・保育所）のめざす子ども像について語り合うことで、さまざまな価値観にふれ、地域の1人の親としてできることを考える。

**準備するもの** あめ ワークシート 掲示用一覧表 筆記用具

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>わが子に対して、「こんな子どもに育ってほしい」という想いは、みなさんもっておられることだと思います。そこで、今日は、地区全体の子どもたちが、どんな子どもに育ってほしいかをみなさんで考えていきたいと思っています。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
10分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>①あめでグループ分け ②大きなかぶ（親学プログラム P101） ③自己紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ数のあめの種類を用意して、自由に選んでもらい、同じ種類のあめを選んだ者同士でグループをつくる。</li> <li>自己紹介は、地域の好きなところを取り上げるとよい。</li> </ul>	あめ
45分	<p style="text-align: center;"><b>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</b></p> <p><b>【中心のワーク】</b></p> <p>①ワークの説明を聞く ②ワーク1に個人で順位付けを記入する ③グループでそれぞれの順位付けを確認する ④それぞれ順位付けした理由や根拠を紹介し合う ⑤グループの順位付けについて話し合い、決定する ⑥各グループの考えを紹介し合う ⑦まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの項目「地区の子どもの姿」は、それぞれの地域の実情に応じて加筆・修正して実施する。</li> <li>ワークシートの項目の詳細は、各自の判断にゆだね、あまり細かい説明はしない方がよい。</li> <li>全ての順位付けが難しいようなら、できる範囲で順位をつけたり、同じ順位をつけたりしてもよいことを伝える。</li> <li>合意形成を大切にしながらも、意見がまとまらなければ、その様子を発表してもらおう。</li> </ul>	ワークシート 筆記用具  掲示用一覧表
13分	<p><b>【ふり返りと分かち合い】</b></p> <p>①グループで考えたように地区の子どもたちが育つために、今後、できることを考えてワーク2に記入する ②グループで発表し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書きにくいようであれば、感想や心に残ったキーワードを書いてもよいことを伝える。</li> <li>全体に広げることができれば、積極的に取り上げる。</li> </ul>	
2分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>いかがでしたか？ みなさんは、わが子の子育てに一生懸命毎日取り組んでおられると思います。今日、みんなで地区全体の子どもたちのことを考え、これまであまりよそのお子さんのことや地域全体のことまで考えていなかったことに気づかれた方もおられたと思います。</p> <p>今日の学びが、地域の大人みんなで、よそのお子さんのよりよい育ちのことも考えながら、子育てする地域づくりにつながればと思っています。</p> <p style="text-align: center;"><b>《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</b></p>		

## 2-④ ○○地区の子どもは、こんな子どもに育てほしい

### ① ワークの説明を聞く（2分）

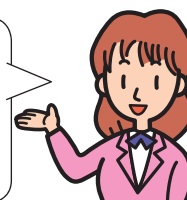


それでは、地区全体の子どもたちが、どんな子どもに育てほしいかをみなさんで考えていきたいと思います。  
ワークシートをご覧ください。（ワーク1の説明と地区の子どもたちの姿を読む）

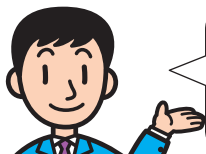
### ② ワーク1に個人で順位付けを記入する（5分）

まず、個人で考えて、あなたの欄に、「1」から「10」までの順位を記入しましょう。時間は5分程度です。

【できるだけ全ての項目の順位をつけてほしいのですが、どうしても、順位付けが難しいようなら、空欄があったり、同じ順位があったりしてもかまいません。】



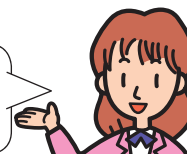
### ③ グループでそれぞれの順位付けを確認する（3分）



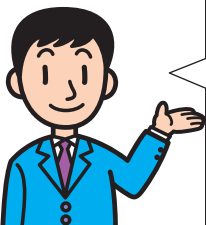
それでは、グループの中で1人ずつ、自分がつけた順位を発表してください。他の方は、グループのメンバーの欄に、メンバーの名前と順位を書き込んでください。まずは、表を埋めるところまでお願いします。

### ④ それぞれ順位付けした理由や根拠を紹介し合う（8分）

どのグループも表が埋まったようなので、次は、なぜその順位付けにしたのか、理由や根拠を紹介し合ってください。時間は、8分程度です。



### ⑤ グループの順位付けについて話し合い、決定する（17分）



それぞれメンバーの順位の理由や根拠がわかったと思います。今度は、グループのメンバーで相談して、グループの順位を決定していただきます。その際、グループの全員が納得する順位にすることが条件です。

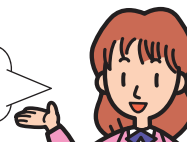
多数決にしたり、安易に人の意見に流れたりしないように、メンバーの意見をしっかり聴いて、よく考え、判断してください。どうしても決まらない場合は、それでも結構です。

あとで、どうしてそのグループの順位にしたのか発表してもらいますので、代表の方も決めておいてください。時間は17分程度です。

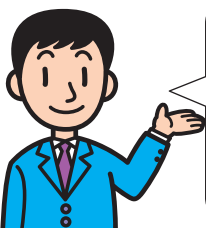
※ 掲示用の一覧表を掲示し、グループの順位が決定したグループから書き込んでもらう。

### ⑥ 各グループの考えを紹介し合う（8分）

各グループ1分程度で、要点や迷った点などを簡単に発表してください。



### ⑦ まとめ（2分）



いかがでしたか。  
（例）○○グループでは、親もすすんで地域の行事やイベントに参加して、子どもたちを巻き込んでいくことが大事だと話し合っておられました。

では、今日みなさんで考えたように子どもたちが育つために、今後、できることを考えて、ワーク2に書き込みましょう。


## 2-④「〇〇地区の子どもは、こんな子どもに育てほしい」ワークシート

## 〇〇地区の子どもは、こんな子どもに育てほしい

**ワーク1** 下記の項目について、地区の子どもたちは、こう育てほしいと最も強く願うものを「1」とし、その次に願うものを「2」とし、以下順に「3」「4」……「10」というように、すべての項目に「1から10」の順位を記入してください。

地区の子どもたちの姿	あなた	グループのメンバー				グループ 決定
① 地域の山に何度も登ったことがある子ども						
② 地域の伝統行事にはりきって参加する子ども						
③ 地域の偉人について語れる子ども						
④ 地域の自慢ができる子ども						
⑤ 地域の大人にすすんであいさつしたり、会話をしたりできる子ども						
⑥ 地区民体育祭にはりきって参加する子ども						
⑦ 地域の自然の中で、思いっきり遊べる子ども						
⑧ 将来、この地域で働く子ども						
⑨ この地域（ふるさと）を愛する子ども						
⑩ 地域の異年齢集団で群れて遊ぶ子ども						

**ワーク2** 今日みなさんで考えたように地区の子どもたちが育つために、今後、できることを考えて書きましょう。



## 2-⑤ 幸せってなんだろう

■対象：乳幼児～中学生の親 ■時間：60分程度 ■手法：即答フリップ方式全員参加型ディスカッション

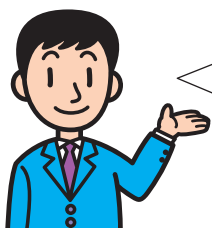
**学習のねらい** うれしかったことや、日々の暮らしの中で感じる幸せについて意見交換することで、自分にとっての幸せとは何か考える。

**準備するもの** 70cmのひも〔7本/班〕 A4用紙〔6枚/人〕 バインダー マーカー 時計（ストップウォッチ）

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>今日は、みなさんにとって「うれしかったこと」や「幸せだなと感じたこと」について話し合ってみたいと思います。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
10分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>①ジャンケン大会 (P96)</p> <p>②幸せの〇〇〇リング（親学プログラムP98） ・4人組でリングをつくる（ひも持ち役1名、結び役3名）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①は、インタビューの後、勝敗にこだわるのではなく、楽しくできたことをコメントする。</li> <li>・②は通常3人組で行うが、中心のワークを4人グループで行うので、4人組とした。グループ分けを別の方法で行う場合は3人組でよい。</li> </ul>	ひも
40分	<p style="text-align: center;"><b>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</b></p> <p><b>【中心のワーク】</b></p> <p>①ワークの説明を聞く ②質問を聞いて、思いついたことをフリップに記入する ③フリップを見せ合い、グループで話し合う ※②～③を繰り返す</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1. 最近、食べて、おいしかったもの 【5分】 2. 最近、うれしかったこと 【10分】 3. あなたにとって、幸せを感じるのはどんな時・どんなこと 【10分】</p> </div> <p>④「3. あなたにとって、幸せを感じるのはどんな時・どんなこと」を全体で紹介する ⑤まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで円形に座る。※机なし</li> <li>・状況に応じて、話し合いの様子を全体で紹介する。</li> <li>・自分の考えをフリップに書けない参加者がいた場合、無理強いせず、他の人の意見を参考に自分の生活をふり返ってみることを勧める。</li> <li>・「3. あなたにとって、幸せを感じるのはどんな時・どんなこと」については、全体で紹介する。「わが子とのかかわりによるもの」と、「その他地域社会等でのかかわりによるもの」で分けて聞く。このことによって、いろいろな幸せのとらえ方があることに気づくようにする。</li> <li>・まとめでは、人によって感じる幸せは、日々の暮らしの中にいろいろあることを伝える。</li> </ul>	バインダー A4用紙 マーカー
8分	<p><b>【ふり返りと分かち合い】</b></p> <p>①今日の活動をとおして、感じたことや気づいたことをキーワードで書く ②全体で共有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フリップ方式の最終質問をふり返りとする。</li> </ul>	
2分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>いかがでしたか？ 毎日暮らしていれば、楽しいことばかりがあるわけではありませんが、日々の暮らしの中で感じるちょっとした幸せを大切にして、大人も子どもも一緒に楽しく生活していきたいですね。</p> <p style="text-align: center;"><b>《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</b></p>		

## 2-⑤ 幸せってなんだろう

### ① ワークの説明を聞く（3分）



（グループごとにイスに座る。バインダーにA4用紙を質問数綴じて、マーカーとともに配付する。）

それでは、中心のワークに移ります。これから、3つの質問をします。その質問について、思いついたことや考えたことをできるだけ簡単に、大きな字で、お配りしたA4用紙〔フリップ〕に書き込んでください。書き込む時は、メンバーに見えないようにしてください。

皆さんが書き込まれたところで、私が「せーの!!」と声をかけるので、一斉にフリップを見せ合ってください。そして、時間の指示を出すので、なぜそう書いたのか紹介し合っ、時間になるまでテーマについて、話し合ってください。

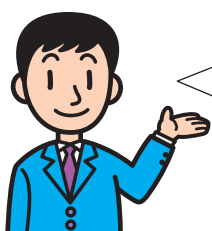
### ② 質問を聞いて、思いついたことをフリップに記入する

### ③ フリップを見せ合い、グループで話し合う ②～③を繰り返す（25分）

※ 書く時間とグループで話し合う時間の配分は、様子を見て設定する。

質問	
1	「最近、食べて、おいしかったもの」を書いてください。（5分）
2	「最近、うれしかったこと」を書いてください。食べもの以外でお願いします。（10分）
3	「あなたにとって、幸せを感じるのはどんな時・どんなこと」を書いてください。（10分） ※書きにくいようであれば「ほっとしたこと」「わくわくしたこと」「感動したこと」などでもよい。

### ④ 「3. あなたにとって、幸せを感じるのはどんな時・どんなこと」を全体に紹介する（10分）



今、グループで紹介していただいた「あなたにとって、幸せを感じるのはどんな時・どんなこと」を全体で紹介していただきます。

ここでは、2つに分けて聞いてみたいと思います。「わが子とのかかわりの中で感じた幸せ」と「地域社会の中で感じた幸せ」に分けると、どちらですか。

それではまず、「わが子とのかかわりの中で感じた幸せ」について書かれた方は、フリップをあげてください。

（何人かに紹介してもらおう）

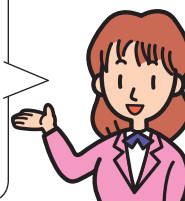
次に、「地域社会の中で感じた幸せ」について書かれた方は、フリップをあげてください。

（何人かに紹介してもらおう）

### ⑤ まとめ（2分）

今日は、みなさんから、いろいろな「うれしかったこと」や「幸せを感じる時やこと」を紹介していただきました。普段あまり考えることのない「幸せ」は、感じ方こそ人それぞれですが、案外、日々の身近な暮らしの中にいろいろあるのですね。

それでは、今日の活動をふり返って感じたことや気づいたことをキーワードで、最後のフリップに書きましょう。





### 3-① われわれ大人にできること

■対象：乳幼児～中学生をもつ親 ■時間：90分程度 ■手法：シミュレーション・ラベルワーク

**学習のねらい** いじめの問題を解決する上で、大人の役割が重要であることを知る。そして、いじめを予防するために自分自身ができることを考える。

**準備するもの** ワークシート 模造紙 マーカー 付箋 時計（ストップウォッチ）  
※中心のワークの前半はイスのみ（扇形）・後半は机が必要

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>最近、子どもにかかわる様々な問題が起きています。今日は、その中から「いじめ」を取り上げます。 “いじめは子どもの問題”と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、本当にそうでしょうか。私たち大人にできることはないのでしょうか。今日はそのあたりをみなさんといっしょに考えたいと思います。</p>		
15分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>①幸せジャンケン（親学プログラム P97） ②バースデーチェーン（親学プログラム P100） ※バースデーチェーンの順に扇形の隊形でイスに座る ※座った順に【中心のワーク】のグループ（4名程度）をつくり、簡単な自己紹介をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①は「たくさんの参加者と知り合う」「心が通じ合う（あいこになる）と気持ちが良いことを知る」をねらいとして実施する。</li> <li>・②は【中心のワーク】の隊形・グループをつくるために実施する。</li> </ul>	扇形に並べたイス
65分	<p style="text-align: center;"><b>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</b></p> <p><b>【中心のワーク】</b></p> <p>①いじめの疑似体験（全体） ・ファシリテーターと1～2名の参加者が“いじめめる役”、別の1名の参加者が“いじめられる役”、残りの参加者は“傍観者役”の役割を演技する ・役割演技をした参加者の感想を聞く</p> <p>②いじめの疑似体験（グループ） ・2班でひとつのグループをつくり、“いじめめる役”“いじめられる役”“傍観者役”の役割を交代して行う</p> <p>③新聞記事を読む ④大人に何ができるのかを話し合う ・各班代表もしくはファシリテーターが話し合いの様子を全体に伝える ⑤自分に何ができるのかを考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①および②の疑似体験では、特に“いじめられる役”の役割演技を無理強いしない。</li> <li>・①では、状況によってはファシリテーターおよび主催者が“いじめめる役”“いじめられる役”の役割演技を行う。</li> <li>・“いじめめる役”“いじめられる役”を子ども、“傍観者役”を大人に見立てる。</li> <li>・疑似体験が終わったら演技者にねぎらいの言葉を一声かける。</li> <li>・話し合いでは、いじめや差別の現場に直面したとき、何もできない場合もあることを認めつつ、それでも何かできることはないかを考えるよう促す。</li> </ul> <p>※【中心のワーク】は幸田英二氏（人権ワークショップ研究会代表）の『いじめと差別は同じもの!?!』『ストップ・ザ・イジメ』を参考に作成</p>	ワークシート 机・模造紙・マーカー・付箋
8分	<p><b>【ふり返りと分かち合い】</b></p> <p>①自分にできることをグループの中で紹介する ②気づきを広める</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に広めたい気づきを把握して、発表かコメントにつなげる。</li> </ul>	
2分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>いかがでしたか。あさのあつこさんのお話の最後に「子どもたちを守るのは、私たち大人しかいない」とありました。このことを肝に銘じて、この地域の子供たちを守るために、まずはできることから、みんなで取り組んでいきたいですね。</p> <p style="text-align: center;"><b>《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</b></p>		



### 3-①「われわれ大人にできること」

#### ① いじめの疑似体験（全体）（15分）



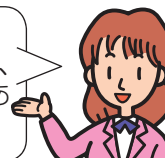
「いじめの問題を解決するために大人ができること」を考える前に、いじめがどのようなものを疑似体験してみたいと思います。どなたかお一人「いじめられる側」の役割をしてくださる方はいらっしゃいませんか。（いじめられる役の方に前に座ってもらう）最初は、私が「いじめる側」になって始めたいと思います。

	演技者	演技内容	ファシリテーターの声かけ	予想される参加者の声
1	A いじめる役（ファシリテーター） B いじめられる役（1名）	AがBの前に立つ	「いじめは、ある一定の人間関係のある者による行為です。」「Bさん、どんな気持ちですか。」	「前に立たれると、少し嫌な気持ちになります。」
2	A いじめる役（ファシリテーター） B いじめられる役（1名）	AがBに対して斜にかまえる	「例えばこれは心理的ないじめです。」「Bさん、どんな気持ちですか。」	「にらまれると、やはり嫌な気持ちです。」
3	A いじめる役（ファシリテーター） B いじめられる役（1名）	AはBに向けて指さす	「そして、これは物理的ないじめの行為です。」「Bさん、どんな気持ちですか。」	「すごく嫌な気持ちです。」
4	A いじめる役（2名） B いじめられる役（1名）	(Aの人数を増やす)	「いじめは集団で行われる場合もあります。」「Bさん、どんな気持ちですか。」	「1人よりも複数で指さされた方がつらいです。」
5	A いじめる役（2名） B いじめられる役（1名） C 傍観者役（残り全員） C 無関心者役（残り全員）	Cがその場で立ち、黙ってA・Bを見る その後、後ろ向きに立つ	「みなさん、その場でご起立ください。」「Bさん、どんな気持ちですか。」 「次に後ろ向きになってください。」 「Bさん、どんな気持ちですか。」 「さらに嫌な気持ちになったそうですが、先ほど立たれた方は何かしましたか。」 (C役の誰かに聞く)	「圧迫感があって、さらに嫌な気持ちになりました。」 「なぜ助けてくれないのかと孤独な気持ちになりました。」 「いいえ。何もしていません。」 「かわいそうだと思って見ていました。」
「このように傍観や無関心がいじめられている者をさらに追い詰めてしまうことがあります。」「私たち大人(C)と子どもたち(A・B)の関係がこのようになっていないでしょうか。」「かわいそうと思っているだけでは救えないどころか、逆に傷つけてしまうことになるかもしれません。」				
6	A いじめる役（2名） B いじめられる役（1名） C 支援者役（残り全員）	CがBの横や後ろに移動する	「みなさん、Bさんの横に寄り添って座ったり、後ろに立ってみたりしてください。」「Bさん、どんな気持ちですか。」 「Aさんたちはどんな気持ちですか。」	「少し安心感が出てきました。」 「指をおろしたくなりました。」

※5と6が最も大切にしたい役割演技。子どもの世界で起きているいじめを“大人の問題”として考えるきっかけとしたい。

#### ② いじめの疑似体験（グループ）（10分）

それではみなさんも体験してみましよう。1班と2班、3班と4班…という具合に2班で1つのグループ（8～10人）を作ってください。グループの中でどなたからでも結構ですので、いじめる役・いじめられる役・周りの大人役になって役割演技をしてみましよう。強制ではありませんので「やりたくない」と思われた方は無理をなさらないでください。



#### ③ 新聞記事を読む（5分）



（ワークシートを配る）これは大津のいじめ自殺事件を受けて書かれたインタビュー記事です。私が読んでみますので聞いてください。

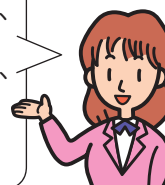
#### ④ 大人に何ができるのかを話し合う（30分）

記事の最後の段落に「真剣に受け止めて何かできるのか」とありました。疑似体験して感じたことや、新聞記事を読んで気づいたことなどを参考に、親として、そして大人として、われわれにできることを考えてみましよう。

まず5分程度時間をとりますので、各自で付箋に思いついたことをできるだけたくさん、自由な発想で書いてください。

（付箋が書けたら）付箋の内容を班のメンバーに紹介しながら、模造紙に貼ってください。

（付箋が貼れたら）同じものや似たものを近くにまとめて、見出しをつけてみましよう。



※各班代表もしくはファシリテーターが話し合いの様子を全体に伝える。

#### ⑤ 自分に何ができるのかを考える（5分）



いじめ問題に対して、自分自身にできることはあったでしょうか。話し合いの中で出てきたことの中から「これはやる・できる」というものを選んで、ワークシートに書いてみましよう。（書けたら）班のメンバーに書いたことを紹介（宣言）してみましよう。

## 3-①「われわれ大人にできること」ワークシート

## われわれ大人にできること

## ◆大人が変わろう 作家 あさのあつこさん

大人たち、もっとしっかりしよう。今、一番しっかりしないといけないのは私たちだ。親、学校、教育委員会、PTAだけでなく、子どもにかかわるあらゆる大人が子どもを守るという原点に戻らないといけない。なんでこんな事件が再び起こったのか。過去にも同じことがあったのに、なぜ大人は変わらないのか。

いじめは子どもたちの問題と思われがちだが、実はそうではない。大人の問題だ。子どもが変えられるところは自分とその周辺に限られるが、大人はもっと大きなところを変えることができる。

同年代の子どもが集まると、問題やぶつかり合いが起きる。これは時代なんて関係なく、ずっとあったこと。でも、生きる手だてや希望を与えたのは大人たち。自分たちには関係ないことでも、子どもを変えれば何とかなる問題でもない。もう人ごとではない。いろんな立場の大人がかかわることが必要だ。

大人が、子どもの命を守る姿勢、言葉、態度を本気で見せること。これが子どもたちの希望になる。自殺を止める力になるし、いじめている子を減らす力になる。

いじめている子は、自分たちがやっていることはばれない、罰せられないと、世の中をなめている部分があるが、大人はいじめを許さない、そして、いじめられている子を守ってくれると、子どもたちが信じることができれば、解決できる問題はたくさんある。

今、子どもたちの精神の土台がぐらついている。それがいじめを生み、いじめによって死を選ぶことにつながっている。子どもが大人を信じることができれば、子どもは安定する。

いじめの問題は、大人の、社会の在り方を突き付けていると思う。大人がそのことを本当に感じ取れるのか、真剣に受け止めて何かできるのか。亡くなった子に報いるために、二度と同じことが起こらないようにするしかない。子どもたちを守るのは、私たち大人しかない。

「いじめと向き合うー私が伝えたいこと」(2012年7月26日 共同通信)

<http://www.47news.jp/47topics/e/232599.php> (2014/7/24 アクセス)

※本記事は一般社団法人共同通信社およびあさのあつこ氏の許諾を得て使用しています。

## ◆自分に何ができるのかを考えてみましょう。



### 3-②

## いじめがおきない環境づくりのために

■対象：乳幼児～小学校低学年の親

■時間：90分程度

■手法：ラベルワーク・カードワーク

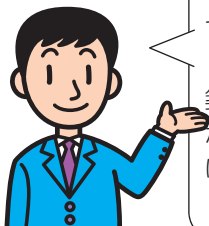
**学習のねらい** いじめがおきる要因や条件を考え整理したことをもとに、いじめがおきない環境づくりのため、親としてできることを考える。

**準備するもの** あめ A4・A5用紙 付箋(グループ数×50枚程度) 名刺大カード 模造紙(各グループ1枚) マーカー 筆記用具 ワークシート 時計(ストップウォッチ) 価値観記入カード

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>今、「いじめ」は大きな社会問題となっています。今日は、みなさんと一緒に、どうしていじめが起きるのかを考えて整理し、いじめがおきない環境づくりのために親としてできることを考えていきたいと思います。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
15分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>① あめでグループ分け</p> <p>② 自己紹介</p> <p>③ 紙タワー (P101)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ数のあめの種類を用意し、同じあめを選んだ人とグループをつくる。</li> <li>「子どもの頃の楽しい思い出」をテーマに自己紹介するとよい。</li> <li>A4・A5用紙を20枚程度用意し、できるだけ高さのある物体を5分間でつくることを競う。</li> </ul>	<p>あめ</p> <p>A4・A5用紙 20枚程度ずつ</p>
65分	<p style="text-align: center;"><b>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</b></p> <p><b>【中心のワーク】</b></p> <p>①個人で付箋に考えを記入する ②グループで付箋を分類し、島をつくる ③島を整理して、見出しをつける ④グループ発表を聞く ⑤親としてできることをカードに記入する ⑥カードを引いて選択する ⑦最後に残したカードについて想いを紹介し合い、話し合う ⑧グループで話し合ったことを代表が発表する ⑨まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>始めに、いじめられる側には問題はないことを確認した上で考えるようにする。「いじめる側の問題」と黒板等を書く。</li> <li>①では、思いつくままたくさんの情報を書くように伝える。</li> <li>④は、代表していくつかのグループに発表してもらってもよい。</li> <li>⑤では、ラベルワークの成果物を参考にしながら、考えるように伝える。</li> <li>カードワークについては、別のプログラムを参考にする。</li> <li>⑥では、用意した価値観記入カードをグループの山に入れて行う。</li> <li>⑧では、グループの話し合いの要点を簡単に発表してもらう。</li> <li>発表のキーワードを掲示するとよい。</li> </ul>	<p>付箋 筆記用具 模造紙 マーカー</p> <p>ワークシート</p> <p>カード 価値観記入カード</p>
8分	<p><b>【ふり返りと分かち合い】</b></p> <p>①ワークで感じたこと、気づいたことをワークシートに書く ②グループで発表し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己をふり返り、今後について考える時間をとる。</li> <li>全体に広げることができれば、積極的に取り上げる。</li> </ul>	ワークシート
2分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>いかがでしたか？いじめの問題を解決するためには、学校や幼稚園、保育所だけが頑張るのではなく、家庭も一緒になって、いじめが起きない環境や地域をつくっていくことが大切なのではないでしょうか。今日みなさんで考えたことをヒントに、これからも、みんなで楽しく子育てしていきましょう。</p> <p style="text-align: center;"><b>《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</b></p>		

### 3-② いじめがおきない環境づくりのために

#### ①個人で付箋に考えを記入する（10分）



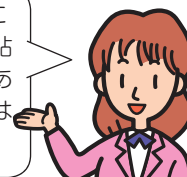
いじめは「誰もが被害者にも加害者にもなりうる」と言われていますが、「どうしていじめがおきしてしまうのか？」その背景や条件を考えてみたいと思います。

はじめは個人作業で、付箋に思いつく背景・条件を書いてください。簡単にできるだけたくさんの付箋に書いてください。ただし、いじめられる側に問題があると考えてしまうと、いじめの正当化につながりかねないので、必ずいじめられる側のことを考えてください。それから、1枚の付箋には1つのことだけを書いてください。時間は10分程度です。

[ ○ いじめの子は、▲▲だから × 相手が■■■だから ]

#### ②グループで付箋を分類し、島をつくる（10分）

次にグループでの活動に入ります。グループで順番を決めて、最初の人1人が1枚の付箋を模造紙の上に出し、簡単に説明します。その時、似た内容の付箋があればそれも紹介しながら、その付箋の近くに貼ります。似た内容の付箋がなくなったら、次の人が別の1枚を出し、同じように紹介し、似た付箋があれば近くに貼っていきます。これを繰り返して、模造紙の上いくつかの島をつくりましょう。時間は10分程度です。



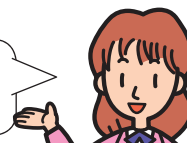
#### ③島を整理して、見出しをつける（10分）



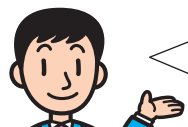
模造紙の上いくつか島ができていると思います。整理してその島の特徴を表す見出しを話し合ってください。時間は10分程度です。

#### ④グループ発表を聞く（5分）

グループ活動の様子を発表していただきます。  
(いじめの背景・条件が上手くまとめてあるグループに発表してもらってもよい。)



#### ⑤親としてできることをカードに記入する（7分）

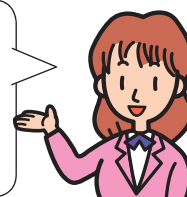


次はお配りしたカードに、いじめがおきない環境や地域をつくるために「親としてできること・親として大切にしたいこと」を記入してください。付箋と同じように1枚のカードに1つのことを簡単に記入してください。時間は7分程度です。

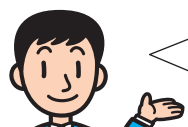
#### ⑥カードを引いて選択する（7分）

グループで記入したカードを1つにまとめ、トランプのようにしっかりきってください。きったらカードをふせてグループの中央に置いてください。

1人1枚ずつカードを引いてください。次にカードを引いた時、より大切にしたいと思うカードを手元に残してください。選ばなかったカードは自分の前にふせて置いてください。これをカードの山がなくなるまで、繰り返しましょう。時間は7分程度です。



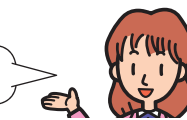
#### ⑦最後に残したカードについて想いを紹介し合い、話し合う（10分）



最後に残したカードをグループで見せ合って、残した理由や想いを紹介し合ってください。そして、いじめがおきない環境づくりのために親としてできることについて話し合しましょう。時間は10分程度です。

#### ⑧グループで話し合ったことを代表が発表する（5分）

代表の方は、グループの話し合いで中心になったことを簡単に発表してください。



#### ⑨まとめ（1分）



いじめの背景や親としてできることを話し合い、さまざまな気づきがあったと思います。今日の学びで感じたこと、気づいたことをワークシートに書いてみましょう。

3-②「いじめがおきない環境づくりのために」ワークシート

## いじめがおきない環境づくりのために

**ワーク1** グループでの話し合いや他のグループの発表を聞いて、大切だと思ったことをメモしましょう。



**ワーク2** 今日の学習で感じたこと、気づいたことを書きましょう。



<p>本の読み語り [読み聞かせ] を いっぱいする</p>	<p>動植物と一緒に かわいがる</p>
<p>おじいちゃん・ おばあちゃん [祖先] を 大事にする</p>	<p>自然体験をたっぷり</p>
<p>子どもと子どもを 比較しない</p>	<p>美しい日本語を使う</p>
<p>近い目標を 子どもと決める</p>	<p>思いっきりぎゅっと 抱きしめる</p>
<p>子どもに役割をもたせる</p>	<p>よその子もできるだけ ほめる</p>



### 3-③

## SOSを見逃さない

■対象：乳幼児～中学生の親

■時間：80分程度

■手法：ラベルワーク

**学習のねらい** 子どもが発するSOSのサインにはどんなものがあるかを出し合い、整理して、そのSOSのサインを敏感に感じ取るため、親としてできることを考える。

**準備するもの** コーナー表示 付箋（グループ数×50枚程度） 模造紙（各グループ1枚）  
マーカー 筆記用具 ワークシート ホワイトボード（風船） 時計（ストップウォッチ）

	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>今日は、子どもが発するSOSにはどんなものがあるのか、みなさんで一緒に考えていきたいと思います。そして、そのSOSのサインを敏感に感じ取るため、親としてできることを考えていこうと思います。 その前に、ちょっと私と遊びにおつきあいください。</p>		
15分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>①握手リレー（親学プログラムP100） ②4つのコーナー（親学プログラムP102） 【質問例】 (1)「ケーキが大好きだ」 (2)「私の子育ては完璧だ」 (3)「子どものことはよくわかっているつもりだ」 (4)「いじめはよくないことだ」 ③自己紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、おもしろくて単純なものからテーマにつながるものへと展開する。</li> <li>・状況に応じてインタビューを取り入れる。</li> <li>・最後の質問後、グループ分けにつなげる。</li> <li>・「子どもとのかかわりで大切にしていること」をテーマに自己紹介するとよい。</li> </ul>	コーナー表示
55分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p><b>【中心のワーク】</b></p> <p>①個人で付箋に考えを記入する ②グループで付箋を分類し、島をつくる ③島を整理して、見出しをつける ④グループ発表を聞く ⑤親としてできることを考えて、ワークシートに記入する ⑥グループで話し合う ⑦グループで話し合ったことを代表が発表する ⑧まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①では、思いつくままにたくさんの情報を書くように伝える。</li> <li>・④は、代表的なグループに発表してもらってもよい。</li> <li>・⑤では、ラベルワークの成果物を参考にしながら、考えるように伝える。</li> <li>・⑦では、グループの話し合いの要点を簡単に発表してもらう。</li> <li>・発表のキーワードをホワイトボードに記入するとよい。</li> </ul>	付箋 筆記用具 模造紙 マーカー  ワークシート  ホワイトボード
8分	<p><b>【ふり返りと分かち合い】</b></p> <p>①学習全体をふり返って、心に残っているキーワードをワークシートに書く ②参加者それぞれの想いをわかちあう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己をふり返り、今後について考える時間をとる。</li> <li>・時間があれば風船に書いてふり返りをするとよい。</li> </ul>	（風船）
2分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>いかがでしたか？ 子どもが発するSOSには、いろいろなものがあり、子どもによって、状況によって、その表し方は違っているのですね。 私たち親には、子どもを守る責任があります。今日の学びを日々の暮らしの中で活かし、子どもたちがのびのびと育つ環境づくりにつなげていきましょう。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</p>		

### 3-③ SOSを見逃さない

#### ① 個人で付箋に考えを記入する（10分）



これから、子どもが発するSOSについて、みなさんと一緒に考えていきます。  
 子どもは、よく観察するといろいろなサインを出しています。何かいやなことがあったり、困ったことに巻き込まれそうになったりすると、SOSのサインをよく発信すると言われています。  
 今日は、どんな形でSOSのサインを出すと思われるのか考えてみましょう。付箋に思いつくままに簡単に書いてください。ただし、1枚の付箋には1つのことを書いてください。例えば…（下記参照）  
 個人作業です。時間は10分程度です。できるだけたくさん付箋に書いてください。

※ 例えば…

**食事の量が減る**

○ 1枚に1つのこと

**食欲がなく、顔色が悪い**

× 1枚に複数のこと

#### ② グループで付箋を分類し、島をつくる（15分）

次にグループでの活動に移ります。まず、グループ内で発表の順番を決めてください。最初の方が、1枚の付箋を模造紙の上に貼り、書いたことを簡単に紹介してください。その時、メンバーの中に似た内容の付箋があれば、それも紹介しながら、その付箋の近くに、あるいは、重ねて貼ってください。

似た内容の付箋がなければ、次の方が別の付箋を1枚出し、同じように紹介し、似た付箋があれば、近くに貼っていきます。これを繰り返して、模造紙の上いくつもの付箋の島（仲間）をつくっていきましょう。時間は15分程度です。



#### ③ 島を整理して、見出しをつける（10分）

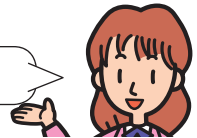


今、模造紙の上に、いくつもの島（仲間）ができていていると思います。その島の特徴を表す見出しを話し合っつけてみましょう。  
 その際、島と島の間を関係を考えて、島の位置も、もう一度整理してみましょう。時間は10分程度です。

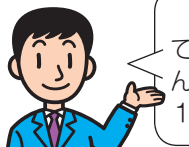
※ 時間がある場合は、簡単な図や絵に表すと関係の構造がわかりやすい。

#### ④ グループ発表を聞く（5分）

それでは、グループ活動の様子を発表していただきます。（代表グループでもよい。）



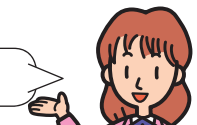
#### ⑤ 親としてできることを考えて、ワークシートに記入する（3分）



子どもの発するSOSには、いろいろなものがあるんですね。その中には「友達関係がうまくいっていない時に発するSOS」「いじめにかかわるSOS」も含まれていると思います。それでは、そんなSOSを敏感に感じとるため、親としてできることを具体的に考えて、3分間程度で、ワーク1に書きましょう。

#### ⑥ グループで話し合う（5分）

それでは、親としてできることをグループで話し合しましょう。時間は5分間です。



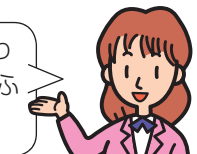
#### ⑦ グループで話し合ったことを代表が発表する（5分）



話し合いの要点を代表の方に簡単に発表していただきます。（代表グループでもよい。）

#### ⑧ まとめ（2分）

毎日の生活の中で、親が普段とは違うわが子のそぶりを見逃さないように意識を改めれば、わが子の発するSOSを敏感に察知することにつながるんですね。それでは、今日の学習全体を振り返って、ワーク2（風船）に、心に残っているキーワードを書きましょう。



3-③「SOSを見逃さない」ワークシート

# SOSを見逃さない

**ワーク1** 子どもの発する“SOS”を敏感に感じとるために、親としてできることを具体的に考えて書きましょう。



**ワーク2** 今日の学習全体をふり返って、心に残っているキーワードを書きましょう。  
(漢字1字でも 熟語でも 短い言葉でも 短い文章でも 絵を描いていただいてもかまいません)



### 3-④ ネットいじめから子どもを守る

■対象：乳幼児～中学生の親 ■時間：60分程度 ■手法：ラベルワーク

**学習のねらい** ネットいじめの特徴やリスクを出し合い、ネットいじめの怖さについて理解するとともに、子どもたちを守るためにできることを考える。

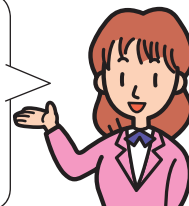
**準備するもの** 付箋(グループの数×50枚程度) 筆記用具 模造紙(グループに1枚) カード(1人10枚程度) マーカー ワークシート 時計(ストップウォッチ)

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>今日はネットいじめの特徴やリスクについてみなさんが知っておられることや経験から、ネットいじめの怖さについて考えていきたいと思います。そして、親として、どう子どもたちを守るができるのかを考えていきましょう。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
10分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>①バースデーチェーン(親学プログラムP100)</p> <p>②グループ分け</p> <p>③自己紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①では「誕生日順」などで並びかえる。</li> <li>・4～5人のグループに分ける。</li> <li>・「ネットと聞いて思い浮かぶこと」を紹介しながら、自己紹介してもよい。</li> </ul>	
40分	<p style="text-align: center;"><b>≪講座の前にルールとマナーを確認しましょう≫</b></p> <p><b>【中心のワーク】</b></p> <p>①ネットいじめの事例を聞く</p> <p>②ネットいじめの特徴やリスクについて、個人で付箋に記入する</p> <p>③グループのメンバーで付箋を出し合い、特徴やリスクについて分類・整理する</p> <p>④ネットいじめから、わが子を守るために家庭でできることを考え、グループで話し合う</p> <p>⑤まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①の事例は、【参考資料】をもとに話す。</li> <li>・②では、体験談や知人の話、マスコミ等の情報などから特徴やリスクを書くように伝える。なかなか書けない人には、①で伝えた例を参考にしてもらう。</li> <li>・③の終わりにワークシートを配り、特徴やリスクの例を見てもらう。話し合いで出なかったものについては、補足説明をする。</li> <li>・④は、カードを使って進める。</li> </ul>	<p>付箋 筆記用具 模造紙 マーカー ワークシート カード</p>
8分	<p><b>【ふり返りと分かち合い】</b></p> <p>①今日の学習をとおして、今後わが子と一緒に取り組みたいことや、子どもに伝えたいことをワークシートに記入する</p> <p>②グループで発表し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークをふり返り、今後について考える時間をとる。</li> <li>・全体に広げることができれば、取り上げてもよい。</li> </ul>	ワークシート
2分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>いかがでしたか？ 私たちを取り巻くネット環境は、とても便利です。しかし、その使い方を間違えるとネットいじめのように大変危険なことに巻き込まれる可能性があります。今日話し合われたことを家庭でも話題にいただき、ネットいじめから子どもたちをしっかりと守っていきましょう。</p> <p style="text-align: center;"><b>≪講座の最後にルールとマナーを確認しましょう≫</b></p>		

### 3-④ ネットいじめから子どもを守る

#### ① ネットいじめの事例を聞く（4分）

パソコン、携帯電話やスマートフォンをつかった、インターネットやSNSは非常に便利でおもしろい反面、大変な危険が潜んでいると言われています。その中でも今、問題になっている「ネットいじめ」の特徴とそのリスクについて、これからみなさんと考えてみたいと思います。まず、「ネットいじめ」とはどのようなものでしょうか？例えば次のような事例があります《P 113以降の【参考資料1】を参考に、数例伝える》



#### ② ネットいじめの特徴やリスクについて、個人で付箋に記入する（7分）



このような「ネットいじめ」には、どんな特徴やリスクがあるのでしょうか？最近のマスコミ等で取り上げられて知っていることや、知人から聞いたこと、経験から知っておられることなど、何でもかまいませんので、思いついたことを付箋に書いてください。ただし、一枚の付箋には一つのことを簡単に書いてください。時間は5分です。

※ 例えば…

知らない間に広まる

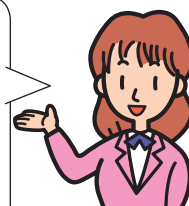
知らない間に広まり、ひどい書き込みをされる

○ 1枚に1つのこと

× 1枚に複数のこと

#### ③ グループのメンバーで付箋を出し合い、特徴やリスクについて分類・整理する（14分）

次に、グループ活動に入ります。まず、グループ内で発表の順番をきめてください。最初の人から1枚の付箋を模造紙の上に貼りながら、簡単に説明します。その時、メンバーの中に似た内容の付箋があれば、説明をしながらその付箋の近くに貼ります。似た内容の付箋がなくなったら、次の人が別の1枚を貼り、同じように説明をします。これを繰り返して、模造紙の上いくつもの島をつくりまします。時間は12分です。  
(③の終わりにワークシートを配り、特徴やリスクの例を見せよう。話し合いで出なかったものについては、補足説明を簡単にします。)



#### ④ ネットいじめから、わが子を守るために家庭でできることを考え、グループで話し合う（14分）



現れてきた特徴やリスクを受けて、私たち親は、わが子を守るためにどのようなことができるでしょうか。  
まず、個人の考えを付箋と同じように1枚のカードに1つずつ書いてみましょう。何枚書かれてもよいです。時間は7分です。  
次に、1人ずつカードを紹介し合ってください。時間は7分です。

#### ⑤ まとめ（1分）



それでは、グループのメンバーの考えも参考にして、今後わが子と一緒に取り組んでいきたいことやお子さんに伝えたいことについて考えたことをワークシートに書いてください。

3-④ 「ネットいじめから子どもを守る」ワークシート

# ネットいじめから子どもを守る

## 《ネットいじめの特徴やリスク（例）》

### 依存性

- 不安・心配からの依存症

### 消せない

- 問題の長期化
- 消えない
- 消すことが難しい

### 匿名性

- チェーンメール<sup>※3</sup>
- 嫌がらせメール

### 軽はずみから重大事件へ

- 個人情報の流出・拡散
- 動画・画像の流出・拡散
- 性的情報の流出・拡散  軽い気持ち
- 悪ふざけ  罪悪感が低い

### みえない

- 誤解をまねきやすい
- 誹謗（ひぼう）・中傷
- 発見が難しい  大人が気づきにくい
- いつでもできる  どこでもできる
- なりすましメール<sup>※1</sup>
- 無料通話アプリを使った仲間はずし<sup>※2</sup>

### 速い

- 止めにくい
- 瞬時に広がる
- 世界中に広がる

※1 特定の人物になりすましてメールを送りその人の社会的信用を落としめる行為等

※2 グループ内のやりとりで、1人を孤立させたり、仲間はずれにしたりする行為等

※3 「このメールを何人かに転送してください」等とメールの転送を要請するメールのこと。特定の人の悪口を広めるもの等、悪質なものもある

## ワーク

今後わが子と一緒に取り組んでいきたいことやお子さんに伝えたいことについて考えたことを書きましょう。



### — ひとりで悩まず相談しよう! —

- 子どもの人権110番 0120-007-110（全国共通無料）
- インターネット人権相談受付窓口  
（パソコン） <http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken113.html>  
（携帯電話） <https://www.jinken.go.jp/soudan/mobile/001.html>
- みんなの人権110番 0570-003-110（全国共通ナビダイヤル・有料）
- 女性の人権ホットライン 0570-070-810（全国共通ナビダイヤル・有料）



### 3-⑤ もし、いじめがおこったら

■対象：乳幼児～中学生の親

■時間：60分程度

■手法：エピソード

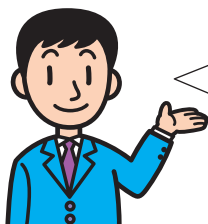
**学習のねらい** わが子のまわりでいじめがおきていることがわかった時、いじめから子どもたちを守るためにできることを考える。

**準備するもの** エピソード用紙 ワークシート 筆記用具 時計（ストップウォッチ）  
あめ

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>今日は、わが子のまわりで「いじめ」がおきていることがわかったとき、いじめから子どもたちを守るためにできることを考える。 その前に、少し心と身体をリラックスさせましょう。</p>		
10分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>①あめでグループ分け ②大きなかぶ（親学プログラムP101） ③自己紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ数のあめの種類を用意し、同じあめを選んだ方向士で、基本4人ずつのグループをつくる。</li> <li>「子どもの頃、クラスみんなでやった楽しい思い出」をテーマに自己紹介するとよい。</li> </ul>	あめ
40分	<p style="text-align: center;"><b>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</b></p> <p><b>【中心のワーク】</b></p> <p>①エピソードを聞いて、思ったこと・考えたことをワークシートに記入する ②思ったこと・考えたことをグループで紹介し合う ③自分ならどの場面でどうするかを考え、理由とともにワークシートに記入する ④グループで、E男を守るためにできることについて話し合う ⑤グループの話し合いの様子を全体に紹介する ⑥まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エピソードを読んだ後、「どんな理由があっても、いじめは決して許されないこと」をおさえる。</li> <li>わが子のことだけでなく、E男の立場に立って考えるよう促す。</li> <li>エピソードの場面①②③それぞれの対応について考えるように伝える。</li> <li>エピソードについて、じっくりグループで話し合う時間を確保する。</li> <li>グループ発表では、代表的なグループに発表してもらってもよい。</li> </ul>	エピソード用紙 ワークシート 筆記用具
8分	<p><b>【ふり返りと分かち合い】</b></p> <p>①今日の学びで気づいたこと・考えたことをワークシートに書く ②グループで分かち合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己をふり返り、今後について考える時間をとる。</li> <li>グループのメンバーに紹介できることだけでよいことを伝える。</li> <li>全体に広げることができれば、積極的に取り上げる。</li> </ul>	ワークシート
2分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>いかがでしたか？ 今日、みなさんで考えたように、お子さんのまわりで、もし、いじめがおこったら、学校と子どもたち、そして、保護者も一緒になって、理解し合って、信頼し合って、できるだけ早い段階で対応していくことが、何より大事なことですね。 万が一、わが子のまわりでいじめがおきた時でも、いじめから子どもたちを守るためにできることを、みんなで取り組んでいきましょう。</p> <p style="text-align: center;"><b>《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</b></p>		

### 3-⑤ もし、いじめがおこったら

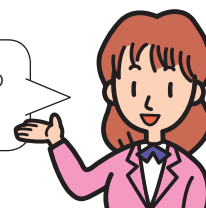
#### ① エピソードを聞いて、思ったこと・考えたことをワークシートに記入する（6分）



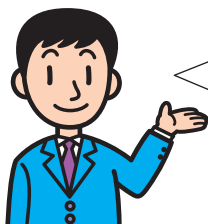
今日は、あるエピソードをもとに、いじめから子どもたちを守るためにできることについて考えていきたいと思います。  
 それでは、「エピソード」を配ります。[エピソードを配付し、読む]  
 [どんな理由があっても、いじめは決して許されないことをおさえる]  
 エピソードを聞いて、どんなことを思われましたか。わが子のことだけでなく、E男の立場に立って思ったこと・考えたことをワーク1に書いてください。時間は、2分程度です。

#### ② 思ったこと・考えたことをグループで紹介し合う（5分）

それでは、グループで、それぞれ個人で思われたこと・考えられたことを紹介し合ってください。時間は、5分程度です。



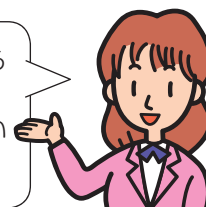
#### ③ 自分ならどの場面でどうするかを考え、理由とともにワークシートに記入する（5分）



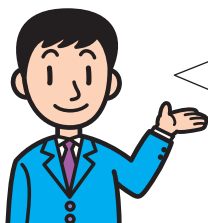
次に、このエピソードで、あなたならどの場面でどうするか考えて、理由もそえて、ワーク2に書きましょう。時間は、5分程度です。

#### ④ グループで、E男を守るためにできることについて話し合う（15分）

それでは、グループで、それぞれ個人で考えられたことを紹介し合って、いじめから子どもたちを守るためにできることについて話し合ってください。  
 時間は、じっくり話し合っほしいので15分程度です。後で、グループの話し合いの様子を簡単に発表してもらいますので、代表者も決めておいてください。



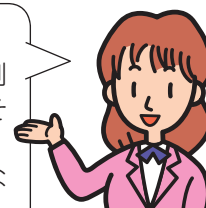
#### ⑤ グループの話し合いの様子を全体に紹介する（8分）



時間になりましたので、グループ発表に移ります。代表の方は、グループの話し合いの様子を簡単に発表してください。

#### ⑥ まとめ（1分）


[グループの話し合いの様子をコメントする]  
 このエピソードは、「いじめ問題対応の手引き」に掲載されている事例です。この事例では、親と学校、親同士が協力して、対応したことで、E男へのいじめはなくなったそうです。  
 今日は、いろいろと考えていただき、さまざまな気づきがあったと思います。そんな気づきや考えをワーク3に整理しましょう。



3-⑤ 「もし、いじめがおこったら」ワークシート

# もし、いじめがおこったら


**ワーク1** エピソードを聞いて、どんなことを考えましたか？考えたことを書きましょう。



**ワーク2** あなたなら、どの場面でどうするか・どうすべきか、また、なぜそうしようと考えたのか、書きましょう。

	どうするか・どうすべきか	なぜ
場面1		
場面2		
場面3		

**ワーク3** 今日の学習で気づいたこと、考えたことを書きましょう。



## 3-⑤「もし、いじめがおこったら」

## エピソード

**【場面①】** ある日の夕食後、あなたのお子さんがこんな内容の話をしてきました。

クラスのE男は、頭がよくて何でもよく知っている。授業中もクラスの活動でも、よく発言して活躍している。でも、他の子が発言すると、まわりに聞こえないような声で、ひとりごとを言ったりするので、E男を気に入らないと思っている友だちもいる。

今月になって、E男が理科室へ授業に行こうとしたら、教科書がないとさわいでいた。その2日後は、朝登校すると、上履きが下駄箱のすき間に、詰め込むようにかくしてあった。

**【場面②】** その数日後、また、あなたのお子さんが次のような内容の話をしてきました。

この間話をした後も、E男が机の上においていたペンケースがなくなるなど、毎日のようにE男のものがなくなるようになった。それで、担任の先生が、みんなに知っていることがないか聞いてきた。でも、だれも何も言わなかった。その後は、E男の机に落書きがされるようになった。

**【場面③】** その一週間後、学校から次の金曜日の夜「学級の保護者会」を開くとの案内がきました。

## 4-① すてきな子育て

■対象：乳幼児～中学生の親

■時間：60分程度

■手法：ラベルワーク

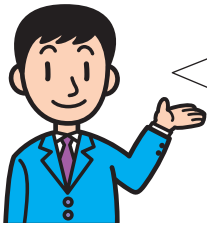
**学習のねらい** 日々の子育ての中で、イライラすることやストレスを感じることもあるが、子育てのすてきな思い出を紹介し合う中で、楽しく子育てしていこうとする意欲を高める。

**準備するもの** 付箋 模造紙 表示 筆記用具 ワークシート  
時計（ストップウォッチ）

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>日々の子育ての中で、イライラすることやストレスを感じることもありますが、今日は、子育てのすてきな思い出を紹介し合いたいと思います。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
13分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>①グーパー（親学プログラム P96） ②ギョウザジャンケン（P96） ③フルーツバスケット（P98）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・③で、5人組を作る。</li> <li>・グループ分けのあと、簡単に自己紹介をしてもらう。</li> </ul>	
35分	<p style="text-align: center;"><b>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</b></p> <p><b>【中心のワーク】</b></p> <p>①中心のワークのねらいを確認する</p> <p>②これまでの子育ての中で、すてきな思い出を付箋に書く</p> <p>③付箋を模造紙に貼りながらグループで紹介し合う</p> <p>④グループでの様子を代表者が発表する</p> <p>⑤まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋に書きにくい場合、例を示す。</li> <li>・グループに寄り添い、どのような話し合いがされているか把握に努める。</li> <li>・活動が早く進んでいるグループは、分類や関連付け等を促す。</li> <li>・全体に紹介したい意見をファシリテーターがつかんでおき、代表者から出ない場合、補足する。</li> </ul>	<p>テーマを黒板等を書いておく</p> <p>「よかったなあ」「うれしかったなあ」「感動したなあ」「失敗したけど笑えたなあ」と書かれた表示を貼る</p> <p>付箋 筆記用具 模造紙</p>
10分	<p><b>【ふり返りと分かち合い】</b></p> <p>①感想をワークシートに記入する</p> <p>②グループでふり返る</p> <p>③全体に広める</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでのふり返りで、新たな気づきや、今後の子育てに活かしていこうとするような内容等を全体で発表してもらう。</li> </ul>	ワークシート
2分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>いかがでしたか。子育ては、イライラすることやストレスを感じることもありますが、やっぱりわが子はかわいいですね。子育てを大変なことだと考えるのではなく、すてきな思い出を作ると考えることができると楽しく過ごせるかもしれませんね。今日のような話がまた、この地域でしていけるといいですね。</p> <p style="text-align: center;"><b>《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</b></p>		

## 4-① すてきな子育て

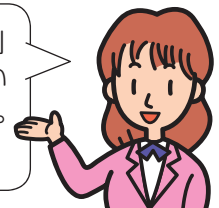
### ① 中心のワークのねらいを確認する（3分）



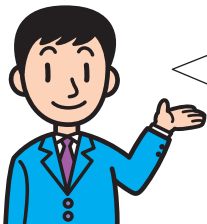
それでは、中心のワークに入ります。先ほども話しましたが、これから、子育てのすてきな思い出について話し合ってください。ひょっとしたら、楽しさよりも、イライラすることや、ストレスを感じることも多いのかもしれませんが。それでも、時々見せる子どもの笑顔や、子どもの成長、子どもがいたから気づけたことや感動できたことなど、楽しかった思い出もあるのではないのでしょうか。今日は、子育てのイライラやストレスは置いて、すてきな思い出を出し合ってみましょう。

### ② これまでの子育ての中で、すてきな思い出を付箋に書く（10分）

はじめに個人作業です。これまでの子育てをふり返って、みなさんが「よかったなあ」「うれしかったなあ」「感動したなあ」「失敗したけど笑えたなあ」といったすてきな思い出を付箋に書いてみましょう。ただし、1枚の付箋には、1つのことを書いてください。時間は10分です。



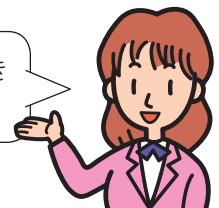
### ③ 付箋を模造紙に貼りながらグループで紹介し合う（14分）



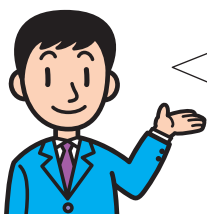
次にグループでの活動に入ります。  
グループ内で、書いた付箋を紹介しましょう。グループ内で、順番を決め、最初の方が、1枚を紹介しながら模造紙に貼ります。その時、メンバーの中に似た内容の付箋があれば、説明をしながらその付箋の近くに貼ります。  
似た内容の付箋がなくなったら次の方が別の1枚を出し、同じように説明をします。これを繰り返して、付箋が手元からなくなるまで続けましょう。  
早く終わったグループは、気づいたことなどを話し合ってください。  
時間は12分です。後で、グループの代表の方に話し合いの様子を発表していただきますので、代表者も決めておいてください。

### ④ グループでの様子を代表者が発表する（7分）

時間になりましたので、グループでの話し合いの様子を代表の方に発表していただきます。1グループ1分程度で簡単に紹介をお願いします。



### ⑤ まとめ（1分）



いかがでしたか。いろいろなすてきな思い出がありましたね。  
それでは、今日の学習をふり返って、感じたことや気づいたことをワークシートに書きましょう。



4-①「すてきな子育て」ワークシート

# すてきな子育て

ふりかえり 今日の学習で感じたこと、気づいたことを書きましょう。



## 4-② 子どもに届けよう、あなたの想い

■対象：乳幼児～小学校低学年の親 ■時間：75分程度 ■手法：ロールプレイ

**学習のねらい** いろいろな要因が複合的に絡み合うことで起きた親のイライラが高まる場面を役割演技し、その後、気持ちが落ち着いた場面で、想いを子どもにどのように伝えるか考え役割演技することで、子どもとのかかわりを考える。

**準備するもの** 筆記用具 ワークシート 時計（ストップウォッチ）（ペープサート）

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>今日は、ある条件設定のもと、親と子どものやりとりを役割演技して、気づいたことや感じたことを意見交換していただこうと思います。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
13分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>①あんたがたどこさ（P101） （個⇒2人組⇒全体）</p> <p>②動物あて（鳴き声とジェスチャー） （親学プログラムP99）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現活動が苦手な人がいないか様子を観察する。</li> <li>・グループ分け（3人組）のあと、簡単に自己紹介をしてもらう。</li> </ul>	
50分	<p style="text-align: center;"><b>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</b></p> <p><b>【中心のワーク】</b></p> <p>①場面設定の状況を把握する</p> <p>②イライラが爆発してしまった原因について話し合う</p> <p>③子ども役、親役、観察者役に分かれ、【役割演技①】をする ※役割を交代しながら実施する</p> <p>④感じたことや気づいたことを意見交換する</p> <p>⑤【役割演技②】の台詞を考える</p> <p>⑥【役割演技②】をする ※【役割演技①】と同じように</p> <p>⑦感じたことや気づいたことを意見交換する</p> <p>⑧グループで話し合ったことを代表者が発表する</p> <p>⑨まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回はじめに役作りの時間をとり、終わった後は拍手をし、役を引きずらないよう配慮する。</li> <li>・受講者の様子を観察し、役割演技に抵抗がある場合、観察者だけする等、場合に依じて対応する。</li> <li>・役割演技をしやすくするため、ペープサート（紙人形）を使ってもよい。</li> <li>・グループに寄り添い、どのような話し合いがされているか把握に努める。</li> </ul>	<p>ワークシート1 筆記用具</p> <p>ワークシート2 （ペープサート）</p>
10分	<p><b>【ふり返りと分かち合い】</b></p> <p>①感想をワークシートに記入する</p> <p>②グループでふり返る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の子どもへのかかわり方を改善していこうとする意欲づけにつなげる。</li> </ul>	
2分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>いろいろな要因が重なって、ついカッとなって子どもにつらく当たりはしたが、落ち着いてから考えると、「自分も悪かったなあ」と反省することもあるのではないのでしょうか。そのような時に、そのまましておくのではなく、今日のように想いを子どもに伝えることで、親と子どもの気持ちを楽にして、よりよい関係づくりにつながるかもしれません。今日のことをきっかけに、これからも子育てについて話し合う機会があるといいですね。</p> <p style="text-align: center;"><b>《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</b></p>		

## 4-② 子どもに届けよう、あなたの想い

### ① 場面設定の状況を把握する（4分）



ワークシートを配ります。ワークシートには、今からみなさんにやっていただく役割演技の場面設定と台詞が書かれています。まず、場面設定を読みます。（場面設定を読む）  
次に、私たちが役割演技をしてみます。（ファシリテーターが役割演技をする）  
この場面で、カットとなってしまった原因はなんだったのでしょうか。「親の具体的な設定」の中で、原因だと思うところに線を引きましょう。2本以上引かれてもかまいません。2分をお願いします。

### ② イライラが爆発してしまった原因を話し合う（5分）

それでは、グループで意見交換をしましょう。どこに線を引いたか、そして、そのわけを話し合ってください。時間は5分です。



### ③ 子ども役、親役、観察者役に分かれ、【役割演技①】をする（10分）



それでは、次の台詞で役割演技を行います。  
今日は、交代してどの役も体験していただきますが、まず1回目の役割を決めてください。（しばらく時間をとる）  
決まりましたでしょうか。台詞は言いやすいように多少変えてもかまいません。観察者は、親子のやりとりがどんなふうに行われているのかを観察してください。終わりましたら拍手をしましょう。始める前に30秒とりますので、静かに役作りをしてください。「よーいスタート」の合図をしたら始めてください。（30秒）  
それでは1回目です。「よーいスタート」（3回繰り返す）

### ④ 感じたことや気づいたことを意見交換する（5分）

それぞれの役割をやってみて、感じたことや気づいたことなど、自由に話し合ってください。時間は5分です。



### ⑤ 【役割演技②】の台詞を考える（5分）



実は、先ほどの役割演技①には続きがあります。ワーク2の設定を読みます。この場面で、あなただったら子どもに何をしますか。そしてどんな想いを伝えますか。ワーク②に台詞を考え記入しましょう。時間は5分です。

### ⑥ 【役割演技②】をする（10分）

考えた台詞で役割演技②をします。先ほどと同じ順で、同じ進め方で行います。役作りの時間をとります。合図をしたら始めてください。（30秒）  
それでは1回目です。「よーいスタート」（3回繰り返す）



### ⑦ 感じたことや気づいたことを意見交換する（5分）



役割演技をしてみて、感じたことや気づいたこと先ほどの役割演技①との違いなど、自由に話し合ってください。  
時間は5分です。後で、グループの代表の方に話し合いの様子を発表していただきますので、代表者も決めておいてください。

### ⑧ グループで話し合ったことを代表者が発表する（5分）

時間になりましたので、グループでの話し合いの様子を代表の方に発表していただきます。1グループ1分程度で簡単に紹介をお願いします。



### ⑨ まとめ（1分）



いかがでしたか。実際に役割演技をしてみることで、気づかれたことがあったのではないのでしょうか。それでは、今日の学習をふり返って、感じたことや気づいたことをワーク3に書きましょう。

4-②「子どもに届けよう、あなたの思い」ワークシート1

# 子どもに届けよう、あなたの思い

## 役割演技の場面設定

### 概略

- ・家庭での親と子どものやりとりの場面。
- ・どうしても明日までに片付けなければならない仕事を家庭でしている親に、子どもと一緒に折り紙を折ってほしいとせがんでくる。親にさまざまな条件が重なり、子どもに対してイライラが爆発してしまった場面。

### 親の具体的な設定

- ・夫婦と5才の息子（または娘）の3人家族。
- ・子どもに対しては、常日頃から「約束を守る人になってほしい」と願っている。
- ・子育てについて、頼ったり、相談したりできる相手がない。
- ・職場での人間関係がこじれていて、仕事がうまくいかなくても同僚や上司に相談ができない状態である。
- ・今日の夕方、職場において、同僚と一緒に進めている仕事で明日の会議に必要な企画書をシュレッダーにかけてしまい、再度作り直さなければならなくなった。
- ・今夜は、夫（または妻）が不在のため、早く家に帰って、夕ご飯を終え、これから、企画書を作り直そうとし始めた時。

## 役割を決めましょう

- ①「親」      ②「子ども」      ③「観察者」

### ワーク1 役割演技①

親：（テーブルで、パソコンを打っている）

子：ねーねーお母さん（お父さん）、折り紙で「ぞうさん」作ってよ

親：（パソコンから目を離さずに）仕事で忙しいんだ

子：えーっ、今作ってよ！この前、作ってあげるって約束したよ！

親：今は忙しいから作れないの！また、今度作ってあげるから

子：いやだ！ うそつき！ 作って！作って！作って！作って！

親：いい加減にきなさい（怒）！

子：えーん（泣）

## 4-②「子どもに届けよう、あなたの思い」ワークシート2

# 子どもに届けよう、あなたの思い

## ワーク2 役割演技②

このお母さん（お父さん）は、次の日、仕事を終え帰宅途中、昨夜の子どもとのやりとりを思い出し、次のようなことを考えています。

「昨日は、いろんなことが重なって、子どもにつらく当たってしまったなあ。」

「子どもには約束を守る人になってもらいたいののに、自分が約束を破ってしまったなあ。」

「帰ったら、子どもに○○しよう。」

家に帰って「ただいま」と子どもに声をかけましたが、昨日のことを引きずっているのか、ふてくされてそっぽを向いています。

親：（子どもを呼ぶ）ちょっといいかな？

子：何！

親：

## ワーク3 今日の学習で感じたこと、気づいたことを書きましょう。



## 4-③ こんな時、わたしなら・・・

■対象：乳幼児～中学生の親

■時間：70分程度

■手法：エピソード

**学習のねらい** 日常の中で親子のイライラが高まってしまったエピソードを聞き、その事例について考え、話し合い、自分を振り返ることで、子どもとのかかわりを考える。  
**準備するもの** 性格カード(P103～112) 筆記用具 ワークシート 時計(ストップウォッチ)

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>今日は、あるエピソードを聞いていただき、子どもとのかかわり方について、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。 その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
13分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>①バースデーチェーン（親学プログラムP100） （グループ分け） ②自己紹介（性格カードを使って）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①で、4人組を作る。</li> <li>・グループ分けのあと、簡単に自己紹介をしてもらう。</li> </ul>	性格カード
45分	<p style="text-align: center;"><b>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</b></p> <p><b>【中心のワーク】</b></p> <p>①エピソードを聞く ②ワーク1に個人で記入する ③グループで意見交換する ④ワーク2に個人で記入する ⑤グループで意見交換する ⑥グループで話し合ったことを代表者が発表する ⑦ワーク3を個人で考える ⑧まとめ</p> <p>エピソードは、登場する子どもの年齢に合わせ4種類用意しており、参加者の実態に合わせ、選んで実施する。 エピソード1・・・乳児を中心として（乳児、3才、4才） エピソード2・・・幼児を中心として（乳児、4才） エピソード3・・・小学校低学年を中心として（3才、小2） エピソード4・・・小学校高学年～中学生を中心として（小5、中2）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーク1・2は、エピソードの母親の気持ちに寄り添って考えるよう伝える。</li> <li>・グループに寄り添い、どのような話し合いがされているか把握に努める。</li> <li>・簡単に発表することを伝える。</li> <li>・ワーク3の項目をチェックすることで、普段の子どもへのかかわり方を振り返ってもらう。</li> <li>・ワーク3は、あくまで個人の振り返りとして実施する。</li> </ul>	ワークシート 筆記用具
10分	<p><b>【振り返りと分かち合い】</b></p> <p>①感想をワーク4に記入する ②グループで振り返る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の子育ての意欲づけにつなげる。</li> </ul>	
2分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>いかがでしたか？ エピソードに出てきたお母さんは、いろいろな想いの中で、ついカッとなって手を上げてしまったのかもしれませんが。私たちもこのような経験があるのではないのでしょうか。このようなことが続けば親も子どもも深い傷を負うことになりかねません。子どもへのかかわり方に正解はないと思います。時に悩み、失敗もあるとは思いますが、今日のように、相談したり振り返ったりしながら、イライラの解消法など、話し合える地域になるとよいですね。</p> <p style="text-align: center;"><b>《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</b></p>		



## 4-③ こんな時、わたしなら・・・

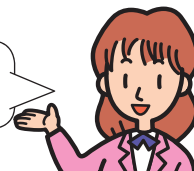
### ① エピソードを聞く（4分）



ワークシートを配ります。  
ワークシートには、エピソードが書かれています。内容は、あるお母さんからの子育てに関する相談です。今から読んでみます。みなさんなら、このお母さんにどのように話しますか。考えながら聴いてください。それでは読みます。

### ② ワーク1に個人で記入する（5分）

エピソードの中で相談してきたお母さんが困っているのはどんなことでしょうか。ワーク1に記入してください。5分でお願いします。



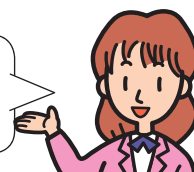
### ③ グループで意見交換する（10分）



では、グループの他の方の考えを聞いてみましょう。  
まずワーク1に書いたことを紹介してください。全員の紹介が終わったら、感じたことや気づいたこと、他の人に聞いてみたいことなど、自由に話し合ってください。時間は10分です。

### ④ ワーク2に個人で記入する（5分）

次に、ワーク2をご覧ください。  
エピソードの中で相談してきたお母さんに、あなたなら、どのように話しますか。ワークシートに記入してください。5分でお願いします。



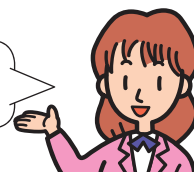
### ⑤ グループで意見交換する（10分）



では、グループの他の方の考えを聞いてみましょう。  
まずワーク2に書いたことを紹介してください。全員の紹介が終わったら、感じたことや気づいたこと、他の人に聞いてみたいことなど、自由に話し合ってください。  
時間は10分です。後で、グループの代表の方に話し合いの様子を発表していただきますので、代表者も決めておいてください。

### ⑥ グループで話し合ったことを代表者が発表する（8分）

時間になりましたので、グループでの話し合いの様子を代表の方に発表していただきます。一番盛り上がった話題について1グループ1分程度で簡単に紹介をお願いします。



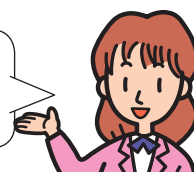
### ⑦ ワーク3を個人で考える（2分）



もう1枚、ワークシートを配ります。  
ワーク3をご覧ください。ご自身の子育てについてふり返ってみましょう。自分に当てはまることがあれば、チェックをつけてください。これは、発表したり見せ合ったりはしません。書かずに心の中でチェックされてもかまいません。1分でお願いします。

### ⑧ まとめ（1分）

いかがでしたか。  
みなさんにも当てはまることがありましたでしょうか？  
それでは、今日の学習をふり返って、感じたことや気づいたことをワーク4に書きましょう。



## 4-③「こんな時、わたしなら…」ワークシート1

# こんな時、わたしなら…

## エピソード 1

これからお話しするエピソードは、ある母親から、子育てに関して相談を受けた時の内容です。

我が家には、4才、3才、生後6ヶ月の3人の男の子がいます。次男が生まれた頃までは、忙しい中にもまだ余裕があり、子育ても楽しみながら暮らしていたように思います。しかし、近頃では長男・次男はけんかばかりして言うことをきかなくなってきた上に、三男は泣いたりぐずったりすることが多く、とにかく手がかかります。

先日も、こんなことがありました。

今日も三男は調子が悪く、朝からぐずっていました。お昼過ぎになって、ようやく寝付いてくれました。そんなときに、また、長男・次男のけんかが始まりました。

今日こそは、きちんと仲直りをさせようと思い、取っ組み合っている2人を引き離し、何があったか2人に尋ねました。

次男が言うには、長男のおもちゃをちょっと触ったら、飛びかかってきたそうです。長男にも言い分があるだろうと聞こうとした時に、三男が起きてしまい、泣き始めました。

泣き声で、長男の話が聞き取れません。もう一度話すように大きな声で言うと、長男は自分がしかられたと勘違いし、泣き出してしまいました。優しく声がけしようと思うのですが、三男の泣き声がうるさくて、うまく伝わりません。泣き止まないの、三男を揺すったり、口を手でふさいだりしたら、余計に泣き出しました。

上の2人は、言って聞かせれば分かってくれるのに、と思うのですが、三男に振り回されて、思うように子育てが出来ません。

三男を何とか落ち着けようと思い、つい手が出てしまうことがあるのですが、どうしたらよいでしょうか。

※このエピソードは、フィクションです。

**ワーク1** 登場するお母さんが困っているのは、どんなことでしょうか。

**ワーク2** 相談してきたお母さんに、あなたならどのように話しますか。

## 4-③「こんな時、わたしなら…」ワークシート1

# こんな時、わたしなら・・・

## エピソード 2

これからお話しするエピソードは、ある母親から、子育てに関して相談を受けた時の内容です。

我が家には、4才になった女の子（A子）と、今年生まれた3ヶ月の男の子がいます。A子には、お姉ちゃんになったのだから弟の面倒をみてほしいのですが、弟が泣いていても知らん顔で、かえって、そんなときに「お母さん、見て見て」と言って、私の気を引こうとすることもあります。

先日も、こんなことがありました。

その日は、朝から弟が熱を出していました。A子は、1才になるまで、熱を出したことがなかったのですが、とても心配しました。取り急ぎA子も連れて3人で病院に行きました。風邪が流行っているのか、患者さんが多く、長い時間待たされました。お医者さんからは、薬を飲ませて安静にしておけば2・3日で良くなると言われ、病院を後にしました。時計を見ると13時を過ぎていました。

早く帰って弟を休ませたかったのですが、あわてて出かけ、昼食の用意もできなかったのですが、途中スーパーマーケットに寄って、食べるものを買って帰ることにしました。

すばやくA子の好きなものを買ってかごへ入れ、レジに行こうとした時でした。A子がお菓子売り場の前で、お菓子をねだって動こうとしなくなりました。私が注意すると、大きな声を出し、だだをこね始めました。

早く帰って弟を休ませたいし、まわりの人はじろじろ見るし、A子の好きなものを買ってやろうとしているのに、どうして言うことをきかないのか分からなく、

「そんな子は、うちの子じゃありません。勝手にしなさい」

と言って、A子とその場においてレジへ行きました。A子の大きな泣き声が店全体に響いていました。

こんなことがよくありますが、どうしたらよいでしょうか。

※このエピソードは、フィクションです。

**ワーク1** 登場するお母さんが困っているのは、どんなことでしょうか。

**ワーク2** 相談してきたお母さんに、あなたならどのように話しますか。

## 4-③「こんな時、わたしなら…」ワークシート1

# こんな時、わたしなら…

## エピソード 3

これからお話しするエピソードは、ある母親から、子育てに関して相談を受けた時の内容です。

我が家には、小学2年生の男の子（A男）と、3歳の女の子（B子）がいます。A男は、小学生になったのだから、自分のことは自分でしてほしいのですが、私に甘えているのか、なかなか自分のことができません。

先日も、こんなことがありました。その日は、妹B子の保育園の親子遠足の日で、私は、朝から弁当作りで大忙しでした。ふと気がつくと、A男が起きる時間なのに起きてきません。そこで、A男のまくら元に行き、「早く起きなさいよ」と声をかけました。

5分たっても起きてこないで、「何まだ寝てるの！遅れても知らないから！」と注意しました。

さらに、5分たっても起きないので、こんどは、「こらっ！いいかげんにしなさい！！」と言って、布団を引きはがしました。

やっと起きてきたのですが、今度は、だらだらして、なかなか着替えようとしません。いらだった私は、思わずA男のほほをたたいてしまいました。A男は、泣き出し、その様子を見ていた妹まで、泣き出しました。

こんなことがよくありますが、どうしたらよいのでしょうか。  
※このエピソードは、フィクションです。

**ワーク1** 登場するお母さんが困っているのは、どんなことでしょうか。

**ワーク2** 相談してきたお母さんに、あなたならどのように話しますか。

## 4-③「こんな時、わたしなら…」ワークシート1

# こんな時、わたしなら…

## エピソード 4

これからお話しするエピソードは、ある母親から、子育てに関して相談を受けた時の内容です。

我が家には、中2の娘と小5の息子がいます。娘は、だんだん親とは話さなくなり、特に父親とはほとんど口をきかなくなってきました。息子も、テレビやゲームに夢中になり、私の言うことさえ聞きもしなくなりました。

先日、こんなことがありました。普段仕事で帰りの遅い父親が、めずらしく早く6時過ぎに帰ってきました。子どもたちに「ただいま」と声をかけたのですが、息子はゲームに夢中で、娘は聞こえなかったふりをしていました。

その後、久しぶりに家族4人がそろっての夕食となりました。普段は、子どもたち2人で先に食べさせているので、息子はテレビを観ながらだったり、娘は友達からのメールの返信をしながらだったりしていました。今夜もこの調子で、2人がそれぞれ勝手なことをしていると、父親がいきなり声を荒げて怒り出しました。

それに対して、息子が、「いつもテレビを観ながら食べてるんだからいいじゃないか」と言い返すと、父親は、「うるさい」と言って息子を突き飛ばしました。それを見ていた娘は、「たまに早く帰ってきて、えらそうなこと言わないでよ」と言って、席を立ち自分の部屋に入ってしまった。

父親は、拳を握りしめ、怒りが爆発寸前でした。

私は、ただぼう然として、何も出来ずにいました。

こんなことがまたあったらと思うと恐ろしくなってしまいます。

いったいどうしたらよいのでしょうか。

※このエピソードは、フィクションです。

**ワーク1** 登場するお母さんが困っているのは、どんなことでしょうか。

**ワーク2** 相談してきたお母さんに、あなたならどのように話しますか。

## 4-③「こんな時、わたしなら…」ワークシート2

**ワーク3** 自分の子育てについて振り返ってみましょう。自分に当てはまることがありますか。

① 子どもをしかっていると感じ的になり、乱暴な口調になる	
② 子どもが言うことをきかないと、手が出てしまう	
③ 同じことをしているのに、しかる時としからない時がある	
④ 自分がイライラしていると、子どもに当たってしまう	
⑤ どこまでしつければよいのか、不安になる	
⑥ イライラした時の解消法がある	
⑦ 子育ての分担がある	
⑧ 子どもをしかりすぎたなあと反省することがある	
⑨ 子育てについて相談する相手がいる	
⑩ わが子のよいところを知っている	

**ワーク4** 今日の学習で感じたこと、気づいたことを書きましょう。





## 4-④

# 子どもの笑顔と未来のために

■対象：全ての親と一般地域住民

■時間：80分程度

■手法：講義・ラベルワーク

**学習のねらい** 児童虐待について専門家から話を聴くことによって、児童虐待とは何か、しつけと虐待と何が違うのか、なぜ起きてしまうのか等正しく学び、意見交換することで考えを深め、児童虐待予防に向け主体的に行動しようとする意欲を高める。

**準備するもの** 筆記用具 ワークシート 付箋 マーカー 模造紙 講義レジュメ 時計（ストップウォッチ）

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>今日は、専門家の方から児童虐待について話を聴き、児童虐待が起きないようにするためにはどうすればよいか、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。その前にちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
10分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>①後出しジャンケン（親学プログラムP97） ②幸せジャンケン（親学プログラムP97） ③せーのパン！（P99）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・③は、拍手の数と同じ人数で集まるもの。最終的に5人組を作る。</li> <li>・グループ分けのあと、簡単に自己紹介をしてもらう。</li> </ul>	
60分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p>		
	<p><b>【中心のワーク】</b></p> <p>①専門家から話を聴く ■児童虐待とは</p> <p>②児童虐待がなぜ起きているのか考えを付箋に書く</p> <p>③付箋を模造紙の左側に貼りながらグループで話し合う</p> <p>④専門家から話を聴く ■虐待を起こしやすい要因 ■虐待を予防する方法</p> <p>⑤児童虐待が起きないように自分にできることを考え、付箋に書く</p> <p>⑥付箋を模造紙の右側に貼りながらグループで話し合う</p> <p>⑦グループで出た意見を代表者が発表する</p> <p>⑧まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の様子を観察し、場合に応じて声がけする等、配慮する。</li> <li>・同じような意見は、近くに貼るなど、分類するよう声がけする。</li> <li>・ワークシートにメモをとりながら聴くよう促す。</li> <li>・必要に応じて休憩の時間をとる。</li> <li>・考えが浮かばない方には、講義内容を思い出すなど助言する。</li> <li>・簡潔に発表することを伝える。</li> </ul>	<p>講義レジュメ ワークシート 付箋 マーカー 模造紙</p>
8分	<p><b>【ふり返りと分かち合い】</b></p> <p>①感想をワークシートに記入する ②グループでふり返る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の子育ての意欲づけにつなげる。</li> </ul>	<p>ワークシート 筆記用具</p>
2分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>《専門家より話してもらう》</p> <p>《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</p>		

## 4-④ 子どもの笑顔と未来のために

### ① 専門家から話を聴く（5分）

はじめに、〇〇さんから、児童虐待についてお話を聴きましょう。



### ② 児童虐待がなぜ起きているのか考えを付箋に書く（5分）



〇〇さんから児童虐待について話を聴きましたが、児童虐待がなぜ起きているのか考えてみましょう。まず個人作業です。付箋に考えを書きましょう。ただし、1枚の付箋には、1つのことを書いてください。5分でお願いします。

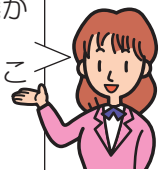
### ③ 付箋を模造紙の左側に貼りながらグループで話し合う（10分）

グループ内で、書いた付箋を紹介し合ひましょう。グループで、順番を決め、最初の人、1枚を紹介しながら模造紙の左側に貼ります。その時、メンバーの中に似た内容の付箋があれば、説明をしながらその付箋の近くに貼ります。

似た内容の付箋がなくなったら次の人が別の1枚を出し、同じように説明をします。これを繰り返して、付箋が手元なくなるまで続けましょう。

早く終わったグループは、気づいたことなど話し合っていてください。

時間は10分です。



### ④ 専門家から話を聴く（15分）

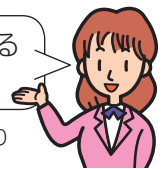


児童虐待がなぜ起きるのか話し合いましたが、なぜ児童虐待が起きているのか、起きないようにするにはどうしたらよいか、つづいて〇〇さんから話を聴きましょう。

### ⑤ 児童虐待が起きないように自分にできることを考え、付箋に書く（5分）

お話を聴かれてどうだったでしょうか。次に、児童虐待が起きないように自分にできることを考え、付箋に書いてみましょう。5分でお願いします。

※「児童虐待はどこにでも起こりうること」「(児童虐待にはならないまでも) リスク要因は誰もが感じたり、経験したりしているようなこと」等をおさえ、共感的な態度で“支援する気持ち”をもって「できること」を考えるよう促す。



### ⑥ 付箋を模造紙の右側に貼りながらグループで話し合う（10分）



グループで、先ほどと同じように、書いた付箋を模造紙の右側に貼りながら紹介し合ひましょう。

早く終わったグループは、気づいたことなどを話し合っていてください。

後で、グループの話し合いの様子を簡単に発表してもらいますので、代表者も決めておいてください。時間は10分です。

### ⑦ グループで出た意見を代表者が発表する（9分）

時間になりましたので、グループでの話し合いの様子を代表の方に発表していただきます。1グループ1分程度で簡単に紹介をお願いします。



### ⑧ まとめ（1分）



いかがでしたか。児童虐待についてお話を聴いたり、話し合ったりしましたが、新たな発見や気づきがあったのではないのでしょうか。

それでは、今日の学習をふり返って、感じたことや気づいたことをワークシートに書きましょう。

4-④「子どもの笑顔と未来のために」ワークシート

# 子どもの笑顔と未来のために

メモ



ふりかえり 今日の学習で感じたこと、気づいたことを書きましょう。



# 子どもの笑顔と未来のために ①

## 1. はじめに

- ① なぜ、いま児童虐待について考えるのか？
- ② 児童虐待の現状
  - 平成 26 年度の島根県内の新規児童虐待相談件数は 305 件
  - 平成 26 年度の島根県内の児童相談所への虐待通告件数は 372 件

## 2. 児童虐待とは

<p>①身体的虐待</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・殴る、蹴るなどの暴行</li> <li>・やけどを負わせる</li> <li>・溺れさせる</li> <li>・首を絞める 等</li> </ul>	<p>②性的虐待</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもへの性的暴力</li> <li>・子どもへ性的行為・性器をみせる</li> <li>・ポルノグラフィの被写体にする 等</li> </ul>
<p>③ネグレクト（養育の放棄または怠惰）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事を与えない</li> <li>・家に閉じ込める</li> <li>・自動車の中に放置する</li> <li>・病気になっても病院に連れて行かない</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>	<p>④心理的虐待</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉による脅し・無視</li> <li>・きょうだい間での差別的扱い</li> <li>・子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう（ドメスティック・バイオレンス：DV）等</li> </ul>

## 4-④「子どもの笑顔と未来のために」講義レジュメ

# 子どもの笑顔と未来のために ②

## 3. 児童虐待が生じるリスク要因

(注：虐待は複数のリスク要因が重なった際に生じやすいのであり、一つのリスク要因があるだけで必ず虐待が生じるといったものではありません)

### ① 保護者側のリスク要因

- 妊娠そのものを受容することが困難（望まぬ妊娠、10代の妊娠）
- 子どもへの愛着形成が十分に行われていない。（妊娠中に早産等何らかの問題が発生したことで胎児への受容に影響がある。長期入院）
- マタニティーブルーや産後うつ病等精神的に不安定な状況
- 元来性格が攻撃的・衝動的
- 医療につながっていない精神障がい、知的障がい、慢性疾患、アルコール依存、薬物依存
- 被虐待経験
- 育児に対する不安やストレス（保護者が未熟等） 等

### ② 子ども側のリスク要因

- 乳児期の子ども
- 未熟児
- 障がいのある子ども 等

### ③ 養育環境のリスク要因

- 未婚を含む単身家庭
- 内縁者や同居人がいる家庭
- 子連れの再婚家庭
- 夫婦関係を始め人間関係に問題を抱える家庭
- 転居を繰り返す家庭
- 親族や地域社会から孤立した家庭
- 生計者の失業や転職の繰り返し等で経済不安のある家庭
- 夫婦不和、配偶者からの暴力等不安定な状況にある家庭
- 定期的な健康診査を受診しない 等

## 4. 児童虐待を予防（深刻化の防止）する方法

### ① 保護者自身の気づき

- マスコミなどの情報媒体を通じて得た情報から、また親の家族や友人等からの助言により、親が子どもに対して行っている対応が「児童虐待」となっていないか気づく。その後、専門機関等に自ら相談する。

### ② 専門機関等による支援

- 乳幼児検診等で保護者からの相談、保健師によるスクリーニングにより育児について相談をすすめる。
- 保育所、学校等にて教職員が児童の行動の変化を察知し、市町村の子育て相談窓口、児童相談所に連絡し、連携して支援にあたる。

### ③ 地域住民による支援

- 子どもや保護者の様子について心配な点があった際、直接その家庭に声がけをする。
- 子どもや保護者の様子について心配な点があった際、相談機関に相談する。
- 児童福祉法第25条の規定に基づき、児童虐待を受けたと思われる児童を発見した場合、全ての国民に通告する義務が定められています。

### 児童虐待発見のサイン

#### ■子どもについて

- ・いつも子どもの泣き叫ぶ声や保護者の怒鳴り声が聞こえる
- ・不自然なけが、あざがある
- ・衣服や身体が極端に不潔
- ・極端に身体的な発達が遅れている（低身長・低体重）
- ・食事に極端な執着を示す
- ・ひどく落ち着きがなく乱暴、情緒不安定
- ・表情が乏しく元気がない（無表情）
- ・おどおどしており、大人の顔色をうかがう、親を避けようとする
- ・家に帰りたがらない

#### ■保護者について

- ・近隣住民や親戚との交流がなく、孤立している
- ・子どもを家に置いたままよく外出している
- ・子どもを育てることに拒否的・無関心
- ・子どもを厳しくしつけることがよいことだと強調する
- ・子どもに対して拒否的な態度をとる
- ・気分の変動が激しく、子どもや他の大人に対して感情を爆発させることが多い
- ・子どもがけがや病気をした際、受診させようとしめない



## 4-⑤ 「あたたかい眼差しを」－虐待から子どもを守る－

■対象：全ての親と一般地域住民 ■時間：60分程度 ■手法：ビデオフォーラム

**学習のねらい** 児童虐待についての概略と通告の義務についての理解を深めるとともに、児童虐待予防に主体的にかかわろうとする意欲を高める。

**準備するもの** DVD「あたたかい眼差しを」(島根県立東部・西部社会教育研修センターで貸出可) 視聴覚機器 ワークシート 筆記用具 バインダー 時計(ストップウォッチ)  
※ファシリテーターと主催者は事前にDVDを視聴しておく

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p><b>【はじめに】</b></p> <p>今日は、DVDを視聴しながら、児童虐待の概略と通告の義務について知り、虐待から子どもたちを守るためにわれわれにできることを考えていきましょう。DVDを見る前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
7分	<p><b>【アイスブレイク】</b></p> <p>①パースデーチェーン(親学プログラムP100)</p>	・誕生日順に輪になった後、4～6人グループに分ける。	
43分	<p style="text-align: center;"><b>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</b></p> <p><b>【中心のワーク】</b></p> <p>①DVDの内容を知る ②DVDを視聴する ③自己紹介に加えてメモに記入したことや感想を発表し合う ④ワーク1に考えを書く ⑤グループごとに話し合う ⑥グループで話し合ったことを代表者が発表する ⑦まとめ</p>	<p>・児童虐待の種類や予防のヒントなど、キーワードをメモするように伝える。</p> <p>・DVDを観て、気づいたことや感想を発表してもらおう。</p> <p>・近所で、児童虐待と疑われるケースが起こった時、自分だったらどうするか考えて書く。</p>	<p>DVD 視聴覚機器</p> <p>ワークシート バインダー</p>
8分	<p><b>【ふり返りと分かち合い】</b></p> <p>①身近なところで子どもを守るためにできることをワーク2に書く ②全体で発表し合う</p>	・児童虐待から子どもたちを守るために自分にできることを書く。キーワードだけでもよい。	
2分	<p><b>【おわりに】</b></p> <p>いかがでしたか？ 私は今日のDVDを見て、改めて児童虐待は子どもの命に関わる重大な問題だと思いました。虐待が疑われるようなケースに遭遇した時には、勇気をもって通告することが大事だとも思いました。</p> <p>また、子どもや家庭は社会全体で見守っていくべきものであり、近隣住民同士の声掛けという小さな試みが、地域のつながりを育み、虐待を減らしていく有効な取り組みの1つであることに気づかされました。</p> <p>虐待から子どもを守るために私たちにできることを今日のように話し合う機会があるといいですね。</p> <p style="text-align: center;"><b>《講座の最後にルールとマナーを確認しましょう》</b></p>		

## 4-⑤ 『あたたかい眼差しを』 - 虐待から子どもを守る -

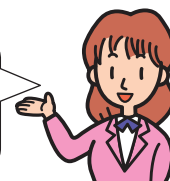
### ① DVDの内容を知る（1分）



今日ご覧いただくDVDは、今、大きな社会問題となっている児童虐待について専門家が概要を話し、虐待をなくすためにはどんなことが大切なのかを訴えかける内容になっています。ご覧いただくみなさんは、児童虐待の問題についての理解を深め、予防のためのヒントをつかんでいただければと思っています。

### ② DVDを視聴する（22分）

（ワークシートを配付して）  
約20分間のDVDです。ワークシートにキーワードや気づいたことをメモしながらご覧ください。後ほど感想を発表し合います。



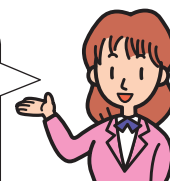
### ③ 自己紹介に加えてメモに記入したことや感想を発表し合う（6分）



ご覧いただいたDVDはいかがでしたか？今からグループの中で、順番にお名前と、DVDを観て気づいたことや感想を一言添えて、自己紹介をしてください。1人1分をお願いします。

### ④ ワーク1に考えを書く（3分）

次に、実際にあなたの近所で児童虐待と感じる出来事があったと想定して考えてみましょう。そのとき、あなたはどのようにしますか。「しなければいけないこと」は先ほどのDVDでわかったと思います。でも、本当にそうできますか。自分ならどうするか考えて、ワーク1に書いてみましょう。また、なぜそうするのか理由も書いてください。3分をお願いします。



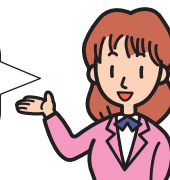
### ⑤ グループごとに話し合う（5分）



では、グループの他の方の考えを聞いてみましょう。1人1分程度で話してください。話し合いが終わったところでグループの代表に様子を発表していただきます。グループ代表も決めておいてください。時間は5分です。

### ⑥ グループで話し合ったことを代表者が発表する（5分）

時間になりました。話し合いを終了してください。それではグループ代表に発表していただきます。（ファシリテーターがいくつかのグループを指名する）



### ⑦ まとめ（1分）



いかがでしたか。まとめに今日の研修をふり返って、身近なところで児童虐待から子どもを守るためにできることをワーク2に書いてみましょう。

4-⑤「『あたたかい眼差しを』 -虐待から子どもを守る-」 ワークシート

# 「あたたかい眼差しを」 -虐待から子どもを守る-

☆ DVDを視聴して、気づいたことや感じたこと、キーワードを記入しましょう。

## ■DVD視聴メモ



ワーク1 近所で、児童虐待と感じる出来事があったら、あなたはどのようにしますか。  
(その理由も書いて下さい。)

## ■理由



ワーク2 身近なところで児童虐待から子どもたちを守るためにできることを考えて書きましょう。



## 「あたたかい眼差しを」 -虐待から子どもを守る-

### ■ プロローグ

今、大きな社会問題となっている児童虐待。専門家は「その背景には、人々が見過ごさずに対処しようとするようになったこと、生活のしづらさや暮しづらさの中での増加、この2つのことが言えます。」と、語る。

### ■ 児童虐待の種類

児童虐待は、「身体的虐待」「性的虐待」「心理的虐待」「ネグレクト」の大きな4つに分けられている。

### ■ 再現ドラマ

山田章二・和江（仮名）夫婦は、隣家の物音から、児童虐待が行われている可能性を疑うが、間違いであることを恐れて通告できないでいた。

児童相談所に通告する和江。通告を受け付けている市区町村の児童福祉関係の窓口や児童相談所などの担当職員は、病院や保健センター、学校、行政機関などから情報を収集し、それを踏まえ家庭訪問を行う。

虐待の可能性のある村上（仮名）家へ訪問する相談所職員。ところが、父親・亮平（仮名）から、「帰れ」と反発を受けてしまう。

児童相談所では医師からの通告を受け、子どもの安全を守るためには一時保護が必要と判断した。

[子どもは社会全体で見守っていくべきものであり、それには幅広いさまざまな支援のための環境整備も欠かせない。全国里親の会についても紹介。]

近隣住民同士の声掛けという小さな試みから、地域のつながりを育み、社会全体で家庭を見守ることが、虐待を減らしていく有効な取り組みであることを訴える。

「あたたかい眼差しを」 -虐待から子どもを守る- 2012 株式会社 映学社

## アイスブレイク資料

### ☆親子で一緒に☆

〈幼児の親子向け〉

#### 1 後出しジャンケン

\* 「親学プログラム」 P 9 7 参照

#### 2 あっち向いてホイ!

**用意するもの** なし

#### **やり方**

- ①まず、2人組でじゃんけんを行う。
- ②ジャンケンの勝敗が決まった直後、勝った方は「あっち向いてホイ!」の掛け声と共に、上下左右の好きな方向を指差す。負けた方は相手の指の動きにつられないように、上下左右のいずれかの方向に顔を向ける。
- ③顔を向けた方向と指を差した方向が一致すると指を差した方の勝ちとなり、一致しなかった場合はじゃんけんからやり直しとなる。

#### 3 動物あて

\* 「親学プログラム」 P 9 9 参照

## 4 風船リレー

**用意するもの** 風船（1チームで1つ）、折り返しの目印（チーム数）

### やり方

- ①親子でペアをつくり、4～6ペアで1つのチームをつくる。
- ②各チームともスタートラインから縦にペアで並ぶ。
- ③スタートの合図で、1番目のペアの親が風船を膨らまし、風船を体で挟み、そのまま折り返し地点を回ってもどってくる。（手を使ってはいけない。）
- ④次のペアに風船をパスし、次のペアも風船を体で挟んで折り返しを回って、もどってくる。以下くり返し、最終ペアが一番早く、もどってきたチームの勝ち。

## 5 ジャンケン列車

**用意するもの** なし

### やり方

- ①親子でペアをつくり、親は後ろから子どもの両肩に手を乗せる。
- ②先頭の子も同士で、ジャンケンをして、負けたペアは勝ったペアの後ろにつながる。（子どもが大人の後ろにつながるので、腰のあたりに両手で触れるようにしてつながる）
- ③先頭の子も同士で、どんどんジャンケンをしていき、最終的に長い1列の列車ができるまで続ける。

〈小学校低・中学年の親子向け〉

## 1 グー・チョキ・パー・アンケート

**用意するもの** キーワードを5つぐらい考えておく

### やり方

- ①キーワードについて、グー（はじめて聞いた）・チョキ（聞いたことがあるがよく知らない）・パー（よく知っている）で答えてもらうよう指示する。
- ②出てきたグー・チョキ・パーの割合を発表し、コメントを述べる。



## 2 ジャンケンゲーム (ジャンケン大会、ジャンケンチャンピオン)

**用意するもの** なし

### やり方

- ①全員が移動しやすいような空間ではじめる。
- ②2人組になり、自己紹介をする。
- ③その2人組でジャンケンをして、勝った方がバンザイをし、負けた方は悔しそうなジェスチャーをする。
- ③相手を代えてどんどん自己紹介とジャンケンをしていき、「ストップ」と声がかかるまで何勝したか数えておく。
- ④全体でファシリテーターが勝った数、負けた数、あいこの数を確認して、コメントやインタビューをする。(勝：運のいい人、負け：優しい人、分け：人の気持ちのわかる人)

## 3 ギョウザジャンケン

**用意するもの** なし

### やり方

- ①3人組になりジャンケン (グーが肉、チョキがにら、パーが皮) をする。
- ②結果が同じ具材だったら、「〇〇しかない」と言いながら手をあげる。  
例) グーとグーとグーだったら、「肉しかない」と言いながら手をあげる。
- ③結果が2つが同じ具材だったら、「〇〇がない」と言いながら手をあげる。  
例) グーとグーとパーだったら「にらがない」と言いながら手をあげる。
- ④グー、チョキ、パーがそろったら、「いただきます」と言ってハイタッチ！して別れ、新しく3人組をつくってくり返す。

## 4 木の中のリス

**用意するもの** なし

### やり方

- ① 3人組をつくり、うち2人は両手をつないでこれを「木(リスの巣)」とする。残りのひとは「リス」となって、つないだ両手の中に入る。
- ② 3人組をつくるときに余った人はオオカミ役となる。余らなかった場合はファシリテーターがオオカミ役となる。
- ③ ファシリテーターの「オオカミが来た！」の合図で、リスは現在入っている木から抜け出して、他の木の中に入る。(必ず移動しなければならない。) この時、木の2人は移動しない。オオカミ役は、リスが移動する時に空いている木の中に入り、リスに変身する。他の木の中に入ることができなかったリスは、オオカミ役になる。
- ④ ファシリテーターの「木こりが来た！」の合図で、木の2人組は手をつないだまま移動して他のリスの中に入れる。オオカミ役が2人いる場合は手をつないで木になり、リスを入れる。
- ⑤ ファシリテーターの「大嵐！」の合図で、3人組はすべてばらばらになり、まったく新しい3人組をつくる。(この時は、だれが木になってもリスになってもかまわない。)
- ⑥ 合図をくり返していく。

## 5 タッチゲーム

**用意するもの** なし

### やり方

- ① 5人～10人の班をつくり輪になる。
- ② 笑顔で、1番目の人が2番目の人に両手でハイタッチし、「○○さん今日も元気ですか？」という。
- ③ 2番目の人は「元気ですよ」とか「張り切ってますよ」などと笑顔で返事する。
- ④ 次は2番目の人が3番目の人に②をして、くり返す。  
\* 言葉を「今日もお疲れ様」 → 「ありがとう、あなたもね」などに代えてもよい。

## ☆雰囲気づくりに☆

### 1 なんでやねん

**用意するもの** あめ

#### やり方

- ①ファシリテーターが「焼きそば」と言ったら、参加者は「ヤーッ！」と言いながら右手を上突き上げる
- ②ファシリテーターが「お好み焼き」と言ったら、参加者は「オーッ！」と言いながら左手を突き上げる。
- ③ファシリテーターが「焼きそば」「お好み焼き」以外の言葉（「焼き飯」「たこ焼き」など）を言ったら、参加者は、右手で払うようなしぐさをしながら「何でやねん」と言う。
- ④「あめ」などをグループに数個配布し、ファシリテーターが「キャンディー」を言ったら「あめ」を取り合う。
- ⑤④でファシリテーターは、「キャベツ」「キャッチャー」など、まぎらわしい言葉を入れるとよい。

## ☆自己紹介に☆

### 1 フルーツバスケット

**用意するもの** なし

#### やり方

- ①全員で椅子に車座で座る。
- ②ファシリテーターが1人～2人を指名して輪の中央に立ってもらう。中央に出た人の椅子は取り除く。
- ③中央に出た人は全体に向け自己紹介をする。
- ④ファシリテーターがキーワード（メガネをかけている人 など）を読み上げ、その条件に当てはまる人は自分の席以外の空いた席に移動する。移動先がなかった人は、中央で自己紹介をする。
- ⑤ファシリテーターが「フルーツバスケット」と言ったら、全員が席を移動する。  
以下くり返す。

## 2 たいやき自己紹介

**用意するもの** たいやき型カードゲーム「短所を長所に変えたいやき」（株式会社アイアップ）

### やり方

- ① 4～6人のグループをつくる。
- ② 各グループとも「やめたいやき（短所）」を上にしてカードを真ん中に広げる。
- ③ 各々が自分に当てはまると思うカードを1人、3～5枚選んでとり、自分の前に「やめたいやき」側を上にして並べる。
- ④ グループ内で順番に置いたカードを使って自己紹介をする。
- ⑤ 1人自己紹介が終わるごとに、裏面「なりたいやき（長所）」に何と書いてあるかみんなで予想し、ひっくり返してみよう。以下、くり返し。
- ⑥ 「なりたいやき」側を使って、他己紹介してみてもよい。

※ P.103～P.112の「性格カード」を使っても同様の活動ができる。

## 3 みんなの木

**用意するもの** ホワイトボード（模造紙）、ペン

### やり方

- ① ファシリテーターが自分の名前をひらがなで、ホワイトボード（模造紙の）真ん中に縦に書く。
- ② 参加者が順に書かれているひらがな一文字をとって、自分の名前を書き足していく。

## ☆グループづくりに☆

### 1 せーのパン！

**用意するもの** なし

### やり方

- ① ファシリテーターの「せーの」の掛け声の後に続けて、みんなで手拍子を1回する。  
続けて、「せーの」2拍手、「せーの」3拍手と数を増やしていく。
- ② 今やっている活動を終了させて、次の活動に移るための指示を聞いてもらうのに有効
- ③ 最後の拍手の数と同じ人数でグループをつくるように指示するとグループ分けができる。

# ☆仲間づくりと雰囲気づくりに☆

## 1 イス移動実態把握

**用意するもの** なし

### やり方

- ①ファシリテーターと参加者全員が輪になってイスに座る
- ②ファシリテーターがいくつか質問する。
- ③ファシリテーターの質問に当てはまる人は、席を立って、できるだけ自席から離れた空いている席に移動する。
- ④以下くり返し。
- ⑤ファシリテーターは参加者にどの質問の時に誰が？何人ぐらいが？移動したか？よく観察するように伝えておく。
- ⑥質問は、楽しく笑えるものから、中心のワークにつながるものにするといよい。

## 2 ジャンケンリレー

**用意するもの** なし

**やり方** 3グループ以上で実施可能

- ①グループごとにリレーの順番を決める。全員起立している。
- ②各グループの1番手が、スタートの合図で、それぞれ別なグループに行き、そのグループのメンバー全員と一斉にジャンケンする。ジャンケンに負けたグループのメンバーは、その場に座る。
- ③1番手の人は、相手のグループのメンバー全員に勝ったら [メンバー全員が座ったら]、自分のグループに戻る。
- ④1番手の方がグループに帰ってきたら、2番手の方が、別な空いているグループに行き、ジャンケンを繰り返す。(相手のメンバーが全員座るまで続ける。)
- ⑤以下、3番手、4番手と同じことをくり返し、アンカーが帰ってきたらゴールとなる。
- ⑥グループ対抗で速さを競い合う。

### 3 紙タワー

**用意するもの** A5の紙15枚、A4の紙5枚（1グループにつき）

#### やり方

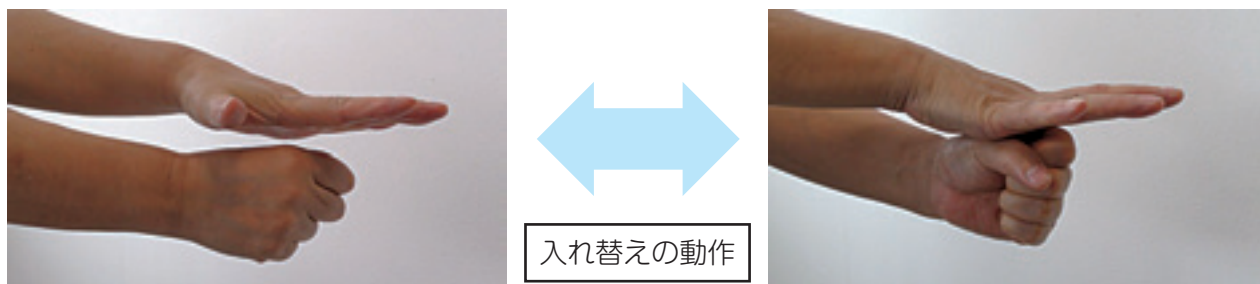
- ①4～6人のグループをつくる。
- ②各グループにA5、A4の紙を20枚程度配る。
- ③グループで協力して、道具を一切使わず、できるだけ高く、見た目が美しいタワーを5分でつくるよう指示する。
- ④どのグループが一番高く美しいタワーをつくったか品評する。

### 4 あんたがたどこさ

**用意するもの** なし

#### やり方

- ①まず一人で、ファシリテーターの歌に合わせて、上になる手をパーの形に、下になる手をグーの形にして、手を打つ。「あんたがたどこさ」の歌の「さ」の言葉のところで上下の手を入れ替える。
- ②2人組で向かい合って、相手の手と自分の手で①の動作を試みる。
- ③全員で輪を作り、両隣と息を合わせて①の動作をやってみる。





## アイスブレイク 索引

プログラム番号	アイスブレイク名	参照ページ
1-①	幸せジャンケン	親学プログラム P 97
	ギョウザジャンケン	アイスブレイク資料 P 96
	バースデーチェーン	親学プログラム P 100
	フルーツバスケット	アイスブレイク資料 P 98
1-②	みんなの木	アイスブレイク資料 P 99
	4つのコーナー	親学プログラム P 102
	ジャンケン大会	アイスブレイク資料 P 96
1-③	後出しジャンケン	親学プログラム P 97
	バースデーチェーン	親学プログラム P 100
1-④	ジャンケンチャンピオン	アイスブレイク資料 P 96
	タイヤキ自己紹介	アイスブレイク資料 P 99
1-⑤	イス移動実態把握	アイスブレイク資料 P 100
2-①	バースデーチェーン	親学プログラム P 100
	ジャンケンリレー	アイスブレイク資料 P 100
2-②	せーのパン!	アイスブレイク資料 P 99
	紙タワー	アイスブレイク資料 P 101
2-③	音探し	親学プログラム P 99
	なんでやねん	アイスブレイク資料 P 98
2-④	大きなかぶ	親学プログラム P 101
2-⑤	ジャンケン大会	アイスブレイク資料 P 96
	幸せの〇〇〇リング	親学プログラム P 98
3-①	幸せジャンケン	親学プログラム P 97
	バースデーチェーン	親学プログラム P 100
3-②	紙タワー	アイスブレイク資料 P 101
3-③	握手リレー	親学プログラム P 100
	4つのコーナー	親学プログラム P 102
3-④	バースデーチェーン	親学プログラム P 100
3-⑤	大きなかぶ	親学プログラム P 101
4-①	グーパー	親学プログラム P 96
	ギョウザジャンケン	アイスブレイク資料 P 96
	フルーツバスケット	アイスブレイク資料 P 98
4-②	あんたがたどこさ	アイスブレイク資料 P 101
	動物あて	親学プログラム P 99
4-③	バースデーチェーン	親学プログラム P 100
4-④	後出しジャンケン	親学プログラム P 97
	幸せジャンケン	親学プログラム P 97
	せーのパン!	アイスブレイク資料 P 99
4-⑤	バースデーチェーン	親学プログラム P 100

<p>こうどう 行動がはやい</p>	<p>こうきしんおうせい 好奇心旺盛</p>
<p>おおらか</p>	<p>こだわらない</p>
<p>おだ 穏やかな</p>	<p>き 気が利く</p>
<p>しんちょう 慎重</p>	<p>まじめ</p>
<p>いし つよ 意志が強い</p>	<p>かんじゅせいゆた 感受性豊か</p>

あきっぱい

あわてんぼう

いいかげん

おおざっぱ

せっかい  
お節介

おとなしい

おもしろ  
面白みがない

おくびょう  
臆病

きどあいらく  
喜怒哀楽が  
はげしい

がんこ

<p>じしん 自信に み 満ちている</p>	<p>づよ がまん強い</p>
<p>だれ 誰とでも なかよ 仲良くなれる</p>	<p>せいじつ 誠実</p>
<p>こうどうりよく 行動力がある</p>	<p>けんやくか 儉約家</p>
<p>けんきよ 謙虚</p>	<p>じぶん いけん 自分の意見を もっている</p>
<p>ねば づよ 粘り強い</p>	<p>すなお 素直</p>

きよわ  
気が弱い

きつよ  
気が強い

きまじめ  
生真面目

おしゃべり

ケチ

ごういん  
強引

ごうじょう  
強情

じしん  
自信がない

じしゅせい  
自主性が  
とぼしい

しつこい

<p>せんさい 織細</p>	<p>ようじんぶか 用心深い</p>
<p>マイペース</p>	<p>リーダーシップ がある</p>
<p>おもき 思い切りがいい</p>	<p>じょうねつてき 情熱的</p>
<p>じょうふか 情が深い</p>	<p>そぼく 素朴</p>
<p>こうどう きびん 行動が機敏</p>	<p>おつよ 押しが強い</p>



しんぱいしょう  
心配症

しんけいしつ  
神経質

しきりや

じぶんかって  
自分勝手

きしょう はげ  
気性が激しい

しょうどうてき  
衝動的

じみ  
地味

じょう なが  
情に流されやすい

ずうずう  
図々しい

せっかち

<p>そっちよく <b>率直</b></p>	<p>しどおりよく <b>指導力がある</b></p>
<p>せわす <b>世話好き</b></p>	<p>ふんいき <b>雰囲気を</b> あか <b>明るくする</b></p>
<p>らっかんてき <b>楽観的</b></p>	<p>お つ <b>落ち着きがある</b></p>
<p>あま じょうず <b>甘え上手</b></p>	<p>じゅうなんせい <b>柔軟性がある</b></p>
<p>じょうしきじん <b>常識人</b></p>	<p>ひかめ <b>控え目</b></p>

いば  
威張っている

たんき  
短気

ちょうし  
調子に  
のりやすい

でしゃばり

のろい

のうてんき

はっぼうびじん  
八方美人

ひと  
人まかせ

ひこじあん  
引っ込み思案

へいぼん  
平凡

<p>きづか <b>気遣い</b>ができる</p>	<p>こうじょうしん <b>向上心</b>がある</p>
<p>はなし <b>話</b>をよくきく</p>	<p>りゅうこう びんかん <b>流行</b>に<b>敏感</b></p>
<p>しりよ ぶか <b>思慮</b>深い</p>	<p>けつだんりよく <b>決断力</b>がある</p>
<p>ろんり てき <b>論理的</b></p>	<p>けいかくてき <b>計画的</b></p>
<p>かんが <b>考え</b>が <b>はっきり</b>している</p>	<p>ふと ぱら <b>太っ腹</b></p>

ま  
負けすぎらい

まわ き  
周りを気にする

なが  
流されやすい

むくち  
無口

むこうみず

ゆうじゅうふだん  
優柔不断

ゆうずう  
融通がきかない

りくつ  
理屈っぽい

ろうひか  
浪費家

わがまま

# 参考資料

「親学プログラム2」を実施される場合の参考資料です。

**【参考資料1】「3-④ ネットいじめから子どもを守る [ 中心のワーク①で伝える事例 ]」**

(出典 『「ネットいじめ」に関する対応マニュアル・事例集 (学校・教員向け)』文部科学省平成20年11月)  
「3-④ ネットいじめから子どもを守る」の中心のワーク①で伝える事例について、企画実施者 (主催者) や市町村教育委員会との打合せでの参考資料として活用してください。

**【参考資料2】「いじめ・児童虐待等に関する主な相談窓口一覧」(資料提供 県健康福祉部青少年家庭課)**

参加者から、いじめや児童虐待にかかわる相談等がありましたら、相談窓口の紹介として活用してください。

**【参考資料3】「電話の中の子どもたち」(資料提供 NPO法人 チャイルドラインしまね)**

主に「3 いじめ予防にかかわるプログラム」を実施される際に、事前に目を通したり、プログラムの「おわりに」で読まれたりして、活用してください。

**【参考資料4】「特集 いじめを考える」(出典 島根県人権啓発推進センター広報誌『りっぷる』第16号)**

**【参考資料5】「お様が安全に安心してインターネットを利用するために保護者ができること」**

(内閣府・総務省・経済産業省・内閣官房 IT 総合戦略室・警察庁・消費者庁・法務省・文部科学省・厚生労働省)

**【参考資料6】「親の見守りは、最強のフィルタリングです。- 親だからできること !! -」**

(島根県・島根県教育委員会・島根県警察本部・青少年育成島根県民会議)

**【参考資料7】「虐待かと思ったら、189番へ」 (厚生労働省)**

【参考資料4～7】は、国・県や関係機関から発行されているリーフレット・資料です。参加者への情報提供等として、必要に応じて、活用してください。

**【各資料の取扱いについて】**

各資料は、プログラム実施の際に必ず活用するというものではありません。ファシリテーターや企画実施者からの情報提供の一つとして、必要に応じて、活用してください。



## 【参考資料1】

### 3-④ 「ネットいじめから子どもを守る」【中心のワーク①で伝える事例】

『「ネット上のいじめ」の類型』として文部科学省『「ネット上のいじめ」に関する対応マニュアル・事例集（学校・教員向け）』に紹介されているものです。企画実施者（主催者）や市町村教育委員会等との実施前の打合せで、中心のワーク①で伝える事例の参考として活用してください。

#### 「ネット上のいじめ」の類型

「ネット上のいじめ」には様々なものがありますが、手段や内容に着目して、次のとおり類型化できます。実際の「ネット上のいじめ」は、これらに分類したそれぞれの要素を複合的に含んでいる場合も多くあります。

#### ① 掲示板・ブログ・プロフィールでの「ネット上のいじめ」

##### i) 掲示板・ブログ・プロフィールへの誹謗・中傷の書き込み

インターネット上の掲示板やブログ（ウェブログ）、プロフィール（プロフィールサイト）に、特定の子どもの誹謗・中傷を書き込み、いじめにつながっている場合もあります。

##### ii) 掲示板・ブログ・プロフィールへ個人情報を無断で掲載

掲示板やブログ、プロフィールに、本人に無断で、実名や個人が特定できる表現を用いて、電話番号や写真等の個人情報が掲載され、そのために、迷惑メールが届くようになり、個人情報に加えて、容姿や性格等を誹謗・中傷する書き込みをされ、クラス全体から無視されるなどのいじめにつながったりしたケースがあります。

##### iii) 特定の子どもになりすましてインターネット上で活動を行う

特定の子どもになりすまして、無断でプロフィールなどを作成し、その特定の子どもの電話番号やメールアドレスなどの個人情報を掲載した上、「暇だから電話して」などと書き込みをしたことにより、個人情報を掲載された児童生徒に、他人から電話がかかってくるなどの被害があります。

#### 【参考】 掲示板・ブログ・プロフィールとは

（電子）掲示板・・・参加者が自由に文章等を投稿することで、コミュニケーションを行うことができるウェブサイトのこと。掲示板の管理者がテーマ等を設定し、その内容に沿った書き込みをする。

ブログ・・・「ウェブログ」の略。個人や数人のグループで管理運営され、日記のように更新されるウェブサイト。携帯電話等を使用して更新するブログは「モブログ」と呼ばれている。

プロフィール・・・「プロフィールサイト」の略で、パソコンや携帯電話からインターネットを利用して、自己紹介サイトを作成することができる。事業者（プロバイダ）が行っている無料のプロフィール作成用サービスを利用すれば、小中学生でも簡単に作成することができる。不特定多数の者が見たり書き込んだりすることができる。

## ② メールでの「ネット上のいじめ」

### i) メールで特定の子どもに対して誹謗・中傷を行う

誹謗・中傷のメールを繰り返し特定の子どもに送信するなどして、いじめを行ったケースがあります。インターネット上から、無料で複数のメールアドレスを取得できるため（サブアドレス）、いじめられている子どもには、誰からメールを送信されているのか判らないこともあります。

### ii) 「チェーンメール」で悪口や誹謗・中傷の内容を送信する

特定の子どもを誹謗・中傷する内容のメールを作成し、「複数の人物に対して送信するように促すメール（チェーンメール）」を、同一学校の複数の生徒に送信することで、当該生徒への誹謗・中傷が学校全体に広まったケースがあります。

### iii) 「なりすましメール」で誹謗・中傷などを行う。

第三者になりすまして送られてくるメールのことを、「なりすましメール」と呼んでいます。なりすましメールは、子どもたちでも簡単に送信することができます。クラスの多くの子どもになりすまして、「死ね、キモイ」などのメールを特定の子どもに何十通も送信した事例などもあります。

【参考資料2】

# いじめ・児童虐待等に関する主な相談窓口一覧

平成27年7月1日現在

●市町村

子育てに関する相談窓口（児童虐待相談も受け付けます）

松江市	家庭相談室	0852-55-5484	概ね月～金 (祝日、年末年始を除く) 8:30～17:00
浜田市	子育て支援課	0855-25-9331	
出雲市	子育て支援課	0853-21-6604	
益田市	子育てあんしん相談室	0120-71-7867	
大田市	子育て支援課	0854-82-1600	
安来市	子ども未来課（子育て支援センター）	0854-23-3209	
江津市	子育て支援課	0855-52-2501	
	子育てサポートセンター	0855-52-0569	
雲南市	子育て相談室	0854-40-1046	
奥出雲町	子育て支援課	0854-52-2206	
飯南町	保健福祉課	0854-72-1770	
川本町	健康福祉課	0855-72-0633	
美郷町	健康福祉課	0855-75-1932	
邑南町	福祉課	0855-95-1115	
津和野町	健康福祉課	0856-72-0673	
吉賀町	保健福祉課	0856-77-1165	
海士町	健康福祉課	08514-2-1823	
西ノ島町	健康福祉課	08514-6-0104	
知夫村	村民福祉課	08514-8-2211	
隠岐の島町	福祉課	08512-2-8577	

●県機関等

子育てに関する電話相談

子どもと家庭電話相談室	0120-258-641	祝日、年末年始を除く毎日 9:00～21:30
-------------	--------------	-------------------------

子育てに関する相談窓口（児童虐待相談も受け付けます）

中央児童相談所	0852-21-3168	月～金 (祝日・休日、年末年始を除く) 8:30～17:15
中央児童相談所隠岐相談室	08512-2-9810	
出雲児童相談所	0853-21-0007	
浜田児童相談所	0855-28-3560	
益田児童相談所	0856-22-0083	

児童相談所全国共通ダイヤル〈虐待かも、と思ったらいちはやく〉

お近くの児童相談所	189 (いちはやく)	毎日 24時間
-----------	-------------	---------

子どもや保護者の悩みや困りごと

ヤングテレフォン/けいさつ・いじめ110番	0120-786-719	専門相談員の受付時間は、月～金/8:30～17:15
みこぴーヤングメール	島根県警察のホームページからアクセスしてください。	メール受信の確認は、月～金曜日（祝日を除く）の8:30～17:15

乳幼児の子育てに関する悩み

育児電話相談〈松江赤十字乳児院〉	0852-24-6418	月～金/9:00～16:30
------------------	--------------	----------------

いじめ・不登校・子育てなどの悩み

いじめ相談テレフォン〈島根県教育委員会〉	0120-874-371 0120-779-110	月～金/9:00～19:00 土・日・祝日/10:00～17:00
----------------------	------------------------------	--------------------------------------

いじめ、体罰など

子どもの人権110番 〈松江地方方法務局島根県人権擁護委員連合会〉	0120-007-110	月～金/8:30～17:15
--------------------------------------	--------------	----------------

子ども専用電話〈子どもだけがかけられる電話〉

こどもほっとライン もしもしにゃんこ	0120-225-044	毎週日曜日 14:00～18:00
チャイルドライン	0120-99-7777	毎日 16:00～21:00

## 【参考資料3】

# 電話の中の子どもたち

※ 2013・2014年度に中四国エリアのチャイルドラインに寄せられた子どもたちの声の一部（いじめに関するものを抜粋）です。

### \*いじめられている

- 仲間はずれにされている。急にみんな冷たくなり、一番仲が良かった子まで私を避けるようになった。こそこそ話されづらい。
- いじめられている。相手は5人グループ。悪口を言われたり、トイレで水をかけられたりするが、だれにも相談できない。
- 男子に悪口を言われている。悪口を言っているのは、クラスの1/3くらい。やめてといっても無視される。
- クラスメートにからかわれている。ずっといじめられていて、だれも友だちになってくれない。
- いじめられている。授業中はメモを回してクスクス笑う。休み時間は聞き取れない声でひそひそ話して、私を見る。
- 部活で同級生とも先輩後輩ともうまくいかなくなっていて、ずっと仲間はずれにされている。定期試験が始まるのに、勉強する元気がない。

### \*友だちがいじめられている

- 友だちがいじめられている。悪口を言われ続けて、リストカットするようになった。
- 友だちがいじめられている。どうにかしてあげたいけど、私と口をきかなくなってしまった。

### \*友達をいじめてしまった

- 友だちをいじめるよう言われ、逆らえず、いじめてしまった。その子には、後であやまった。先生に相談するのは、無理。
- いじめのニュースを見ていて心配になって、ずっと気になっている。友だちを殴ったことがある。人が嫌がることをしたこともある。

※個人情報保護のため、再構成しています。

※チャイルドラインは、子どもの声を受け止める電話です。日本で最初に開設されたのは、1998年に「いじめよとまれ！」で開設された、せたがやチャイルドラインでした。2015年3月1日現在、全国41都道府県に72のチャイルドラインがあり、年間約20万件の電話を受けています。



特集

# いじめを考える

現在、「いじめ」の問題は、深刻かつ重大な社会問題になっています。

平成23年に大津市で「いじめ」により中学生が自ら命を絶つという痛ましい事件が発生して大きな問題となり、平成25年9月には「いじめ防止対策推進法」が施行されました。

今号の特集では、今日はいじめの特徴や現状について取り上げます。

## いじめとは？

「いじめ」は、いじめられた児童生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命及び身体に重大な危険を生じさせるおそれがあるものです。

個々の行為が「いじめ」に当たるかどうかの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめを受けた子どもの立場に立って行う必要があります。

### いじめの形態

仲間はずれ、無視、陰口、冷やか、からかい

殴る、蹴る、物を壊す、金品をたかる

インターネット上の書き込みや仲間はずれ

### どの子どもにも起こりうる、いじめ

#### 小中学生への9年間のいじめの追跡調査

「仲間はずれ、無視、陰口」

された経験がある.....9割

した経験がある.....9割

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導センター  
いじめ追跡調査2010-2012



### 大人が気づきにくい、いじめ

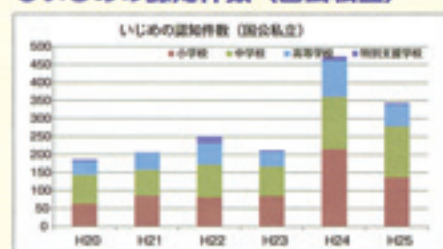
いじめは、ふざけや遊びをよそおったり、インターネット上やメールなど、大人が気づきにくい場所や形で行われます。いじめられた子ども自身も、「心配されたくない」「仕返しを怖い」という気持ちから、いじめを否定する心理が働く場合もあります。



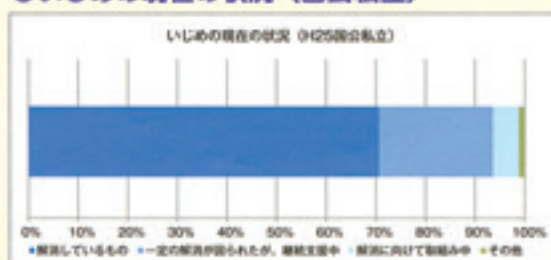
### 島根県内のいじめの状況

(平成25年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」より)

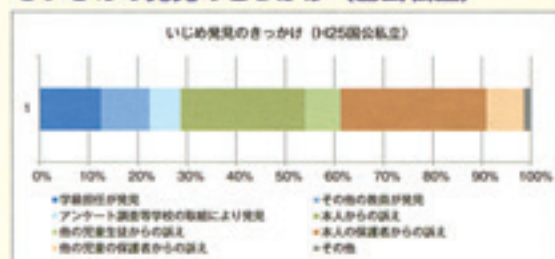
#### ●いじめの認知件数（国公立）



#### ●いじめの現在の状況（国公立）



#### ●いじめの発見のきっかけ（国公立）



※平成23年に起きた大津市でのいじめの事件により、平成24年度は緊急調査が行われ、学校でも意識して子どもたちの様子を捉えられたため、大幅に増えています。平成25年度は小学校で減少してきています。

いじめの発見のきっかけは、本人や保護者の訴えによるものが半数を超えています。

また、認知されたいじめの9割以上は解消が図られています。



多くの子どもたちが、「いじめ」のことを誰にも相談できずにいます。  
「いじめ」があれば毎日の生活の中に、これまでと違った行動や態度などが現れます。  
いじめのサインをチェックしてみましょう！

## いじめのサイン 発見シート

監修 森田洋司氏  
大阪公立大学名誉教授 / いじめ防止基本方針策定協議会委員

多くの子どもたちが、だれにも相談できずにいる「いじめのこと」。言葉では伝えられなくても、「いじめ」があれば毎日の生活の中に、これまでとちがった行動や態度などが現れます。「いじめのサイン発見シート」を使ってふだんの生活とのちがいを確認してください。



### 朝（登校前）

- ※チェック欄は2回、もしくは2人で出来るように2つあります。
- 朝起きてこない、布団からなかなか出てこない。
  - 朝になると体の具合が悪いと言い、学校を休みたがる。
  - 遅刻や早退がふえた。
  - 食欲がなくなったり、だまって食べるようになる。



### 夕（下校後）

- ケータイ電話やメールの着信音におびえる。
- 勉強しなくなる、集中力が無い。
- 家からお金を持ち出したり、必要以上のお金をほしがる。
- 遊びのなかで、笑われたり、からかわれたり、命令されている。
- 親しい友達が遊びに来ない、遊びに行かない。



### 夜間（就寝後）

- 寝つきが悪かったり、夜醒れなかったりする日が続く。
- 学校で使う物や持ち物がなくなったり、こわれている。
- 教科書やノートにいやがらせのラクガキをされたり、やぶられたりしている。
- 服がよこれていたり、やぶれていたりする。



お子さまの  
ようすは  
いかがですか？

### 夜（就寝前）

- 表情が暗く、家族との会話も少なくなった。
- ささいなことでもイライラしたり、物にあたったりする。
- 学校や友達の話がへった。
- 自分の部屋に閉じこもる時間がふえた。
- パソコンやスマホをいつも気にしている。
- 理由をはっきり言わないアザやキズアトがある。

### ■「いじめ」をしていますか？

いじめる側になっていると、次のようなサインが出ていることがあります。



- 言葉づかいが荒くなる、言うことをきかない、人のことをばかにする。
- 買ったおぼえのない物を持っている。
- 与えたお金以上のものを持っている。おこづかいでは買えないものを持っている。

### クラス替えなど環境の変化には特に注意が必要です。

4月はクラス替えで新しい友達ができるなど、子どもにとって環境の大きく変わる月です。学校生活を楽しく過ごせる友達ができるかどうか、注意して見守る必要があります。また、転校などのタイミングにも注意してください。



### 休み明けの変化を見逃さないようにしましょう。

夏 冬休みの終わりころから新学期が始まる時期に、登校をいやがったり、元気がなくなったりしていないか、子どものようすの変化に注意する必要があります。日曜日から月曜日にかけても同じです。

※チェック項目は参考例です。お子さまやご家族の実態に合わせて、ご活用下さい。

## 発見シートなどで、「あれ？」もしかしてと思ったら...

- 子どもにとって良き相談相手になってあげましょう。気持ちを受け入れてあげることが大切です。
- ようすがおかしくても、同じ話めたり、結論を急いだりしないようにしましょう。
- 何があっても「守り抜く」「必ず助ける」ことを真剣に伝えましょう。
- いじめている人が悪く、いじめられている人は悪くないと伝えましょう。
- 子どもに次のようなことは言わないようにしましょう。  
「無視しなさい」「大したことではない」「あなたにも悪いところがある」「いじめられるほうが悪い」「弱いからいじめられる」など



ご家族だけで悩まずに、心配なことは学校や関係機関の窓口などに相談しましょう。



## いじめの4層構造



いじめは、「いじめを受ける子ども（被害者）」「いじめを行う子ども（加害者）」だけの問題ではなく、これらをとりまいて「はやし立てる子ども（観衆）」や「見て見ぬふりをする子ども（傍観者）」の集団が存在し、全体として4層構造から成っているとわれています。

「観衆」はいじめに加わっていることに、「傍観者」はいじめを認めていることになるため、これらの行為は被害者をさらに傷つけることとなります。

「いじめ」の解消のためには、「観衆」や「傍観者」の子どもたちに対しても「いじめ」が許されないこと、「いじめ」を止めさせる必要性を働きかけていくことが大切です。

## いじめを防止するために

大人社会における体罰や虐待、パワーハラスメントやセクシャルハラスメントなどの社会問題は、いじめを生み出す1つの要因と考えられ、他人の弱みを笑いものにしたり、異質な他者を差別したりといった大人のふるまいが、子どもに影響を与えるという指摘がなされています。

いじめを防止するためには、学校や家庭、地域など関係者が連携を図りながら、子どもの自尊感情を高め、人権感覚を養っていくことが必要です。そして、大人自身も子どもの手本となるよう人権意識を高めていく努力をしていく必要があります。

島根県では、平成26年4月にいじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するため、「島根県いじめ防止基本方針～しまねの子どもの絆づくりをめざして～」を策定しました。

基本方針の内容については、島根県ホームページに掲載していますのでご覧ください。

### 各相談機関窓口

いじめ、体罰など

**子どもの人権110番**  
フリーダイヤル 0120-007-110  
【月～金】8:30～17:15

いじめ、不登校、子育ての悩み

**いじめ相談テレフォン**  
フリーダイヤル 0120-874-371  
0120-779-110  
【月～金】9:00～19:00  
【土・日・祝】10:00～17:00

子どもや保護者の悩みごとやこまりごと

**ヤングテレホン  
けいさつ・いじめ110番**  
フリーダイヤル 0120-786-719  
24時間対応

さまざまな悩みや心の危機など

**島根いのちの電話**  
電話 0852-26-7575  
電話 0570-783-556  
【年中無休】（月～金）9:00～22:00  
【土・日】土曜 9:00～日曜 22:00

子どもや子育ての悩み

**子どもと家庭電話相談室**  
フリーダイヤル 0120-258-641  
9:00～21:30  
（祝日、年末年始を除く）



保護者向け 内閣府・総務省・経済産業省・内閣官房IT総合戦略室・警察庁・消費者庁・法務省・文部科学省・厚生労働省

# お子様が安全に安心して インターネットを利用するために 保護者ができること



平成27年3月

サイバーセキュリティ  
普及啓発

## 1 保護者の理解と見守りが、お子様を守ります。

インターネットは、世界中の様々な情報を調べることができる便利なものです。近年は、学校教育でも利用され、青少年にとって欠かせない存在となっています。

しかし、インターネットの利用によって、性表現や暴力表現、危険ドラッグのほか、青少年の健全な成長に悪い影響を与える違法・有害情報に触れる可能性があります。また、コミュニティサイトの利用などにより、友達同士のトラブルや事件・事故に巻き込まれることもあります。たとえいたずらのつもりであっても、安易に犯行予告などを行えば、犯罪の加害者側になることもあり、行為によっては罰せられる場合もあります。

このようなリスクを減らし、安全・安心なインターネット利用環境を実現するために、「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律（青少年インターネット環境整備法）」が施行されています。

青少年の適切なインターネット利用を促すためには、保護者がインターネットの特徴を理解し、ご家庭内でインターネットの利用について話題にしながら、青少年を守ることが大切です。

### ● 保護者ができる3つのポイント

発達段階に応じて、

- (1) 適切にインターネットを利用させる
- (2) 家庭のルールを作る
- (3) フィルタリングなどを設定する



### お子様の将来のために

インターネットを「使いこなす力」は、これからの社会で必要不可欠です。交通安全ルールと同じように、自分自身を守りながら、賢く有効に使わせましょう。

そのためには、お子様の成長に合わせて インターネットに関する知識・技術、情報モラルやコミュニケーション能力をそれぞれ身に付けさせることが大切です。

### ◎お子様にインターネットを利用させる際の保護者の責務が規定されています。

青少年インターネット環境整備法第6条において、保護者は、青少年のインターネット利用の状況を適切に把握するとともに、利用を適切に管理し、適切に活用する能力の習得の促進に努めることとされています。お子様の将来のため、保護者の役割をこのリーフレットで再確認してみましょう。

## 2 お子様がどんな使い方をしているかご存知ですか？

- お子様にどのような機器を持たせていますか？ どのようにインターネットを利用させていますか？
- お子様がどのような場所・環境で、どのようなサービスを利用しているかご存知ですか？ 例えば、街なかの無線LAN回線（Wi-Fiなど）を利用することはありますか？
- 保護者の目が届かない場合でも、親子で話し合っルールを決めていますか？ フィルタリングなどを設定していますか？

チェックを入れて確認してみましょう。

近年、スマートフォンをはじめ、身近なインターネット接続機器が増えています。例えば、タブレット端末や携帯音楽プレイヤーにもスマートフォンと同ようなサービスやアプリを利用できる機器があります。



- 上記のようなモバイル端末の普及により、お子様のインターネットの使い方が急激に変化しています。メール、ゲーム、SNS（ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス）、チャットや掲示板（特に書き込み）、交流サイト（特に知らない人）、ゲームやアプリでの課金など、保護者が気づいていない使い方をしていませんか？

### □ 自撮りによる画像や動画など

スマートフォンなどのカメラ機能を使って自分自身を撮影（自撮り）し、その画像や動画を友達に送ることや、多数の閲覧者向けにネット配信・共有することが増えています。自撮りした画像に位置情報（GPS）が入っていたり、自宅などで撮影して、地域を特定しやすい背景や学校の制服が写り込んでいたりすると、意図せずに個人が特定され、トラブルや事件に巻き込まれる可能性もあるので注意が必要です。また、たとえ交際相手であっても、下着姿や裸の画像などを送ることはやめましょう。送ってしまった後に削除したいと思っても、他人の手に渡った画像などは、完全には削除できません。

### □ 犯罪の加害者側にならないために

濡れた際に復讐のつもりで、交際相手の下着姿や裸の画像などを他人に送ったり、知り合いから送られてきたそのような画像などを転送することなどはやめましょう。「私人的な画像記録の提供等による被害の防止に関する法律（いわゆるリベンジポルノ法）違反」や「児童買春・児童ポルノ禁止法違反（提供罪）」となる場合があります。

### □ コミュニケーションアプリの利用

無料通話やグループでのメッセージが利用できるコミュニケーションアプリが増えています。複数人でのグループ利用ができることから、ちょっとした誤解などから大きなトラブルに発展する場合があります。また、IDを取得して掲示板などで交換すると、見知らぬ人との出会いにつながる可能性があるため注意が必要です。

### □ ネットの長時間利用

モバイル端末は、いつでもどこでもインターネットを利用できるため、意識せずに長時間利用してしまう人が増えています。お子様がインターネットを使わないと不安になったり、イライラしたりという様子を感じたら、怒って追い込むのは逆効果。親子のコミュニケーションを増やし徐々に遠ざけながら見守りましょう。



### 3 保護者ができる3つのポイント

#### ● まず、保護者自身が気を付けること

お子様は保護者の行動を見て、学び、育ちます。お子様の適切なインターネット利用は、お子様を取り巻く大人のインターネット利用や取り組み意識にかかっています。お子様とともに、保護者自身がインターネットに関する知識・技術、情報モラルやコミュニケーション能力をそれぞれ身につけることが重要です。

お子様だけでなく保護者自身も、日常のモラル・ルールに加え、インターネットの特性とリスクを理解して、適切なインターネットを利用を心がけましょう。また、困った時に気軽に相談できるように保護者同士で情報交換をすることで、専門機関や相談窓口を確認しておきましょう。



#### ● インターネットの特徴とリスク

<b>公開性</b> インターネットは世界中に開かれているため、誰に見られているかわからない。	<b>記録性</b> 情報は誰かにコピーされ、広がり続ける可能性があるため、完全に削除できない。
<b>公共性</b> インターネットは仲間うちだけの空間ではなく、いろいろな人が利用する公共の場。	<b>侵入の可能性</b> 自分の機器やIDが悪意ある人に不正使用されて、大切な情報が盗まれる恐れがある。
<b>匿名性</b> 情報や発言の真意が不明なこともあるため、自分で確認・判断することが必要。	<b>追跡性</b> 警察はアクセスログから情報発信元を特定できる。一般の第三者でも個人を特定できる可能性がある。

### (1) トラブルや事件に巻き込まれないように、適切にインターネットを利用させましょう。

#### ● ネットデビュー ～初めてインターネットを利用させる場合

危ない使い方をしたり、トラブルや事件に巻き込まれたりしないように、インターネットを適切に利用するための知識・技術、情報モラルやコミュニケーション能力を親子で身につけましょう。

#### ● 新しい機器をお子様を持たせる前に

お子様の成長に合わせて、インターネットを利用させることが大切です。お子様に機器を持たせる前に、まず、何のために必要なか、どのように使うのか、目的やルールを話し合しましょう。

単なるプレゼントやご褒美で安易に与えてしまうのではなく、目的を明確にしましょう。また、機器を持たせる前に、フィルタリングやペアレンタルコントロール機能を設定しましょう。例えば、お子様向けに機能を制限した携帯電話などを使用することも有効な手段の一つです。

小型で軽量のモバイル端末は、自由に持ち運んで利用することが可能です。保護者の目が行き届かなくなるため、お子様の成長に合わせて使用させましょう。

保護者のモバイル端末を一時的に貸す場合は、お子様の年齢や利用に合わせてインターネット接続機能を制限し、設定変更や決済などをしないようにパスワード管理をしましょう。また、アドレス帳などの保護者の個人情報にはロックをかけるなど、適切に管理しましょう。使わなくなった機器は、初期化するか、ID、パスワード、アドレス帳、不要アプリなどを削除し、適切な環境を整えてから与えましょう。

#### ● 持たせ始めが肝心

利用する機器やサービスの「初期設定」は、必ず、保護者が行いましょう。また、トラブルに遭っていないか、過度の長時間利用になっていないかなど、こまめに利用状況を確認しましょう。

お子様専用機として持たせる場合も、保護者が管理する機器を使わせているという意識付けをすることは有効な方法の一つです。保護者の見守りが必要な機器であることを、最初にしっかり伝えましょう。

#### ● 少しずつ利用できる範囲を広げる

お子様がどの程度インターネットを使いこなす知識・技術、情報モラルやコミュニケーション能力をそれぞれ身につけているかを見極めましょう。そして、その成長に合わせて、持たせる機器やフィルタリングの設定などを見直して、インターネットを利用させる範囲やサービスを広げていきましょう。



フィルタリングやペアレンタルコントロール機能は、保護者の目が届かないところでインターネットを利用する際に、保護者と決めたルールの下で安全に安心して利用できるよう、お子様を見守るツールです。フィルタリングで制限されてしまうサイトやアプリを使いたい場合でも、特定のサイトやアプリだけ利用できるように「カスタマイズ」することが可能です。お子様を信頼すること、安全を保つことは、別問題。フィルタリング自体の解除ではなく「ゆるめる」対応をしましょう。

### (2) 適切な生活習慣が身につけられるように、家庭のルールをお子様と一緒に作りましょう。

#### ● ご家庭の利用状況に合わせて、お子様と一緒にルールを作りましょう。

☑ チェックを入れて確認してみましょう。

- お子様が使おうとしているサービスと一緒に見てみましょう。一緒に見ることで、懸念されるリスクについて確認することができます。
- お子様と話し合っただけでルールを作りましょう。なぜルールが必要なのかを、お子様が理解することが大切です。ルールを一方向的に押し付けるのではなく、お子様の実際の使い方を聞きながら、インターネットを使う目的をはっきりさせましょう。
- お子様の利用状況を確認するルールを作りましょう。お子様の利用履歴を勝手にチェックするのではなく、お子様と一緒に確認し、問題がないか話し合しましょう。
- ルール違反があった場合、次にどうすれば違反しないかお子様と一緒に考えましょう。保護者預かり、リビング以外での使用禁止など、ルール違反をした場合の罰則を事前に決めておくことで、自分をコントロールする力と、ルールを守る責任感が生まれます。次に違反しないように話し合しましょう。

- トラブルのときはすぐに保護者に相談するよう話しておきましょう。お子様から相談を受けたときに、慌てないように、事前に対応方法や相談窓口を確認しておきましょう。

**友達と連携しましょう。**  
コミュニケーションアプリなど、グループ内でのメッセージのやり取りが増えたことで、子ども達同士のトラブルが発生しています。保護者同士で情報交換し、子ども達同士のルールを作るなど、学校、学級、地域で連携して、お子様を見守る取組が大切です。

**家庭のルールを作る際の心構えを確認しましょう。**  
お子様と一緒に、きちんと守れるルールを作りましょう。ルール違反が明確になるルールを作りましょう。ルールを気分次第で適用しないようにしましょう。

#### ● ご家庭のルールの具体例

- 困ったときはすぐに相談する。
- 友達にメールやメッセージのやり取りを強要しない。
- インターネットを使わない子を仲間はずれにしない。
- 利用する場所や時間を決める。
- パスワードは保護者が管理する。
- お金がかかる場合は事前に相談する。
- 名前、顔写真、学校名などは書き込まない。
- 知らない人のメールに返信しない。
- ルールを破ったら、一時利用禁止とする。



#### ● ソーシャルメディアの利用について

ソーシャルメディアは、インターネットにつながる人々がコミュニケーションができる「公共の場所」です。また、一度公開した情報はインターネット上に残り、広がる可能性があります。実社会でやっていけないことは、インターネット上でもやってはいけません。お子様が犯罪の加害者にも被害者にもならないよう、お子様には、情報モラルなどを身につけて、ルールやマナーを守って利用させましょう。

- 個人情報を書き込まない。
- 他人を誹謗中傷する書き込みをしない。など



### (3)保護者の目の届かないところでもお子様を見守れるように、フィルタリングなどを設定しましょう。

利用する機器やサービスの「初期設定」をお子様任せにしていますか？

「子供を信頼する」と「子供の安全を守る」ことは別問題、最初の対応が肝心です。

#### ●「フィルタリング」と「ウイルス対策」のペアでセキュリティ対策を行きましょう。

危険なサイトに行かないように守る「**フィルタリング**」

危険なものの侵入を防ぐ「**ウイルス対策**」

- ・個人情報盗むなりすましサイト
- ・架空請求などを目的とするサイト
- ・犯罪やトラブルを誘発する交流サイト
- ・ウイルスファイルをまき散らすサイト

- ・健全な運営状態にあるサイト
- ・許可リストにあるサイト
- ・その他、安心な一般サイト



- ・ウイルスなどの不正プログラム (不正アプリを含む)
- ・ウイルスなどが仕込まれたメール
- ・アドレス帳など、個人情報へのアクセス

- ・一般的なメールやメルマガ
- ・友人や知人からのメッセージ
- ・信頼できるアプリ など

### A スマートフォン・携帯電話を持たせる場合

#### ●購入時に18歳未満の青少年に使用させることを申し出て、①携帯電話会社のフィルタリングを利用しましょう。

#### ●スマートフォンは②WEB(ブラウザ)用と③アプリ用の端末内のフィルタリングを利用しましょう。

青少年インターネット環境整備法第17条第2項において、保護者は18歳未満の青少年に使用させるために携帯電話・スマートフォンを購入する場合は、携帯電話会社にその旨を伝える義務があります。

#### ① 携帯電話会社のフィルタリングを利用しましょう。

携帯電話会社の電波(3G、4G回線やLTEなど)を使ってインターネットに接続する場合

購入時に携帯電話会社のフィルタリングサービスに申し込むことで、自動的に違法・有害情報の閲覧を防ぐことができます。(ネットワーク上のフィルタリング)



#### ② WEB(ブラウザ)用のフィルタリングを設定しましょう。

スマートフォンは、携帯電話会社の電波(3G、4G回線やLTEなど)に加えて、無線LAN回線(Wi-Fiなど)を使ってインターネットに接続することができます。

ご自宅やコンビニ・公共交通機関などで無線LAN回線(Wi-Fiなど)に接続させる場合には、フィルタリングが適用されているか確認しましょう。

無線LAN回線(Wi-Fiなど)を利用する場合には、①フィルタリングが適用されない場合があります。お子様のスマートフォンに②WEB(ブラウザ)用のフィルタリングアプリを設定して(端末内のフィルタリング)、違法・有害情報の閲覧を防ぎましょう。

#### ③ アプリ用のフィルタリングを設定しましょう。

スマートフォンでは、ホームページなどを閲覧するブラウザ以外にも、様々な機能やサービスを提供するアプリがあります。アプリは、ブラウザを使わずに、直接、インターネットを利用しているため、①や②のフィルタリングが適用されない場合があります。

そのため、お子様の安全で安心できる利用環境を保つには、アプリ用のフィルタリングを導入・設定する必要があります(端末内のフィルタリング)。

アプリ用のフィルタリングを導入・設定するには、機器にフィルタリングアプリを導入したり、アプリのインストールや起動を制限する機器本体の機能を活用したりする方法があります。スマートフォンによって使い方や設定が異なりますので、購入時に販売店やメーカー、ホームページで確認しましょう。

※3つのフィルタリングを、1つのアプリや設定で管理できるスマートフォンもありますので、店頭などで確認しましょう。

### B ノートパソコン・携帯ゲーム機・タブレット端末・携帯音楽プレイヤーなどを持たせる場合



#### ●お子様に機器を持たせる前に設定する

保護者の目が届かないところで、お子様がインターネットを利用する可能性がある場合には、どんなときでもお子様の安全を守ることができるよう、フィルタリングや閲覧制限・課金制限などのペアレンタルコントロール機能を積極的に利用しましょう。

タブレット端末や携帯音楽プレイヤーの中には、インターネットに接続してスマートフォンと似たようなアプリやサービスを利用できるものもあります。お子様がどのような場所・環境で、どのようなサービスを利用しているかご存知ですか? 無線LAN回線(Wi-Fiなど)の利用などについて、普段の会話の中で確認しておきましょう。

#### ●コミュニティサイトの利用を通じて被害を受けた青少年のうち、9割以上がフィルタリング未加入です。

平成21年以降、毎年1,000人を超える児童が青少年保護育成条例違反などの福祉犯の被害に遭っています。引き続き、保護者や関係機関・団体による青少年保護の取組が必要です。(警察庁「コミュニティサイトに起因する児童被害の事犯に係る調査結果について」などより)



## 4 チェックシートで保護者の役割を確認しましょう。

お子様が安全に安心してインターネットを利用するために保護者ができることを、もう一度確認しましょう。

### 3つのポイント チェックを入れて確認してみましょう。

- 発達段階に応じて、
- トラブルや事件に巻き込まれないよう、適切にインターネットを利用させましょう。
  - 適切な生活習慣が身につけられるように、家庭のルールをお子様と一緒に作りましょう。
  - 保護者の目の届かないところでもお子様を見守れるように、フィルタリングなどを設定しましょう。

### ● お子様を見守りましょう

- 使い始めはお子様と一緒にインターネットを利用しながら、インターネットを適切に利用するための知識・技術、情報モラルやコミュニケーション能力をそれぞれ身につけさせましょう。また、「初期設定」は必ず保護者が行いましょう。
- 日頃のお子様の行動や判断能力などから、インターネットを「使いこなす力」がどの程度身につけているのか見極めましょう。
- お子様の成長に合わせて、持たせる機器や利用できるサービスの範囲を広げると、インターネットを利用させる環境を段階的に整えていきましょう。
- お子様がどのようなサービスを使いたいのか話を聞いて、一緒に利用してみましょう。お子様の方が詳しい場合でも、使い方を教ったりしながら見守ることが大切です。特に、見知らぬ人とのコミュニケーションが生じるサービスの利用には注意が必要です。

### ● お子様と会話をしましょう

- お子様と顔を合わせて、適切な生活習慣を身につけられるように、普段の出来事やインターネットの使い方について会話をしましょう。また、保護者の心配な点を伝え、お子様自身に考えさせてみましょう。
- 表情を見ながら会話をすることで、学校に行きたがらないなど過度の利用で寝不足になっている、いじめ・トラブル・犯罪に巻き込まれて落ち込んでいるなど、お子様の「サイン」を見つけることが大切です。

### ● 利用者情報や課金などについて

- 迷惑メールや架空請求メールなど、不明なサイトはクリックせずに、すぐに相談するように伝えましょう。
- アプリを利用する際には、プライバシーポリシーなどを読み、取得される利用者情報の範囲や目的などをよく確認しましょう。また、意図せずに、電話帳情報や位置情報(GPS)などの利用者情報が送信されないよう、機器やアプリのプライバシー設定を適切に変更しましょう。
- フィルタリングなどの設定に必要なパスワードは保護者が確実に管理しましょう。
- 保護者のクレジットカードを無断で使うことはできません。ゲームなどの課金について、お子様と話し合しましょう。



## 5 まずは、身近な人に気軽に相談してみましょう。

### ● お子様を見守りましょう。

流行りのツールを使っていないと仲間はずれになるのではないかなど、保護者の心配の種は尽きません。身近な保護者の間で、不安に思っている事や子供が何に関心を持っているか、またトラブルの例などを、日頃から話題にするようにしましょう。

「夜はメールやメッセージのやり取りは控える」など子供達同士でルールを作らせたり、困った時に保護者同士で気軽に相談できる雰囲気をつくるなど、地域、学校、学級、保護者間で連携して取り組むことで防げるトラブルもたくさんあります。

### ● 専門機関も有効に活用しましょう。

- 学校関係者やウェブサイト運営者などからインターネット上の違法・有害情報などに関する相談を受け付ける窓口です。  
**違法・有害情報相談センター** (業務委託元:総務省)  
<http://www.ihaho.jp/>
- インターネット利用者からインターネット上の違法・有害情報に関する通報を受け付ける窓口です。  
**インターネット・ホットラインセンター** (業務委託元:警察庁)  
<http://www.internethotline.jp/>  
**セーフライン** (一般社団法人セーフラインインターネット協会)  
<http://www.safe-line.jp/>
- 保護者や子どもからの相談を電話またはメールにより受け付けている警察の窓口です。都道府県の少年相談窓口(ヤングテレホンコーナーなど)又は最寄りの警察署まで相談してください。  
警察庁ホームページ ⇒ お知らせ ⇒ 各種相談などがある方に ⇒ 都道府県警察の少年相談窓口について  
**各都道府県の少年相談窓口**  
<http://www.npa.go.jp/higaisya/shien/torikumi/madoguchi.htm>

### ● 適切な設定は機器の購入時などに確認しましょう。

フィルタリングやペアレンタルコントロール機能の利用方法・設定などがわからない場合は、インターネット接続機器の購入時やプロバイダサービスの加入時に、相談窓口などで必ず確認して、適切な「初期設定」を行ってからお子様に機器を持たせましょう。また、購入・加入後に、設定変更などがわからない場合にも、相談窓口などで確認しましょう。

青少年インターネット環境整備法第18条において、インターネット接続事業者(プロバイダ)は利用者から、フィルタリングサービスを求められた場合は提供する義務があります。



- 商品やサービスなど消費生活全般に関する苦情や問合せなど、消費者からの相談を専門の相談員が受け付け、公正な立場で処理にあっている消費生活センターなどの窓口です。  
**消費者ホットライン** 電話 0570-064-370
- インターネット上の人権侵害に関する相談を受け付ける窓口です。  
**法務局の人権相談窓口(みんなの人権110番)**  
電話 0570-003-110

人権相談

検索



違法・有害  
情報相談センター



インターネット  
ホットラインセンター



セーフライン



各都道府県の  
少年相談窓口

### ○最新のニュースや、ソーシャルメディアの利用に関するルール作りなどを確認しましょう。

安心ネットづくり促進協議会(安心協)は、企業、団体、有識者が連携して、青少年の安全安心なインターネット利用を推進する非営利団体です。

ソーシャルメディアガイドラインの作り方のポイントなど、様々なコンテンツがご覧いただけます。

<http://good-net.jp/>

安心協

スマートフォンは  
こちらから

検索







# 親の見守りは、最強のフィルタリングです。



子どものこと「わかっていますか？ 見えていますか？ 寄り添っていますか？」

## 親だからできること!!

### 子どものトラブル・問題行動

<b>ネット依存</b> 	<b>出会い系被害</b> 	<b>架空請求</b> 	<b>裸の写真送信</b> 	<b>悪ふざけ投稿</b> 	<b>ネットいじめ</b> 
------------------	-------------------	-----------------	-------------------	-------------------	-------------------

使い始めが肝心です

「家族で携帯電話やゲーム機等について話し合おう!!」

携帯電話やスマートフォン又は携帯ゲーム・音楽機器など、インターネットを通じて、様々な世界(サイト)とつながっています。

その中には、子ども達にとって非常に危険な世界があります。



## 有害サイトをブロック!!

子ども達を守るためにフィルタリング機能を活用しましょう!

- 1 各携帯電話会社のフィルタリングサービス  
子どもに携帯電話を持たせる場合、契約時に相談しましょう。
- 2 市販のソフトウェアやプロバイダのサービス
- 3 一部のゲーム機器には、フィルタリング機能がついています



# ..... 親にしかできないこと!! .....

ポイント  
1

## 親子で話し合おう!

子どものスマートフォンやゲーム機等の使い方やルールについて、家族で話し合い、「安全に」「正しく」「楽しく」使いましょう。

利用時間・場所、利用するアプリやサイトなどを、親が一方的に決めるのではなく、お互いが納得したルール作りを行うなど、日頃からコミュニケーションを深めて楽しく利用できるようにしましょう。また、利用状況を確認しましょう。



ポイント  
2

## 子どもを守ろう!

有害情報をブロックする「フィルタリング」サービスを活用しましょう。

子どもを有害情報から守るためには、フィルタリングサービスの利用が有効です。子どもの年齢や、使用目的に合わせて細かく設定することができます。



ポイント  
3

## 親が知ろう!

「子どもを信用している」は当たり前! ですが、我が子の携帯電話等の利用状況について知っておくことは大切です。放任とならぬよう「親として知るべきことは知る」努力をしましょう。

フィルタリングを「知らない」「利用していない」保護者に理由を聞くと、「我が子は変なことはしない」「信用している」「必要ない」「知らなかった」と言った声がかかります。「何も知らない」ことが一番「危険」なのです。



子どもにケータイを持たせる前に、親子で話し合ってルールを決めましょう!

### ■ ルールの例

- フィルタリングをはずさない
- 人を傷つける書き込みはしない
- 危険なサイトにアクセスしない
- ネット上で知り合った人と会わない
- むやみに個人情報や写真を公開しない
- 架空請求やいやがらせ、脅迫等を受けたら必ず相談する
- 1日の使用時間を決める(1日〇時間や夜〇時以降使用しない)
- 自転車に乗っているときはケータイを使わない

### ■ ルールづくりのポイント

- 1 危険性を子どもとともに理解し、ルールづくりの必要性を伝える!
- 2 一方的なルールにならないように、必ず子どもと話し合いながら決める!
- 3 ルールを決めて終わりではなく、きちんと守られているか確認する!

## 相談窓口

いじめ・不登校・子育てなどの悩み

いじめ相談テレフォン  
(島根県教育委員会)

☎ 0120-874-371

☎ 0120-779-110

月～金 / 9:00～19:00  
土・日・祝日 / 10:00～17:00

いじめ・体罰など

子どもの人権110番  
(松江地方広域児童相談所・児童相談所協議会)

☎ 0120-007-110

月～金 / 8:30～17:15

子どもや子育ての悩み

子どもと家庭  
電話相談室  
(島根県)

☎ 0120-258-641

9:00～21:30  
※祝日・年末年始を除く

さまざまな悩みや心の危機など

島根いのちの電話  
(社会福祉法人島根いのちの電話)

TEL.0852-26-7575

TEL.0570-783-556

月～金 / 9:00～22:00  
土・日 / 土曜9:00～翌日曜22:00  
※年中無休

子どもや保護者の悩みや困りごと

ヤングテレホン/  
けいさつ・いじめ110番  
(島根県警察本部)

☎ 0120-786-719

※24時間対応



平成27年7月1日(水)から  
児童相談所全国共通ダイヤルが3桁の番号になります。



※一部のIP電話からはつながりません。※通話料がかかります。

子どもたちや子育てに悩む保護者の  
S O S の声をいちはやくキャッチ！

虐待かも  
と思ったら  
いちはやく  
189番へ

189番にかけると  
お近くの児童相談所につながります。



出産や子育てに関する悩みや疑問がある方は、  
児童相談所・市町村へお気軽にご相談ください。

- 連絡は匿名で行うことも可能です。連絡者や連絡内容に関する秘密は守られます。
- 0570-064-000でもお近くの児童相談所につながります。



# 児童虐待をなくし、子どもたちの笑顔を守るため、 覚えやすい3桁の番号になりました。

児童相談所全国共通ダイヤル



お近くの児童相談所につながります。

※一部のIP電話からはつながりません。  
※通話料がかかります。

## こんなときにはすぐお電話ください。



## 児童虐待とは…

### 身体的虐待

なく 殴る、蹴る、叩く、投げ落とす、激しく揺さぶる、やけどを負わせる、おぼ 溺れさせる など

### 性的虐待

子どもへの性的行為、性的行為を見せる、ポルノグラフィの被写体にする など

### ネグレクト

家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車の中に放置する、重い病気になっても病院に連れて行かない など

### 心理的虐待

言葉による脅し、無視、きょうだい間での差別的扱い、  
子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう(ドメスティック・バイオレンス:DV) など

お近くの児童相談所は

全国児童相談所一覧

検索



厚生労働省

## 各委員会名簿

### 【学習プログラム開発】

開発アドバイザー		所 属 等	備 考
1	肥 後 功 一	島根県いじめ等対応アドバイザー 島根大学教授	

実践アドバイザー		所 属 等	備 考
1	伊 藤 紀 子	松江市 親学ファシリテーター	
2	佐 伯 直 子	安来市 子育てボランティア「キラ☆キッズ」	(平成25・26年度)
3	原 田 智 子	安来市 子育てボランティア「キラ☆キッズ」	(平成27年度)
4	三 成 圭 寿	出雲市 親学ファシリテーター	
5	古 居 妃 佐 子	雲南市 親学ファシリテーター	
6	上 部 美 智 子	浜田市 親学ファシリテーター	
7	幸 増 千 世	大田市 仁摩公民館 主事	
8	植 田 紘 司	江津市 教育委員会社会教育課 主任	
9	金 山 峰 子	邑南町 親学ファシリテーター	
10	永 田 千 秋	益田市 親学ファシリテーター	
11	中 村 孝 志	隠岐の島町 教育委員会 派遣社会教育主事	

ワーキンググループ		所 属 等	備 考
1	山 崎 創	教育庁義務教育課子ども安全支援室 指導主事	(平成25年度)
2	野 田 寛 志	教育庁教育指導課子ども安全支援室 指導主事	(平成26・27年度)
3	宮 阪 敏 章	中央児童相談所相談支援課 課長	(平成25年度)
4	竹 崎 尋	健康福祉部青少年家庭課 児童・家庭相談支援スタッフ	(平成26・27年度)
5	岩 谷 宏 一	浜田児童相談所判定保護課 課長(児童心理専門員)	
6	坂 本 育 美	出雲児童相談所判定保護課 主任児童心理司	
7	神 本 史 生	警察本部生活安全部少年女性対策課 課長補佐	(平成25・26年度)
8	原 孝 悦	警察本部生活安全部少年女性対策課 課長補佐	(平成27年度)
9	村 尾 隆 晃	教育庁人権同和教育課 社会教育主事	(平成25・26年度)
10	勝 部 雅 之	教育庁人権同和教育課 社会教育主事	(平成27年度)

### 【事業推進】

推進委員会		所 属 等	備 考
1	安 部 隆	島根県市町村教育長会(代表) 奥出雲町教育委員会教育長	社会教育関係者
2	岡 本 修 治	島根県公民館連絡協議会(代表) 浜田市立雲城公民館長	社会教育関係者
3	荊 尾 玲 子	島根県小学校長会(代表) 安来市立母里小学校長	学校教育関係者(平成25・26年度)
4	角 真 理	島根県小学校長会(代表) 松江市立来待小学校長	学校教育関係者(平成27年度)
5	金 津 五 美	島根県PTA連合会(代表) 松江市PTA連合会	家庭教育支援関係者(平成25・26年度)
6	三 澤 和 枝	島根県PTA連合会(代表) 仁多部PTA連合会	家庭教育支援関係者(平成26年度)
7	佐 々 木 功	島根県PTA連合会(代表) 江津市PTA連合会	家庭教育支援関係者(平成27年度)
8	酒 井 眞 知 子	島根県保育協議会(代表) 邑南町 市木保育園長	家庭教育支援関係者(平成25・26年度)
9	杠 佳 子	島根県保育協議会(代表) 松江市 恵曇保育所長	家庭教育支援関係者(平成27年度)
10	佐々木 勝二	島根県中学校長会(代表) 浜田市立第三中学校長	学校教育関係者(平成25年度)
11	藤 井 伸 治	島根県中学校長会(代表) 美郷町立大和中学校長	学校教育関係者(平成26・27年度)
12	佐 野 洋 子	島根県国公立幼稚園長会(代表) 出雲市立塩冶幼稚園長	学校教育関係者(平成25・26年度)
13	佐 藤 恭 子	島根県国公立幼稚園・こども園長会(代表) 出雲市立四絡幼稚園長	学校教育関係者(平成27年度)
14	高 橋 憲 二	学校法人広瀬学園 島根総合福祉専門学校理事	学識経験者推進委員会委員長
15	辻 ま ゆ み	島根県民生児童委員協議会(代表) 大田市主任児童委員	福祉関係者(平成25年度)
16	肥 塚 由 美 子	島根県民生児童委員協議会(代表) 浜田市主任児童委員	福祉関係者(平成26・27年度)
17	森 脇 建 二	島根県経営者協会 専務理事	企業関係者

事務局		所 属 等	備 考
1	金 築 聡	東部社会教育研修センター 所長	(平成25年度)
2	佐 藤 操	東部社会教育研修センター 所長	(平成26・27年度)
3	三 瓶 暁	西部社会教育研修センター 所長	(平成25年度)
4	狩 野 正 夫	西部社会教育研修センター 所長	(平成26・27年度)
5	布 野 正 吾	東部社会教育研修センター 総務課長(兼西部センター)	(平成25年度)
6	後 藤 守 弘	東部社会教育研修センター 総務課長(兼西部センター)	(平成26・27年度)
7	浅 津 誠 二	東部社会教育研修センター 企画員(兼西部センター)	
8	日 野 伸 哉	東部社会教育研修センター 研修調査課長 社会教育主事	
9	古 田 真 一 朗	東部社会教育研修センター 社会教育主事	(平成25・26年度)
10	古 藤 康 則	東部社会教育研修センター 社会教育主事	(平成27年度)
11	青 山 征 司	東部社会教育研修センター 社会教育主事	
12	青 山 節 美	東部社会教育研修センター 嘱託	
13	山 本 浩 樹	西部社会教育研修センター 社会教育主事	(平成25・26年度)
14	松 原 聡	西部社会教育研修センター 社会教育主事	(平成27年度)
15	花 田 健 司	西部社会教育研修センター 社会教育主事	
16	家 田 ゆ か り	西部社会教育研修センター 嘱託	
17	横 田 輝 昭	教育庁社会教育課 社会教育主事	(平成25年度)
18	大 森 伸 一	教育庁社会教育課 社会教育主事	(平成26年度)
19	水 浦 千 晃	教育庁社会教育課 社会教育主事	(平成27年度)
20	永 井 宏 昌	健康福祉部青少年家庭課 企画幹(併教育庁社会教育課)	(平成25年度)
21	林 和 博	健康福祉部青少年家庭課 企画幹(併教育庁社会教育課)	(平成26・27年度)

ご意見・ご感想等ございましたらご連絡ください。

【お問い合わせ先】

島根県立東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町 1991-2

電話 (0853) 67-9060

FAX (0853) 69-1380

E-mail [tobu\\_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp](mailto:tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp)

島根県立西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町 1826-1

電話 (0855) 24-9344

FAX (0855) 24-9345

E-mail [seibu\\_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp](mailto:seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp)